

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部等連係課程実施基本組織の設置（学部の設置）									
フリガナ設置者	コクリツガクホジシン クマモトガク 国立大学法人 熊本大学									
フリガナ大学の名称	クマモトガク 熊本大学 (Kumamoto University)									
大学本部の位置	熊本県熊本市中央区黒髪二丁目39番1号									
大学の目的	<p>1. 教育 個性ある創造的人材を育成するために、学部から大学院まで一貫した理念のもとに総合的な教育を行う。学部では、幅広く深い教養、国際的対話力、情報化への対応能力及び主体的な課題探求能力を備えた人材を育成する。大学院では、学部教育を基盤に、人間と自然への深い洞察に基づく総合的判断力と国際的に通用する専門知識・技能とを身につけた高度専門職業人を育成する。また、社会に開かれた大学として、生涯を通じた学習の場を積極的に提供する。</p> <p>2. 研究 高度な学術研究の中核としての機能を高め、最先端の創造的な学術研究を積極的に推進するとともに、人類の文化遺産の豊かな継承・発展に努める。また、総合大学の特徴を活かして、人間、社会、自然の諸科学を総合的に深化させ、学際的な研究を推進することにより、人間と環境の共生及び社会の持続可能な発展に寄与する。</p> <p>3. 地域貢献・国際貢献 地方中核都市に位置する国立大学として地域との連携を強め、地域における研究中核の機能及び指導的人材の養成機能を果たす。世界に開かれた情報拠点として、世界に向けた学術文化の発信に努めることにより、地域の産業の振興と文化の向上に寄与する。また、知的国際交流を積極的に推進するとともに留学生教育に努め、双方向的な国際交流の担い手の育成を目指す。</p>									
新設学部等の目的	地球規模の視野と地域の視点で考え行動し、共生共創する地域をデザインできる課題発見・設定・解決型人材並びに社会イノベーションを創出する人材を養成することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	共創学環	4年	80人	-	320人	学士（学術）	文学関係、工学関係	令和8年4月第1年次	熊本市中央区黒髪2丁目40-1	学部等連係課程実施基本組織等
	連係協力学部（Ⅰ） 文学部									
	人文学科	4	170	-	680	学士（文学）	文学関係	令和8年4月第1年次	熊本市中央区黒髪2丁目40-1	令和7年7月届出予定
	人文学科から共創学環の内数とする入学定員数		10	-	40					
	連係協力学部（Ⅱ） 法学部			3年次						
	法学科	4	210 [10]	10	860 [40]	学士（法学）	法学関係	平成16年4月第1年次	熊本市中央区黒髪2丁目40-1	[ ]の数字は、情報融合学環の内数とする入学定員数
	法学科から共創学環の内数とする入学定員数		10	-	40					
	連係協力学部（Ⅲ） 理学部									
	理学科	4	200 [10]	-	800 [40]	学士（理学）	理学関係	平成16年4月第1年次	熊本市中央区黒髪2丁目39-1	[ ]の数字は、情報融合学環の内数とする入学定員数
理学科から共創学環の内数とする入学定員数		10	-	40						
連係協力学部（Ⅳ） 工学部			3年次							
土木建築学科	4	137 [6]	10	568 [24]	学士（工学）	工学関係	平成30年4月第1年次	熊本市中央区黒髪2丁目39-1	[ ]の数字は、情報融合学環の内数とする入学定員数	
土木建築学科から共創学環の内数とする入学定員数		13	-	52						

機械数理工学科	4	119 [7]	10	496 [28]	学士（工学）	工学関係	平成30年4月 第1年次	熊本市中央区黒髪 2丁目39-1	[ ]の数字は、情報融合学環の内数とする入学定員数
機械数理工学科から共創学環の内数とする入学定員数		11	-	44					
情報電気工学科	4	145 [20]	20	620 [80]	学士（工学）	工学関係	平成30年4月 第1年次	熊本市中央区黒髪 2丁目39-1	[ ]の数字は、情報融合学環の内数とする入学定員数
情報電気工学科から共創学環の内数とする入学定員数		13	-	52					
材料・応用化学科	4	142 [7]	5	578 [28]	学士（工学）	工学関係	平成30年4月 第1年次	熊本市中央区黒髪 2丁目39-1	[ ]の数字は、情報融合学環の内数とする入学定員数
材料・応用化学科から共創学環の内数とする入学定員数		13	-	52					
半導体デバイス工学課程	4	20	20	120	学士（工学）	工学関係	令和6年4月 第1年次	熊本市中央区黒髪 2丁目39-1	
半導体デバイス工学課程から共創学環の内数とする入学定員数		0	-	0					
教育学部									
共同教員養成課程	4	140	-	560	学士（教育学）	教育学・保育学関係	令和8年4月 第1年次	熊本市中央区黒髪 2丁目40-1	令和7年7月届出予定
養護教諭養成課程	4	30	-	120	学士（教育学）	教育学・保育学関係	令和8年4月 第1年次	熊本市中央区黒髪 2丁目40-1	令和7年7月届出予定
計		-	-	-					

同一設置者内における変更（定員の移行、名称の変更等）	文学部								
	人文科学科 (170) (令和7年7月届出予定)								
	総合人間学科 (廃止) (△55) ※令和8年4月学生募集停止								
	歴史学科 (廃止) (△35) ※令和8年4月学生募集停止								
	文学科 (廃止) (△50) ※令和8年4月学生募集停止								
	コミュニケーション情報学科 (廃止) (△30) ※令和8年4月学生募集停止								
	(3年次編入学定員) [定員減] (△10) ※令和8年4月学生募集停止								
	教育学部								
	共同教員養成課程 (140) (令和7年7月届出予定)								
	養護教諭養成課程 (30) (令和7年7月届出予定)								
	学校教育教員養成課程 (廃止) (△220) ※令和8年4月学生募集停止								
	工学部								
	土木建築学科 [定員増] (13) (令和8年4月)								
	機械数理工学科 [定員増] (11) (令和8年4月)								
	情報電気工学科 [定員増] (13) (令和8年4月)								
	材料・応用化学科 [定員増] (13) (令和8年4月)								

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
		講義	演習	実験・実習	計	
	共創学環	157科目	84科目	0科目	241科目	124単位

学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)
	教授	准教授	講師	助教	計		
新 学部等連係課程実施基本組織 共創学環	人	人	人	人	人	人	人
連係協力学部 (I) 文学部 人文科学科							
連係協力学部 (II) 法学部 法学科							
連係協力学部 (III) 理学部 理学科	<6> [5] (12)	<11> [0] (12)	<1> [0] (1)	<1> [0] (1)	<19> [5] (26)	<0> [0] (0)	231 (231)
連係協力学部 (IV) 工学部 土木建築学科 機械数理工学科 情報電気工学科 材料・応用化学科 半導体デバイス工学課程							
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	<6> [5] (12)	<11> [0] (12)	<1> [0] (1)	<1> [0] (1)	<19> [5] (26)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a)に該当する者を除く	<0> [0] (0)	<0> [0] (0)	<0> [0] (0)	<0> [0] (0)	<0> [0] (0)		

(注)  
<>の中の数は共創学環（学部等連係課程実施基本組織）のみに従事する基幹教員。  
[ ]の中の数は共創学環（学部等連係課程実施基本組織）と連係協力学部等を兼ねる教員の数。  
大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 11人

	小計 (a～b)	<6> 【5】 (12)	<11> 【0】 (12)	<1> 【0】 (1)	<1> 【0】 (1)	<19> 【5】 (26)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a、b又はcに該当する者を除く)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)		
	計 (a～d)	<6> 【5】 (12)	<11> 【0】 (12)	<1> 【0】 (1)	<1> 【0】 (1)	<19> 【5】 (26)		
設	文学部 人文科学科	18 【1】 (23)	27 【0】 (27)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	45 【1】 (50)	0 (0)	254 (254)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	18 【1】 (23)	27 【0】 (27)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	45 【1】 (50)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計 (a～b)	18 【1】 (23)	27 【0】 (27)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	45 【1】 (50)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計 (a～d)	18 【1】 (23)	27 【0】 (27)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	45 【1】 (50)		
	教育学部 共同教員養成課程	16 (20)	32 (32)	1 (1)	0 (0)	49 (53)	0 (0)	217 (217)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	16 (20)	32 (32)	1 (1)	0 (0)	49 (53)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計 (a～b)	16 (20)	32 (32)	1 (1)	0 (0)	49 (53)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計 (a～d)	16 (20)	32 (32)	1 (1)	0 (0)	49 (53)			
養護教諭養成課程	4 (5)	3 (3)	0 (1)	0 (0)	7 (9)	0 (0)	257 (257)	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (5)	3 (3)	0 (1)	0 (0)	7 (9)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計 (a～b)	4 (5)	3 (3)	0 (1)	0 (0)	7 (9)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計 (a～d)	4 (5)	3 (3)	0 (1)	0 (0)	7 (9)			
分	計	<6> 【5】 (55)	<11> 【0】 (74)	<1> 【0】 (3)	<1> 【0】 (38)	<19> 【5】 (133)	- (-)	- (-)
既	法学部 法学科	11 【2】 (15)	18 【0】 (18)	2 【0】 (2)	0 【0】 (0)	31 【2】 (35)	1 (1)	220 (220)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 【2】 (15)	18 【0】 (18)	2 【0】 (2)	0 【0】 (0)	31 【2】 (35)		

(注) 【】の中の数は共創学環(学部等連係課程実施基本組織)と兼ねる教員の数。

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人

令和7年7月届出予定

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人

令和7年7月届出予定

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人

令和7年7月届出予定

(注) 【】の中の数は情報融合学環と兼ねる基幹教員の数。

b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	11 [2] (15)	18 [0] (18)	2 [0] (2)	0 [0] (0)	31 [2] (35)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	11 [2] (15)	18 [0] (18)	2 [0] (2)	0 [0] (0)	31 [2] (35)		
<b>理学部 理学科</b>	22 [1] (29)	27 [0] (28)	1 [0] (1)	5 [0] (5)	55 [1] (63)	0 (0)	204 (204)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	22 [1] (29)	27 [0] (28)	1 [0] (1)	5 [0] (5)	55 [1] (63)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	22 [1] (29)	27 [0] (28)	1 [0] (1)	5 [0] (5)	55 [1] (63)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	22 [1] (29)	27 [0] (28)	1 [0] (1)	5 [0] (5)	55 [1] (63)		
<b>医学部 医学科</b>	57 [0] (71)	36 [1] (38)	44 [0] (47)	151 [0] (153)	288 [1] (309)	0 (0)	236 (236)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	57 [0] (71)	36 [1] (38)	44 [0] (47)	151 [0] (153)	288 [1] (309)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	57 [0] (71)	36 [1] (38)	44 [0] (47)	151 [0] (153)	288 [1] (309)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	57 [0] (71)	36 [1] (38)	44 [0] (47)	151 [0] (153)	288 [1] (309)		
<b>保健学科看護学専攻</b>	6 (6)	4 (5)	3 (3)	9 (9)	22 (23)	0 (0)	236 (236)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	4 (5)	3 (3)	9 (9)	22 (23)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	6 (6)	4 (5)	3 (3)	9 (9)	22 (23)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	6 (6)	4 (5)	3 (3)	9 (9)	22 (23)		
<b>保健学科放射線技術科学専攻</b>	5 (5)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	236 (236)

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 12人

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 13人

(注)  
[]の中の数は情報融合学環と兼ねる基幹教員の数。

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 105人

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人

設

a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	9 (9)	/	/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	5 (5)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	9 (9)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	5 (5)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	9 (9)		
<b>保健学科検査技術科学専攻</b>	5 (6)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	10 (11)	0 (0)	236 (236)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (6)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	10 (11)	/	/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	5 (6)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	10 (11)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	5 (6)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	10 (11)		
<b>薬学部 薬学科</b>	11 (11)	12 (12)	3 (3)	2 (2)	28 (28)	0 (0)	236 (236)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 (11)	12 (12)	3 (3)	2 (2)	28 (28)	/	/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	11 (11)	12 (12)	3 (3)	2 (2)	28 (28)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	11 (11)	12 (12)	3 (3)	2 (2)	28 (28)		
<b>創薬・生命薬科学科</b>	6 (7)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	12 (13)	0 (0)	236 (236)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (7)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	12 (13)	/	/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	6 (7)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	12 (13)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	6 (7)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	12 (13)		
<b>工学部 土木建築学科</b>	12 【3】 (17)	12 【0】 (12)	0 【0】 (0)	6 【0】 (6)	30 【3】 (35)	0 (0)	234 (234)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	12 【3】 (17)	12 【0】 (12)	0 【0】 (0)	6 【0】 (6)	30 【3】 (35)	/	/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	12 【3】 (17)	12 【0】 (12)	0 【0】 (0)	6 【0】 (6)	30 【3】 (35)		

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 17人

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人

(注) 【】の中の数は共創学環（学部等連携課程実施基本組織）と兼ねる教員の数。

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人

c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	12 【3】 (17)	12 【0】 (12)	0 【0】 (0)	6 【0】 (6)	30 【3】 (35)			
機械数理工学科	12 [2] (14)	6 [0] (9)	0 [0] (0)	7 [0] (7)	25 [2] (30)	0 (0)	239 (239)	(注) []の中の数は情報融合学環と兼ねる基幹教員の数。
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	12 [2] (14)	6 [0] (9)	0 [0] (0)	7 [0] (7)	25 [2] (30)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 7人
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	12 [2] (14)	6 [0] (9)	0 [0] (0)	7 [0] (7)	25 [2] (30)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	12 [2] (14)	6 [0] (9)	0 [0] (0)	7 [0] (7)	25 [2] (30)			
情報電気工学科	13 [3] (20)	13 [3] (16)	0 [0] (0)	5 [3] (8)	31 [9] (44)	0 (0)	224 (224)	(注) []の中の数は情報融合学環と兼ねる基幹教員の数。
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	13 [3] (20)	13 [3] (16)	0 [0] (0)	5 [3] (8)	31 [9] (44)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	13 [3] (20)	13 [3] (16)	0 [0] (0)	5 [3] (8)	31 [9] (44)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	13 [3] (20)	13 [3] (16)	0 [0] (0)	5 [3] (8)	31 [9] (44)			
材料・応用化学科	12 (16)	13 (15)	0 (0)	11 (11)	36 (42)	0 (0)	221 (221)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	12 (16)	13 (15)	0 (0)	11 (11)	36 (42)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	12 (16)	13 (15)	0 (0)	11 (11)	36 (42)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	12 (16)	13 (15)	0 (0)	11 (11)	36 (42)			
半導体デバイス工学課程	57※ [1] (68)※	48※ [0] (52)※	0※ [0] (0)※	32※ [0] (32)※	137※ [1] (152)※	0 (0)	225 (225)	(注) ※は、工学部土木建築学科、機械数理工学科、情報電気工学科、材料・応用化学科と兼ねる基幹教員の数
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	57※ [1] (68)※	48※ [0] (52)※	0※ [0] (0)※	32※ [0] (32)※	137※ [1] (152)※			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	57※ [1] (68)※	48※ [0] (52)※	0※ [0] (0)※	32※ [0] (32)※	137※ [1] (152)※			[]の中の数は情報融合学環と兼ねる

	小計 (a～b)	57※ [1] (68)※	48※ [0] (52)※	0※ [0] (0)※	32※ [0] (32)※	137※ [1] (152)※			基幹教員の数。
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 30人
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計 (a～d)	57※ [1] (68)※	48※ [0] (52)※	0※ [0] (0)※	32※ [0] (32)※	137※ [1] (152)※			
	学部等連係課程実施基本組織 情報融合学環	<4> [8] (12)	<3> [4] (8)	<1> [0] (1)	<4> [3] (7)	<12> [15] (28)	0 (0)	225 (225)	(注) <>の中の数は学部等連係課程実施基本組織のみに従事する基幹教員11の中の数は連係協力学部と兼る基幹教員の数。
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	<4> [8] (12)	<3> [4] (8)	<1> [0] (1)	<4> [3] (7)	<12> [15] (28)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計 (a～b)	<4> [8] (12)	<3> [4] (8)	<1> [0] (1)	<4> [3] (7)	<12> [15] (28)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 11人
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計 (a～d)	<4> [8] (12)	<3> [4] (8)	<1> [0] (1)	<4> [3] (7)	<12> [15] (28)			
分	計	<4> [4] (172) (222)	<3> [4] (146) (162)	<1> [0] (57) (61)	<4> [3] (202) (211)	<12> [15] (577) (656)	- (-)	- (-)	
	合 計	233 (277)	226 (236)	60 (64)	210 (212)	729 (789)	- (-)	- (-)	
	職 種	専 属		そ の 他		計			
	事 務 職 員	448 (448)			455 (455)		903 (903)		人
	技 術 職 員	99 (99)			314 (314)		413 (413)		人
	図 書 館 職 員	7 (7)			0 (0)		7 (7)		
	そ の 他 の 職 員	1205 (1205)			807 (807)		2012 (2012)		
	指 導 補 助 者	0 (0)			0 (0)		0 (0)		
	計	1759 (1759)			1576 (1576)		3335 (3335)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地	514,776㎡	623㎡	0㎡		515,399㎡			放送大学熊本学習センターとの共用 623㎡ 地上権設定者：財団法人熊本テクノポリス財団 地上権設定期間：H29.9.1から3年間 19,945㎡ 貸与者：熊本市 借用期間：H29.4.1からH30.3.31 (以降、毎年度更新) 494㎡ 貸与者：益城町 借用期間：H30.10.1からH32.9.30 (以降、毎年度更新) 331㎡
	そ の 他	144,293㎡	0㎡	0㎡		144,293㎡			
	合 計	659,069㎡	623㎡	0㎡		659,692㎡			
校 舎	専 用	464,523㎡	0㎡	1,112㎡		465,635㎡			放送大学熊本学習センターの専用 1,112㎡
	( 464,523㎡)	( 0㎡)	( 1,112㎡)		( 465,635㎡)				
教 室 ・ 教 員 研 究 室	教 室		1446 室	教 員 研 究 室		808 室		大学全体	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		機械・器具 点	標本 点	学部等単位での特定不能のため、大学全体の数	
		冊	電子図書 〔うち外国書〕	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕				
			1,326,394 [545,241]		69,426 [68,115]	38,551 [22,962]	17,031 [15,706]		67,684 (67,684)
共創学環	1,326,394 [545,241]	69,426 [68,115]	38,551 [22,962]	17,031 [15,706]	67,684 (67,684)	35 (35)			
計	1,326,394 [545,241]	69,426 [68,115]	38,551 [22,962]	17,031 [15,706]	67,684 (67,684)	35 (35)			
スポーツ施設等		スポーツ施設		講堂		厚生補導施設		大学全体	
		22,045 m <sup>2</sup>		-m <sup>2</sup>		18,255 m <sup>2</sup>			
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費（運営費交付金）による
	教員1人当り研究費等		-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
	共同研究費等		-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
	図書購入費	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
	設備購入費	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		該当なし							
大学等の名称		熊本大学							
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
文学部	年	人	年次人	人		倍		熊本市中央区黒髪2丁目40-1	
総合人間学科	4	55	10	220	学士(文学)	1.08 《1.02》	平成17年度		
歴史学科	4	35		140	学士(文学)	1.09 《1.05》	平成17年度		
文学科	4	50		200	学士(文学)	1.04 《0.97》	平成17年度		
コミュニケーション情報学科	4	30		120	学士(文学)	1.30 《1.19》	平成17年度		
教育学部								熊本市中央区黒髪2丁目40-1	令和4年度入学定員減(△10人)
学校教育教員養成課程	4	220	-	880	学士(教育学)	1.05	令和4年度		令和4年度より学生募集停止
小学校教員養成課程	4	-	-	-	学士(教育学)	-	平成24年度		
中学校教員養成課程	4	-	-	-	学士(教育学)	-	平成24年度		
特別支援教育教員養成課程 養護教諭養成課程	4	-	-	-	学士(教育学)	-	平成19年度 昭和52年度		
法学部								熊本市中央区黒髪2丁目40-1	令和6年度から情報融合学環(学部等連係課程実施基本組織)に入学定員10名を活用
法学科	4	210	10	860	学士(法学)	1.04 《1.00》	平成16年度		
理学部								熊本市中央区黒髪2丁目39-1	令和6年度から情報融合学環(学部等連係課程実施基本組織)に入学定員10名を活用
理学科	4	200	-	800	学士(理学)	1.09 《1.03》	平成16年度		
医学部								熊本市中央区本荘1丁目1-1	令和7年度臨時定員増(4人)
医学科	6	109	-	665	学士(医学)	1.06 《1.02》	昭和24年度		
保健学科	4	144	16	608	学士(看護学), 学士(保健学)	1.01 《0.98》	平成15年度	熊本市中央区九品寺4丁目24-1	
薬学部								熊本市中央区大江本町5-1	
薬学科	6	55	-	330	学士(薬学)	1.06 《1.03》	平成18年度		
創薬・生命薬科学科	4	35	-	140	学士(創薬科学), 学士(生命薬科学)	1.11 《1.07》	平成18年度		
工学部								熊本市中央区黒髪2丁目39-1	令和6年度から情報融合学環(学部等連係課程実施基本組織)に入学定員6名を活用
土木建築学科	4	124	10	516	学士(工学)	1.10 《1.04》	平成30年度		

既設大学等の状況	機械数理工学科	4	108	10	457	学士（工学）	1.13 《1.05》	平成30年度		令和6年度から情報融合学環（学部等連係課程実施基本組織）に入学定員7名を活用、令和6年度入学生定員減（△1人）、令和6年度3年次編入学生定員減（△2人）
	情報電気工学科	4	132	20	634	学士（工学）	1.11 《1.04》	平成30年度		令和6年度から情報融合学環（学部等連係課程実施基本組織）に入学定員20名を活用、令和6年度入学生定員減（△17人）、3年次編入学生定員減（△15人）
	材料・応用化学科	4	129	5	535	学士（工学）	1.07 《1.02》	平成30年度		令和6年度から情報融合学環（学部等連係課程実施基本組織）に入学定員7名を活用、令和6年度入学生定員減（△2人）、3年次編入学生定員減（△3人）
	半導体・デバイス工学課程	4	20	20	80	学士（工学）	1.13	令和6年度		
	情報融合学環	4	60	—	120	学士（情報学）	1.11	令和6年度	熊本市中央区黒髪2丁目39-1	
	大学院教育学研究科（専門職学位課程） 教職実践開発専攻	2	30	—	60	教職修士（専門職）	1.10	令和2年度	熊本市中央区黒髪2丁目40-1	
	大学院社会文化科学教育部（博士前期課程） 法政・紛争解決学専攻	2	14	—	25	修士（法学）， 修士（公共政策学）， 修士（学術）	1.43 1.76	平成31年度	熊本市中央区黒髪2丁目40-1	
	現代社会人間学専攻	2	18	—	36	修士（文学）， 修士（法学）， 修士（学術）	1.14	平成20年度		
	文化学専攻	2	18	—	36	修士（文学）， 修士（学術）	1.17	平成20年度		
	教授システム学専攻 （博士後期課程） 人間・社会科学専攻	2 3	15 6	—	30 18	修士（教授システム学）， 修士（学術） 博士（文学）， 博士（法学）， 博士（公共政策学）， 博士（学術）	1.83 1.31 1.50	平成20年度		
	文化学専攻	3	6	—	18	博士（文学）， 博士（学術）	0.50	平成20年度		
	教授システム学専攻	3	3	—	9	博士（学術）	2.56	平成20年度		
	大学院自然科学研究科（博士後期課程） 情報電気電子工学専攻	3	—	—	—	博士（工学）， 博士（学術）	—	平成18年度	熊本市中央区黒髪2丁目39-1	平成30年度より学生募集停止
	大学院自然科学教育部（博士前期課程） 理学専攻	2	110	—	220	修士（理学）， 修士（学術）	1.07 0.89	平成30年度	熊本市中央区黒髪2丁目39-1	
	土木建築学専攻	2	75	—	150	修士（工学）， 修士（学術）	1.39	平成30年度		
	機械システム工学専攻	2	55	—	55	修士（工学）， 修士（学術）	1.18	令和7年度		
	機械数理工学専攻	2	—	—	—	修士（工学）， 修士（学術）	—	平成30年度		平成30年度より学生募集停止
	電気電子工学専攻	2	63	—	63	修士（工学）， 修士（学術）	0.95	令和7年度		
	情報電気工学専攻	2	—	—	—	修士（工学）， 修士（学術）	—	平成30年度		平成30年度より学生募集停止
	材料・応用化学専攻	2	90	—	180	修士（工学）， 修士（学術）	1.12	平成30年度		
	半導体・情報数理工学専攻	2	120	—	120	修士（工学）， 修士（情報学）	0.93	令和7年度		

(博士後期課程) 理学専攻	3	12	—	36	博士(理学), 博士(学術)	0.94 1.00	平成30年度	熊本市中央区本荘 1丁目1-1	
工学専攻	3	24	—	116	博士(工学), 博士(学術)	1.03	平成30年度		
半導体・情報数理専攻	3	22	—	22	博士(工学), 博士(情報学)	0.36	令和7年度		
大学院医学教育部 (修士課程) 医科学専攻	2	20	—	40	修士(医科学), 修士(健康生命科学)	0.90	平成15年度		
(博士課程) 医学専攻	4	88	—	352	博士(医学), 博士(生命科学), 博士(健康生命科学)	1.12	平成20年度		
大学院保健学教育部 (博士前期課程) 保健学専攻	2	24	—	48	修士(保健学), 修士(看護学)	0.85	平成22年度		熊本市中央区九品寺4 丁目24-1
(博士後期課程) 保健学専攻	3	6	—	18	博士(保健学), 博士(看護学)	1.28	平成22年度		
大学院薬学教育部 (博士前期課程) 創薬・生命薬科学専攻	2	35	—	70	修士(薬科学), 修士(健康生命科学)	0.97	平成22年度		熊本市中央区大江本町 5-1
(博士後期課程) 創薬・生命薬科学専攻	3	10	—	30	博士(薬科学), 博士(生命科学), 博士(健康生命科学)	1.63	平成24年度		
(博士課程) 医療薬学専攻	4	8	—	32	博士(薬学)	0.91	平成24年度		
<p>名称：教育学部附属幼稚園 目的：附属学校は、教育基本法及び学校教育法に規定する教育又は保育を行うとともに、教育学部の教育計画に従って、次に掲げる事項を行うことを目的とする。 (1) 教育理論及び教育の実践に関する研究並びにその実証を行うこと。 (2) 教育学部学生の教育実習の実施及びその指導に当たること。 (3) 地方の教育に協力すること。 所在地：熊本県熊本市中央区城東町5番9号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地 4,632㎡ 建物 1,199㎡</p> <p>名称：教育学部附属小学校 目的：附属幼稚園に同じ 所在地：熊本県熊本市中央区京町本町5番12号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地 51,547㎡ 建物 7,282㎡</p> <p>名称：教育学部附属中学校 目的：附属幼稚園に同じ 所在地：熊本県熊本市中央区京町本町5番12号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地 51,547㎡ 建物 5,885㎡</p> <p>名称：教育学部附属特別支援学校 目的：附属幼稚園に同じ 所在地：熊本県熊本市中央区黒髪5丁目17番1号 設置年月：昭和40年4月 規模等：土地 26,375㎡ 建物 4,164㎡</p> <p>名称：病院 目的：診療を通して医学の教育及び研究に資することを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区本荘1丁目1番1号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地 82,463㎡ 建物 111,388㎡</p> <p>名称：大学院生命科学研究部附属グローバル天然物科学研究センター 目的：薬用植物資源を活用した教育及び研究を行い、薬学の視点に立った環境問題への取組を通して、薬学の発展を図ることを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区大江本町5番1号 設置年月：平成22年4月 規模等：土地 51,264㎡ 建物 340㎡</p>									

附属施設の概要

<p>名称：発生医学研究所</p> <p>目的：発生学の視点から様々な生命現象を解明し、医学に貢献することを目指す発生医学の研究活動を、分子、細胞、組織、器官、個体へと連続する観点から、統合的に推進することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区本荘2丁目2番1号</p> <p>設置年月：平成21年4月</p> <p>規模等：土地 25,088㎡ 建物 6,293㎡</p>
<p>名称：産業ナノマテリアル研究所</p> <p>目的：未来材料“二次元マテリアル”を核として理論から産業実装化を目指した世界に類のない研究所として、新たな研究領域への展開、および産業振興・地域活性化を推進することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号</p> <p>設置年月：令和2年4月</p> <p>規模等：土地 115,176㎡ 建物 4,356㎡</p>
<p>名称：ヒトレトロウイルス学共同研究センター</p> <p>目的：世界的課題である難治性ウイルス（HIV-1、HTLV-1、HBV及びその他の関連するウイルスをいう。）感染症について、本学と鹿児島大学の強みを統合することで、両大学が有する資源を有効に活用し、感染病態の基礎研究を基に、感染予防と治癒を目指した世界的・全学的な研究及び教育の総合的推進を図ることを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区本荘2丁目2番1号</p> <p>設置年月：平成31年4月</p> <p>規模等：土地 25,088㎡ 建物 2,165㎡</p>
<p>名称：研究開発戦略本部</p> <p>目的：研究から研究成果の社会実装までの一貫した研究サポート・マネジメントを行うことにより、熊本大学の研究力の向上を図るとともに、地域課題の解決に貢献することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号</p> <p>設置年月：令和7年4月</p> <p>規模等：土地 115,176㎡ 建物 5,362㎡</p>
<p>名称：グローバル推進機構</p> <p>目的：グローバル戦略の企画立案を行い、教育研究における国際交流を推進するとともに、グローバル人材の育成及び地域社会のグローバル化に貢献することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号</p> <p>設置年月：平成27年3月</p> <p>規模等：土地 169,619㎡ 建物 2,078㎡</p>
<p>名称：大学教育統括管理運営機構</p> <p>目的：教養教育を含む学士課程教育及び大学院課程教育の理念及び目的が達成されるよう、大学教育を統括するとともに教養教育の円滑な運営・実施及び戦略的な入学者選抜の企画・立案を行うことを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号</p> <p>設置年月：平成28年6月</p> <p>規模等：土地 169,619㎡ 建物 427㎡</p>
<p>名称：先進軽金属材料国際研究機構</p> <p>目的：富山大学と連携し、リソースの有効活用と相互補完によるマグネシウム・アルミニウム研究の強化、チタン研究の育成、マグネシウム・アルミニウム・チタンの融合研究の促進および軽金属モノづくり高度人材育成を図り、日本の科学技術と産業の発展に貢献することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号</p> <p>設置年月：令和3年4月</p> <p>規模等：土地 115,176㎡ 建物 2,431㎡</p>
<p>名称：半導体・デジタル研究教育機構</p> <p>目的：熊本大学における半導体分野及びデータサイエンスを含むデジタルトランスフォーメーション分野の研究教育機能を集約することにより、各分野の研究の高度化及び高度な知見を有する人材の育成を図り、もって地域産業の強靱化に資することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号</p> <p>設置年月：令和5年4月</p> <p>規模等：土地 115,176㎡ 建物 10,639㎡</p>
<p>名称：国際先端医学研究機構</p> <p>目的：国際的な先端医学研究、人材発掘及び人材育成を行い、本学の生命科学分野の基礎研究から臨床応用並びに国際レベルの研究力及び教育力の向上を図ることを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区本荘2丁目2番1号</p> <p>設置年月：平成27年4月</p> <p>規模等：土地 25,088㎡ 建物 982㎡</p>

<p>名称：キャンパスミュージアム推進機構</p> <p>目的：熊本大学の各キャンパスにおいて保有する歴史的・文化的な展示資料・施設の全学的な連携により、重要文化財等の効果的な展示及び情報発信の強化を図り、キャンパス全体のミュージアム化を推進することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号</p> <p>設置年月：令和6年4月</p> <p>規模等：土地 169,619㎡ 建物 2,225㎡</p>
<p>名称：永青文庫研究センター</p> <p>目的：永青文庫資料をはじめとする熊本藩関係資料の総合的な研究を通じて当該資料に立脚した拠点的研究を組織するとともに、文化行政機関等との連携によって地域文化振興に貢献することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号</p> <p>設置年月：平成29年4月</p> <p>規模等：土地 169,619㎡ 建物 117㎡</p>
<p>名称：くまもと水循環・減災研究教育センター</p> <p>目的：先進的な地下水循環、沿岸環境及び減災型社会システムに関する研究を推進することで、学生及び社会人の人材育成を行うとともに、その成果を国内外に発信・展開することを通じて地域と国際社会に貢献することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号</p> <p>設置年月：平成29年4月</p> <p>規模等：土地 115,176㎡ 建物 2,410㎡</p>
<p>名称：先進マグネシウム国際研究センター</p> <p>目的：我が国のマグネシウム研究を牽引し、マグネシウム合金に関する世界的研究拠点として、地域のみならず、我が国さらには世界の科学技術の発展及び産業の活性化に貢献することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号</p> <p>設置年月：平成23年12月</p> <p>規模等：土地 115,176㎡ 建物 2,431㎡</p>
<p>名称：生命資源研究・支援センター</p> <p>目的：遺伝子改変動物その他の研究資源及びこれらの研究資源情報の利用等をとおり、諸科学分野の教育研究の総合的推進に資することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区本荘2丁目2番1号</p> <p>設置年月：平成15年4月</p> <p>規模等：土地 25,088㎡ 建物 15,322㎡</p>
<p>名称：環境安全センター</p> <p>目的：環境管理及び安全管理に係る教育研究の推進及び啓発を図ることにより、良好な教育研究環境及び教育研究活動等における職員、学生等の安全を確保することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号</p> <p>設置年月：平成18年4月</p> <p>規模等：土地 169,619㎡ 建物 477㎡</p>
<p>名称：埋蔵文化財調査センター</p> <p>目的：本学に所在する遺跡を発掘調査するとともに、出土した埋蔵文化財を記録、研究、保存及び活用することを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号</p> <p>設置年月：平成23年10月</p> <p>規模等：土地 115,176㎡ 建物 514㎡</p>
<p>名称：保健センター</p> <p>目的：学生及び職員の保健管理に関する専門的業務を一体的に行い、心身の健康の保持増進を図ることを目的とする。</p> <p>所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号</p> <p>設置年月：平成16年4月</p> <p>規模等：土地 169,619㎡ 建物 579㎡</p>

熊本大学 設置申請に係わる組織の移行表

令和7年度(2025年度)	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度(2026年度)	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
熊本大学 文学部				熊本大学 文学部				
		3年次				3年次		
				人文科学科	170	-	680	学科の設置(事前相談) 共創学環の内数【10】
総合人間学科	55	-	220		0	-	0	令和8年4月学生募集停止
歴史学科	35	-	140		0	-	0	令和8年4月学生募集停止
文学科	50	-	200		0	-	0	令和8年4月学生募集停止
コミュニケーション情報学科 (学部共通)	30	-	120		0	-	0	令和8年4月学生募集停止
	-	10	20		-	0	0	令和8年4月学生募集停止
教育学部				教育学部				
				共同教員養成課程	140	-	560	学科の設置(事前相談)
学校教育教員養成課程	220	-	880	養護教諭養成課程	30	-	120	学科の設置(事前相談)
					0	-	0	令和8年4月学生募集停止
法学部				法学部				
		3年次				3年次		
法学科	210	10	860	法学科	210	10	860	情報融合学環の内数【10】 共創学環の内数【10】
理学部				理学部				
				理学科	200	-	800	情報融合学環の内数【10】 共創学環の内数【10】
理学科	200	-	800					
医学部				医学部				
医学科(6年制)	109	-	659	医学科(6年制)	105	-	630	医学部臨時定員に伴う収 容定員変更(△4)
保健学科	144	16	608	保健学科	144	16	608	
薬学部				薬学部				
薬学科(6年制)	55	-	330	薬学科(6年制)	55	-	330	
創薬・生命薬科学科	35	-	140	創薬・生命薬科学科	35	-	140	
工学部				工学部				
		3年次				3年次		
土木建築学科	124	10	516	土木建築学科	137	10	568	定員変更(13) 情報融合学環の内数【6】 共創学環の内数【13】
機械数理工学科	108	10	452	機械数理工学科	119	10	496	定員変更(11) 情報融合学環の内数【7】 共創学環の内数【11】
情報電気工学科	132	20	568	情報電気工学科	145	20	620	定員変更(13) 情報融合学環の内数【20】 共創学環の内数【13】
材料・応用化学科	129	5	526	材料・応用化学科	142	5	578	定員変更(13) 情報融合学環の内数【7】 共創学環の内数【13】
半導体デバイス工学課程	20	20	120	半導体デバイス工学課程	20	20	120	
情報融合学環	【60】		【240】	情報融合学環	【60】		【240】	
				共創学環	【80】		【320】	学部等連係課程実施基本 組織の設置 (事前相談)
計	1,656	101	7,159	計	1,652	91	7,110	
熊本大学大学院 教育学研究科 教職実践開発専攻(P)				熊本大学大学院 教育学研究科 教職実践開発専攻(P)				
	30	-	60		30	-	60	
社会文化科学教育部				社会文化科学教育部				
法政・紛争解決学専攻(M)	14	-	25	法政・紛争解決学専攻(M)	14	-	25	
現代社会人間学専攻(M)	18	-	36	現代社会人間学専攻(M)	18	-	36	
文化学専攻(M)	18	-	36	文化学専攻(M)	18	-	36	
教授システム学専攻(M)	15	-	30	教授システム学専攻(M)	15	-	30	
人間・社会科学専攻(D)	6	-	18	人間・社会科学専攻(D)	6	-	18	
文化学専攻(D)	6	-	18	文化学専攻(D)	6	-	18	
教授システム学専攻(D)	3	-	9	教授システム学専攻(D)	3	-	9	
自然科学教育部				自然科学教育部				
理学専攻(M)	110	-	220	理学専攻(M)	110	-	220	
土木建築学専攻(M)	75	-	150	土木建築学専攻(M)	75	-	150	
機械システム工学専攻(M)	55	-	110	機械システム工学専攻(M)	55	-	110	
電気電子工学専攻(M)	63	-	126	電気電子工学専攻(M)	63	-	126	
材料・応用化学専攻(M)	90	-	180	材料・応用化学専攻(M)	90	-	180	
半導体・情報数理工専攻(M)	120	-	240	半導体・情報数理工専攻(M)	120	-	240	
理学専攻(D)	12	-	36	理学専攻(D)	12	-	36	
工学専攻(D)	24	-	72	工学専攻(D)	24	-	72	
半導体・情報数理工専攻(D)	22	-	66	半導体・情報数理工専攻(D)	22	-	66	
医学教育部				医学教育部				
医科学専攻(M)	20	-	40	医科学専攻(M)	20	-	40	
医学専攻(4年制D)	88	-	352	医学専攻(4年制D)	88	-	352	
保健学教育部				保健学教育部				
保健学専攻(M)	24	-	48	保健学専攻(M)	24	-	48	
保健学専攻(D)	6	-	18	保健学専攻(D)	6	-	18	
薬学教育部				薬学教育部				
創薬・生命薬科学専攻(M)	35	-	70	創薬・生命薬科学専攻(M)	35	-	70	
創薬・生命薬科学専攻(D)	10	-	30	創薬・生命薬科学専攻(D)	10	-	30	
医療薬学専攻(4年制D)	8	-	32	医療薬学専攻(4年制D)	8	-	32	
計	872	-	2,022	計	872	-	2,022	

教育課程等の概要

(共創学環)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手以外の教員)		
外国語科目 基礎科目	必修外国語科目(既修)	英語A-1	1前・後		1				○		1	2					11	
		英語A-2	1前・後		1				○		1	2					13	
		英語B-1	1前・後		1				○			2	1				14	
		英語B-2	1前・後		1				○		1	3					11	
		英語e	1前・後		1				○		1	1					6	
		英語C-1	2前		1				○		1	2					14	
		英語C-2	2後		1				○		1	2					7	
	必修外国語科目(初修)	ドイツ語A-1	1前			1			○								3	選択必修
		ドイツ語A-2	1後			1			○								2	選択必修
		ドイツ語B-1	1前			1			○								2	選択必修
		ドイツ語B-2	1後			1			○								2	選択必修
		フランス語A-1	1前			1			○								2	選択必修
		フランス語A-2	1後			1			○								2	選択必修
		フランス語B-1	1前			1			○								1	選択必修
		フランス語B-2	1後			1			○								1	選択必修
		中国語A-1	1前			1			○								6	選択必修
		中国語A-2	1後			1			○								6	選択必修
		中国語B-1	1前			1			○								4	選択必修
		中国語B-2	1後			1			○								4	選択必修
		コリア語A-1	1前			1			○			1					1	選択必修
		コリア語A-2	1後			1			○			1					1	選択必修
	コリア語B-1	1前			1			○			1					1	選択必修	
	コリア語B-2	1後			1			○			1					1	選択必修	
	日本語A-1	1・2前			1			○			1							
	日本語A-2	1・2前・後			1			○			1							
	日本語B-1	1・2前			1			○									1	
	日本語B-2	1・2後			1			○									1	
日本語D-1	1・2前			1			○			2								
日本語D-2	1・2後			1			○			2								
自由選択外国語科目	ドイツ語Ⅰ-1	1前			1			○								1		
	ドイツ語Ⅰ-2	1後			1			○								1		
	ドイツ語Ⅱ-1	2前			1			○								1		
	ドイツ語Ⅱ-2	2後			1			○								1		
	フランス語Ⅰ-1	1前			1			○								1		
	フランス語Ⅰ-2	1後			1			○								1		
	フランス語Ⅲ-1	2前			1			○								1		
	フランス語Ⅲ-2	2後			1			○								1		
	中国語Ⅰ-1	1前			1			○								1		
	中国語Ⅰ-2	1後			1			○								1		
	コリア語Ⅰ-1	1前			1			○								1		
	コリア語Ⅰ-2	1後			1			○								1		
	コリア語Ⅱ-1	2前			1			○								1		
	コリア語Ⅱ-2	2後			1			○								1		
	コリア語Ⅲ-1	2前			1			○			1							
	コリア語Ⅲ-2	2後			1			○			1							
	ロシア語Ⅰ-1	1前			1			○								1		
	ロシア語Ⅰ-2	1後			1			○								1		
	ラテン語Ⅰ-1	1前			1			○								1		
	ラテン語Ⅰ-2	1後			1			○								1		
	スペイン語Ⅰ-1	1前			1			○								1		
	スペイン語Ⅰ-2	1後			1			○								1		
	スペイン語Ⅱ-1	2前			1			○								1		
	スペイン語Ⅱ-2	2後			1			○								1		
	ヘブライ語Ⅰ-1	1前			1			○								1		
	ヘブライ語Ⅰ-2	1後			1			○								1		
	イタリア語Ⅰ-1	1前			1			○								1		
	イタリア語Ⅰ-2	1後			1			○								1		
	日本語Ⅰ-2	1・2前・後			1			○				2						
	日本語Ⅱ-2	1・2前・後			1			○				1						
日本語Ⅲ-1	1・2前			1			○				1							
日本語Ⅲ-2	1・2前・後			1			○				2							
日本語Ⅳ-1	1前			1			○									1		
日本語Ⅳ-2	1・2前・後			1			○				1							
小計(63科目)		—	—	7	56	0	—	—	—	2	6	1	0	0	49			

情報科目	ICTリテラシー	1前		2			○								7
	DSリテラシー	1後		2			○								7
	小計 (2科目)	—	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	7
リベラルアーツ科目	文系のための数学入門	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								2
	数学の世界	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								2
	物理学入門	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								7
	教養の化学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								3
	生物の世界	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○		1						8
	地球環境の現状と人類	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								1
	持続可能な都市と地域づくり	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								1
	豊かさを持続させるものづくり	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								2
	日々の生活に垣間見る情報と通信	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								2
	倫理学入門	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								2
	心と世界	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								1
	思考と論理	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								1
	現代心理行動学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○			1					2
	こころの科学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								1
	芸術文化論	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								1
	文学の諸相	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								3
	モノが語る歴史	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								4
	地域の世界史	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								4
	日本社会の歴史	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								3
	法学の基礎	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								5
	現代政治の諸相	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								3
	最前線の社会文化研究	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○			1					7
	現代社会の解読	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○								3
	自然と人間の地理学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2		○			1					2
小計 (24科目)	—	—	0	24~48	0	—			3	1	0	0	0	70	

教養教育

教養科目	現代教養科目	数学と文化	1・2前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○																				2		
		物理学の世界	1・2前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○																					1	
		暮らしと化学	1・2前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○																						3
		化学と環境	1・3前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○																						3
		最先端の生命科学	1・4前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○																						5
		地球環境科学の最前線	1・5前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○																						6
		地域づくりと科学技術	1・6前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○				2																		2
		ものづくりの科学と技術	1・7前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○																						6
		暮らしと情報・通信技術	1・8前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○																						3
		健康の科学	1・9前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○																						2
		病気の医科学	1・10前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○																						2
		臨床医学の最前線	1・11前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○																						2
		現代社会と医学	1・12前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○																						1
		心身の健康と看護	1・2前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○																						3
		医療における理工学	1・2前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○																						1
		現代の医学検査	1・2前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○																						1
		現代医療と生命科学	1・2前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○																						2
		薬科学入門	1・2前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○																						2
		現代社会と薬学	1・2前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○																						2
		現代教育について考える	1・2前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○																						7
		心理学の探求	1・2前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○																						1
		芸術への招待	1・2前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○																						2
		現代と言語	1・2前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○																						2
		現代と文学	1・2前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○																						2
		現代世界の形成と課題	1・2前・後・ ①・②・③・ ④	1又は2	○																						2

	最先端の法学	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○										1	
	現代社会と経済	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○										5	
	現代の政治	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○										2	
	学際科目	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○			1							2	
	小計 (29科目)	—	—	0	29~58	0	—			2	1	0	0	0	0		75	
M u l t i d i s c i p l i n a r y  S t u d i e s	Introduction to Science and Technology I	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○			1	1						1	
	Introduction to Science and Technology II	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○			1								
	Socio-Cultural Studies	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○			1	1	1					1	
	Area Studies	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○			1	1						1	
	Comprehensive English Communication	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○				1							
	Global Career Development	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○				1							
	小計 (6科目)	—	—	0	6~12	0	—			1	0	1	1	0	0		2	
キ ャ リ ア 科 目	キャリア科目	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○			1							6	
	小計 (1科目)	—	—	0	1又は2	0	—			1	0	0	0	0	0		6	
開 放 科 目	開放科目	1・2前・後・ ①・②・③・ ④			1又は2		○										6	
	小計 (1科目)	—	—	0	1又は2	0	—			0	0	0	0	0	0		6	
ツ ス 体 科 科 目 目 学 学 目 目	体育・スポーツ科学a	1・2①・②・ ③・④			1		○										5	
	小計 (1科目)	—	—	0	1	0	—			0	0	0	0	0	0		5	
共 創 基 盤 科 目	プレゼンテーション入門	1前・後	○	1			○				1							
	共創キャリアデザイン	1前・後	○	2			○				1							
	クリティカルシンキング入門	2前・後	○	2			○				1							
	リーダーシップスキル	2前・後	○	1			○					1						
	共創実践論 I	1前・後	○	1			○			1	1						共同	
	共創実践論 II	1前・後	○	1			○			1	1						共同	
	共創企業戦略論 I	2前・後	○	1			○			1	1						共同	
	共創企業戦略論 II	2前・後	○	1			○			1	1						共同	
	地域再生論	2前・後	○	2			○			1								
	経済地理学	2前・後	○	2			○			1								
	社会課題解決のためのデータサイエンス 基礎	1前・後	○	2				○		1							2	共同
	小計 (11科目)	—	—	16	0	0	—			3	3	0	1	0	0		2	
共 創 プ ロ ジ ェ ク ト 科 目	共創プロジェクト演習 I	1前	○	2			○			7	10	1	1				共同	
	共創プロジェクト演習 II	1後	○	2			○			7	10	1	1				共同	
	共創プロジェクト演習 III	2前	○	2			○			7	10	1	1				共同	
	共創プロジェクト演習 IV	2後	○	2			○			7	10	1	1				共同	
	地域共創プロジェクト演習	3通	○		6		○			4	2						共同、選択必修	
	グローバル共創プロジェクト演習	3通	○		6		○			3	8	1	1				共同、選択必修	
	地域共創プロジェクト研究	4通	○		8		○			4	2						共同、選択必修	
	グローバル共創プロジェクト研究	4通	○		8		○			3	8	1	1				共同、選択必修	
	小計 (8科目)	—	—	8	28	0	—			7	10	1	1	0	0		0	
デ ー タ サイ ー	ビジネス統計学	2前・後	○		2		○			1							選択必修	
	社会課題解決のためのデータサイエンス 応用	2前・後	○		2		○			1							2	共同、選択必修
	グローバルコラボレーションとAIテク ノロジー	3前・後	○		2		○				1						選択必修	
	デジタル・グリーン・トランスフォー メーション	3前・後	○		2		○			1							選択必修	
	企業から学ぶICT・DX活用論	3前・後	○		2		○			1							選択必修	
	データマイニング	2前・後			2		○										2	共同、選択必修
	防災・減災学	2前・後	○		2		○			1							選択必修	
	安全学	2前・後	○		2		○				1						1	選択必修
生物資源学	3前・後			1		○				1							1	選択必修

エ ン ス ・ 自 然 科 学 ・ 生 命 科 学 系	バイオテクノロジー	3前・後			1		○				1							選択必修
	バイオ循環型グリーンテクノロジー	2前・後			2		○			1								選択必修
	グリーンケミストリー	2前・後			2		○			1								選択必修
	社会インフラメンテナンス学	3前・後			2		○										1	選択必修
	水環境管理論	3前・後			2		○										2	オムニバス、選択必修
	地域デザイン学	2前・後			2		○										1	選択必修
	アーバンプランニング	3前・後			2		○										1	選択必修
	くまもと流域圏の自然と生物多様性	2前・後	○		2		○				1							
	山・川・海の自然と環境・災害問題	2前・後			2		○											1
	地球システム学	3前・後			2		○											1
	地球環境科学	3前・後			2		○											1
	地球史	3前・後			2		○											1
	生物多様性学Ⅰ	3前・後			1		○											1
	生物多様性学Ⅱ	3前・後			1		○											1
	グローバルヘルスとウェルビーイング	2前・後			2		○							1				
技術と共に探る地域健康デザイン	2前・後			1		○											1	
小計(25科目)		—	—	0	45	0	—			5	1	0	1	0			15	
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 系	社会科学方法論	3前・後	○		2		○				1							
	ポジティブ心理学	2前・後	○		2		○				1							
	コミュニティー心理学	3前・後	○		2		○				1							
	ディベート学Ⅰ	2前・後	○		2		○				1							
	ディベート学Ⅱ	3前・後	○		2		○				1							
	ダイアログ実践Ⅰ	2前・後	○		2		○			1								
	ダイアログ実践Ⅱ	3前・後	○		2		○			1								
	社会調査法	2前・後			2		○				1							
	紛争解決・平和構築概論	2前・後			2		○					1						
	紛争解決・平和構築実践論	3前・後			2		○					1						
	コミュニケーションとジェンダー	3前・後			2		○				1							
	文化進化論	3前・後			2		○				1							
	クリティカル・インシデント	2前・後			2		○				1							
	情報生態系とメディア	2前・後			2		○				1							
	総合実践英語Ⅰ	2前・後			2			○			1							
	総合実践英語Ⅱ	2前・後			2			○			1		1					
	総合実践中国語	2前・後			2			○				1						
	総合実践韓国語	2前・後			2			○				1						
	研究法入門	3前・後			2		○					1						
	日英・英日翻訳演習	2前・後			2			○				1						
	コミュニケーション論	2前・後			2			○				1						
	心理学概論	2前・後			2			○										1
	コミュニケーション特論	3前・後			2			○			1							
小計(23科目)		—	—	0	46	0	—		3	8	1	0	0	0			1	
経 営 ・ 経 済 ・ 公 共 政 策 系	地域経済論	2前・後	○		2		○			1								1
	ローカルイノベーション育成論Ⅰ	2前・後	○		1		○			1	1							
	ローカルイノベーション育成論Ⅱ	2前・後	○		2		○			1	1							
	経営戦略論	2前・後	○		2		○			1								
	マーケティング論	2前・後	○		2		○			1								
	消費者行動論	2前・後	○		2		○			1								
	コーポレートガバナンス論	3前・後			2		○											1
	与信会計論	3前・後			2		○											1
	アート思考演習	2前・後			2			○										1
	マーケティング・リサーチ	3前・後			2		○											1
	サービスマーケティング	3前・後			2		○											1
	環境経済論	3前・後			2		○											1
	地域政策	3前・後			2		○											1
	地方財政	3前・後			2		○											1
	経済政策	3前・後			2		○											1
	国際経済論	3前・後			2		○											1
	行政学Ⅰ	3前・後			2		○											1
	行政学Ⅱ	3前・後			2		○											1
	社会保障法Ⅰ	3前・後			2		○											1
	社会保障法Ⅱ	3前・後			2		○											1
	地域社会学概論Ⅰ	2前・後			2		○											1
	地理学概論	2前・後			2		○				1							
	自然地理学Ⅰ	3前・後			2		○											1
	地理調査法概説	3前・後			2		○				1							
	自然地理学Ⅱ	3前・後			2		○											1
	経営・マーケティング特論	3前・後			2		○				1							
小計(26科目)		—	—	0	51	0	—		3	1	0	0	0	0			11	
多	グローバル・チーム・ダイナミクス	2前・後	○		2		○					1						
	多文化社会と日本	3前・後	○		2		○						1					
	韓国現代文化論	2前・後	○		2		○				1				1			
	日韓比較文化論	3前・後	○		2		○				1							
	現代台湾研究	2前・後	○		2		○				1							
	台湾の文化と社会	3前・後	○		2		○				1							
	日本語日本文学入門	3前・後			2		○											1
	中国語圏文化論	3前・後			2		○											1
	英語圏文化論	3前・後			2		○											1



教 育 課 程 等 の 概 要																
(連係協力学部：文学部総合人間学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員 ( 助 手 を 除 く)
	英語A-1	1前・後		1					○						13	
	英語A-2	1前・後		1					○						15	
	英語B-1	1前・後		1					○						15	
	英語B-2	1前・後		1					○						16	
	英語e	1前・後		1					○						9	
	英語C-1	2前		1					○						17	
	英語C-2	2後		1					○						10	
	ドイツ語A-1	1前			1				○						3	選択必修
	ドイツ語A-2	1後			1				○						2	選択必修
	ドイツ語B-1	1前			1				○						3	選択必修
	ドイツ語B-2	1後			1				○						3	選択必修
	ドイツ語C-1	2前			1				○						3	選択必修
	ドイツ語C-2	2後			1				○						3	選択必修
	フランス語A-1	1前			1				○						1	選択必修
	フランス語A-2	1後			1				○						1	選択必修
	フランス語B-1	1前			1				○						1	選択必修
	フランス語B-2	1後			1				○						1	選択必修
	フランス語C-1	2前			1				○						2	選択必修
	フランス語C-2	2後			1				○						2	選択必修
	中国語A-1	1前			1				○						5	選択必修
	中国語A-2	1後			1				○						5	選択必修
	中国語B-1	1前			1				○						4	選択必修
	中国語B-2	1後			1				○						4	選択必修
	中国語C-1	2前			1				○						2	選択必修
	中国語C-2	2後			1				○						2	選択必修
	コリア語A-1	1前			1				○						2	選択必修
	コリア語A-2	1後			1				○						2	選択必修
	コリア語B-1	1前			1				○						1	選択必修
	コリア語B-2	1後			1				○						1	選択必修
	コリア語C-1	2前			1				○						1	選択必修
	コリア語C-2	2後			1				○						1	選択必修
	日本語A-1	1・2前			1				○						1	
	日本語A-2	1・2前・後			1				○						1	
	日本語B-1	1・2前			1				○						1	
	日本語B-2	1・2後			1				○						1	
	日本語D-1	1・2前			1				○						2	
	日本語D-2	1・2後			1				○						2	
	ドイツ語 I-1	1前			1				○						1	
	ドイツ語 I-2	1後			1				○						1	
	ドイツ語 II-1	2前			1				○						1	
	ドイツ語 II-2	2後			1				○						1	
	フランス語 I-1	1前			1				○						1	
	フランス語 I-2	1後			1				○						1	
	フランス語 III-1	2前			1				○						1	
	フランス語 III-2	2後			1				○						1	
	中国語 I-1	1前			1				○						1	
	中国語 I-2	1後			1				○						1	
	コリア語 I-1	1前			1				○						1	
	コリア語 I-2	1後			1				○						1	
	コリア語 II-1	2前			1				○						1	
	コリア語 II-2	2後			1				○						1	
	ロシア語 I-1	1前			1				○						1	
	ロシア語 I-2	1後			1				○						1	
	ラテン語 I-1	1前			1				○						1	
	ラテン語 I-2	1後			1				○						1	
	スペイン語 I-1	1前			1				○						1	
	スペイン語 I-2	1後			1				○						1	
	スペイン語 II-1	2前			1				○						1	
	スペイン語 II-2	2後			1				○						1	
	ヘブライ語 I-1	1前			1				○						1	
	ヘブライ語 I-2	1後			1				○						1	
	イタリア語 I-1	1前			1				○						1	
	イタリア語 I-2	1後			1				○						1	



教養科目	地域づくりと科学技術	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○			1					4	
	ものづくりの科学と技術	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								6	
	暮らしと情報・通信技術	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								3	
	健康の科学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								2	
	病気の医科学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								2	
	臨床医学の最前線	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								2	
	現代社会と医学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								1	
	心身の健康と看護	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								3	
	医療における理工学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								1	
	現代の医学検査	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								1	
	現代医療と生命科学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								2	
	薬科学入門	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								2	
	現代社会と薬学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								2	
	現代教育について考える	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								5	
	心理学の探求	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○		1							
	芸術への招待	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								2	
	現代と言語	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								2	
	現代と文学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								1	
	現代世界の形成と課題	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								1	
	現代社会と経済	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								5	
	現代の政治	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								2	
	学際科目	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								3	
	M u l t i S d i u s c i p l i n a r y	Introduction to Science and Technology I	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								3
		Introduction to Science and Technology II	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								1
		Socio-Cultural Studies	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								5
		World History	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								1
		Area Studies	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								4
Comprehensive English Communication		1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								1	
Global Career Development		1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○								1	
ボ ー テ ィ コ 目 ス コ ス 学	体育・スポーツ科学a	1・2①・②・③・④			1		○							5	
キャリア科目	キャリア科目	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○							6		
開放科目	開放科目	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2	○							6		
小計 (62科目)		-	-	0	62~123	0	-		8	5	0	0	0	143	
教 職	ボ ー テ ィ コ 目 ス コ ス 学	体育・スポーツ科学b	1・2①・②・③・④		1		○							6	

1 科目	日本国憲法 科目	暮らしの中の憲法	1・2前・後		2	○									2		
	小計 (2科目)		-	-	0	3	0	-	0	0	0	0	0	0	8		
専門 基礎 科目	文章作成演習		1後	○	2		○		8	6					9		
	英語コミュニケーション		2前			2		○							1		
	哲学概論 I		1前	○		2		○			1						
	心理学概論		1前	○		2		○		1							
	倫理学概論		1前	○		2		○		1							
	社会学概論		1後	○		2		○		1							
	文化人類学概論		1後	○		2		○							1		
	地域社会学概論 I		1後	○		2		○		1	1						
	民俗学概論 I		1後	○		2		○		1							
	地理学概論		1前	○		2		○		1							
	実践英語		2後			2		○							1		
	ギリシア語A		2前			2		○							1		
	ギリシア語B		2後			2		○							1		
	コリア語a		2前			2		○							1		
	コリア語b		2後			2		○							1		
	キャリア支援		2前			2		○							1		
	人間科学 コース 専門 科目	基礎 科目	人間科学基礎演習		2前	○	2		○			1					
			論理学		2前	○		2		○			1				
			哲学概論IIA		2後	○		2		○			1				
			哲学概論IIB		2後	○		2		○			1				
			哲学演習 I A		2前	○		2		○			1				
			哲学演習 I B		2後	○		2		○			1				
			知覚・認知心理学		2後	○		2		○		1					
			心理学研究法		2後	○		2		○		1					
			心理学統計法		2前	○		2		○			1				
			心理学演習 I		2後	○		2		○		1					
			哲学特殊講義A		3後			2		○			1				
			哲学特殊講義B		3後			2		○			1				
哲学特殊講義C		3前・後			2		○			1							
哲学特殊講義D		2前			2		○							1			
哲学特殊講義E		2前			2		○							1			
哲学特殊講義F		2前・後			2		○							1			
哲学特殊講義G		2前・後			2		○			1							
哲学演習IIA		3前			2		○			1							
哲学演習IIB		3後			2		○			1							
哲学演習IIC		3後			2		○			1							
哲学演習IID		3前			2		○			1							
神経・生理心理学		2前			2		○			1							
心理学特殊講義A		2前・後			2		○							1			
心理学特殊講義B		2前・後			2		○							1			
心理学特殊講義C		2前・後			2		○			1							
心理学演習IIA-1		3前			2		○		1								
心理学演習IIA-2		3後			2		○		1								
心理学演習IIA-3		3前			2		○		1								
心理学演習IIA-4		3後			2		○		1								
心理学演習IIB-1		3前			2		○			1							
心理学演習IIB-2		3後			2		○			1							
心理学演習IIB-3		3前			2		○			1							
心理学演習IIB-4		3後			2		○			1							
心理学演習IIC-1		3後			2		○		1								
心理学実験 I		3前			2		○		1								
心理学実験 II		3後			2		○		1								
人間科学上級演習A		4前			2		○			1							
人間科学上級演習B		4前			2		○			1							
社会人間学特殊講義A-I		2前			2		○		1								
社会人間学特殊講義A-II		2前			2		○							1			
社会人間学特殊講義A-III		2前・後			2		○		1								
社会人間学特殊講義A-IV		2前			2		○							1			
社会人間学特殊講義A-V		2前			2		○							1			
社会人間学特殊講義A-VI		2前			2		○							1			
社会人間学特殊講義A-VII		2前			2		○		1								
社会人間学特殊講義A-VIII		2前			2		○							1			
社会人間学特殊講義A-IX		2前			2		○							1			
社会人間学特殊講義B-I		2通			2		○		1								
社会人間学特殊講義B-II		2前			2		○							1			
社会人間学特殊講義B-III		2後			2		○		1								
社会人間学特殊講義B-IV		2前			2		○							1			
社会人間学特殊講義B-V		2後			2		○							1			
社会人間学特殊講義B-VI		2前・後			2		○			1							
課題研究 I		3前	○	2			○		7	5							
課題研究 II		3後	○	2			○		7	4							

			課題研究Ⅲ	4前	○	2			○	7	5						
			卒業論文	4通	○	8			○	4	5						
専門教育	社会人間学コース	専門科目	社会調査法概説	2前	○	2			○			1					
			社会人間学特殊講義A-I	2前	○	2			○		1						
			社会人間学特殊講義A-II	2前	○	2			○					1			
			社会人間学特殊講義A-III	2前・後	○	2			○		1						
			社会人間学特殊講義A-IV	2前	○	2			○					1			
			社会人間学特殊講義A-V	2前	○	2			○					1			
			社会人間学特殊講義A-VI	2前	○	2			○					1			
			社会人間学特殊講義A-VII	2前	○	2			○		1						
			社会人間学特殊講義A-VIII	2前	○	2			○					1			
			社会人間学特殊講義A-IX	2前	○	2			○					1			
			社会人間学特殊講義B-I	2通	○	2			○		1						
			社会人間学特殊講義B-II	2前	○	2			○					1			
			社会人間学特殊講義B-III	2後	○	2			○		1						
			社会人間学特殊講義B-IV	2前	○	2			○					1			
			社会人間学特殊講義B-V	2後	○	2			○					1			
			社会人間学特殊講義B-VI	2前・後	○	2			○				1				
			社会人間学演習	2前	○	2			○		1						
			展開科目	社会調査実習Ⅰ	3前		2				○	2					
				社会調査実習Ⅱ	3後		2				○	2					
				倫理学演習A-I	3前		2			○	1						
	倫理学演習A-II	3前			2			○	1								
	倫理学演習B-I	3前・後			2			○			1						
	倫理学演習B-II	3前			2			○			1						
	倫理学応用演習A-I	3後			2			○	1								
	倫理学応用演習A-II	3後			2			○	1								
	倫理学応用演習B-I	3後			2			○			1						
	倫理学応用演習B-II	3後			2			○			1						
	社会学演習A-I	3前			2			○	1								
	社会学演習A-II	3後			2			○	1								
	社会学演習A-III	4前			2			○	1								
	社会学演習A-IV	4後			2			○	1								
	社会学演習B-I	3前			2			○	1								
	社会学演習B-II	3後			2			○	1								
	社会学演習B-III	4前			2			○	1								
	社会学演習B-IV	4後			2			○	1								
	社会学演習C-I	3前			2			○	1								
	社会学演習C-II	3後			2			○	1								
	社会学演習C-III	4前			2			○	1								
	社会学演習C-IV	4後			2			○	1								
	現代社会分析演習	3前			2			○	1								
	文化人類学演習Ⅰ	3前			2			○	1								
	文化人類学演習Ⅱ	3後			2			○	1								
	文化人類学演習Ⅲ	3前			2			○	1								
	文化人類学演習Ⅳ	3後			2			○	1								
	文化人類学応用演習Ⅰ	3前			2			○	1								
文化人類学応用演習Ⅱ	3後			2			○	1									
文化人類学応用演習Ⅲ	3前			2			○	1									
文化人類学応用演習Ⅳ	3後			2			○	1									
社会人間学応用演習A-I	4後			2			○	1									
社会人間学応用演習A-II	4後			2			○	1									
社会人間学応用演習B	4前			2			○	1									
課題研究Ⅰ	3前	○		2			○	7			5						
課題研究Ⅱ	3後	○	2			○	7			4							
課題研究Ⅲ	4前	○	2			○	7			5							
卒業論文	4通	○	8			○	4			5							
基礎科目	社会調査法概説	2前	○	2							1						
	地理調査法概説	2後	○	2					1								
	人文地理学	2後	○	2					1								
	地域社会学概論Ⅱ	2前	○	2							1						
	民俗学概論Ⅱ	2前	○	2							1						
	基層文化論演習	2後	○	2							1						
	地域社会分析演習	2後	○	2							1						
	自然地理学Ⅰ	2前	○	2							1						
	地域文化論演習	2後	○	2					1								
	地誌学	2後	○	2										1			
	社会調査実習A1	3前	○	2					○		1						
	社会調査実習A2	3後	○	2					○		1						
	社会調査実習B1	3前	○	2					○		1						
	社会調査実習B2	3後	○	2					○		1						
	地理調査実習1	3前	○	2					○		1						
地理調査実習2	3後	○	2					○		1							
社会学演習A-I	3前		2					○		1							
社会学演習A-II	3後		2					○		1							
社会学演習A-III	4前		2					○		1							
														選択必修			
														選択必修			
														選択必修			
														選択必修			
														選択必修			

		社会学演習A-IV	4後		2		○	1								
		社会学演習B-I	3前		2		○	1								
		社会学演習B-II	3後		2		○	1								
		社会学演習B-III	4前		2		○	1								
		社会学演習B-IV	4後		2		○	1								
		社会学演習C-I	3前		2		○	1								
		社会学演習C-II	3後		2		○	1								
		社会学演習C-III	4前		2		○	1								
		社会学演習C-IV	4後		2		○	1								
		自然地理学II	3後		2		○		1							
		地域科学特殊講義A1	2後		2		○									1
		地域科学特殊講義A2	2前・後		2		○		1							
		地域科学特殊講義B1	3後		2		○	1								
		地域科学特殊講義B2	2前・後		2		○									1
		地域科学特殊講義B3	2前・後		2		○									1
		地域科学特殊講義B4	2前		2		○									1
		地域科学特殊講義C1	2前・後		2		○									1
		地域科学特殊講義C2	2前・後		2		○		1							
		社会人間学特殊講義A-I	2前		2		○	1								1
		社会人間学特殊講義A-II	2前		2		○									1
		社会人間学特殊講義A-III	2前・後		2		○	1								
		社会人間学特殊講義A-IV	2前		2		○									1
		社会人間学特殊講義A-V	2前		2		○									1
		社会人間学特殊講義A-VI	2前		2		○									1
		社会人間学特殊講義A-VII	2前		2		○	1								
		社会人間学特殊講義A-VIII	2前		2		○									1
		社会人間学特殊講義A-IX	2前		2		○									1
		社会人間学特殊講義B-I	2通		2		○	1								
		社会人間学特殊講義B-II	2前		2		○									1
		社会人間学特殊講義B-III	2後		2		○	1								
		社会人間学特殊講義B-IV	2前		2		○									1
		社会人間学特殊講義B-V	2後		2		○									1
		社会人間学特殊講義B-VI	2前・後		2		○		1							
		地域科学演習A1	3通		4		○		1							
		地域科学演習A2	4通		4		○		1							
		地域科学演習B1	3通		4		○		1							
		地域科学演習B2	4通		4		○		1							
		地域科学演習C1	3通		4		○	1								
		地域科学演習C2	3通		4		○	1								
		地域科学演習C3	4通		4		○	1								
		地域科学演習C4	4通		4		○	1								
		地域科学応用演習	4前		2		○	1								
		地域分析論演習	3前		2		○	1								
		課題研究I	3前	○	2		○	7	5							
		課題研究II	3後	○	2		○	7	4							
		課題研究III	4前	○	2		○	7	5							
		卒業論文	4通	○	8		○	4	5							
		小計 (194科目)	-	-	50	372	0	-	9	7	0	0	0	0	33	
		合計 (329科目)	-	-	61	499~560	0	-	9	7	0	0	0	0	231	
		学位又は称号	学士 (文学)			学位又は学科の分野			文学関係							
		卒業要件及び履修方法	授業期間等													
		4年以上在学し、以下のとおり、教養教育科目33単位以上、専門教育科目91単位以上、合計124単位を修得した者を卒業と認定する。	1学年の学期区分			2期										
		①教養教育科目において、必修科目11単位、外国語科目の選択必修から6単位、その他選択科目から16単位、合計33単位を修得すること。	1学期の授業期間			15週										
		②専門教育科目の専門基礎科目から必修科目2単位、選択科目から12単位、合計14単位を修得すること。	1時限の授業時間			90分										
		③3つのコースで開講されている科目の中から、 【人間科学コース】 人間科学コース専門科目の基盤科目から10単位 (必修2単位を含む)、展開科目から30単位 (必修14単位を含む) を修得すること。②と合計し専門教育科目で91単位となるよう修得すること。 【社会人間学コース】 社会人間学コース専門科目の基盤科目から14単位 (必修4単位を含む)、展開科目から28単位 (必修14単位を含む) を修得すること。②と合計し専門教育科目で91単位となるよう修得すること。 【地域科学コース】 地域科学コース専門科目の基盤科目から12単位、展開科目から28単位 (必修14単位及び選択必修から4単位を含む) を修得すること。②と合計し専門教育科目で91単位となるよう修得すること。														

教育課程等の概要															
(関係協力学部：文学部歴史学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	英語A-1	1前・後		1				○						13	
	英語A-2	1前・後		1				○						15	
	英語B-1	1前・後		1				○						15	
	英語B-2	1前・後		1				○						16	
	英語e	1前・後		1				○						9	
	英語C-1	2前		1				○						17	
	英語C-2	2後		1				○						10	
	ドイツ語A-1	1前			1			○						3	選択必修
	ドイツ語A-2	1後			1			○						2	選択必修
	ドイツ語B-1	1前			1			○						3	選択必修
	ドイツ語B-2	1後			1			○						3	選択必修
	ドイツ語C-1	2前			1			○						3	選択必修
	ドイツ語C-2	2後			1			○						3	選択必修
	フランス語A-1	1前			1			○						1	選択必修
	フランス語A-2	1後			1			○						1	選択必修
	フランス語B-1	1前			1			○						1	選択必修
	フランス語B-2	1後			1			○						1	選択必修
	フランス語C-1	2前			1			○						2	選択必修
	フランス語C-2	2後			1			○						2	選択必修
	中国語A-1	1前			1			○						5	選択必修
	中国語A-2	1後			1			○						5	選択必修
	中国語B-1	1前			1			○						4	選択必修
	中国語B-2	1後			1			○						4	選択必修
	中国語C-1	2前			1			○						2	選択必修
	中国語C-2	2後			1			○						2	選択必修
	コリア語A-1	1前			1			○						2	選択必修
	コリア語A-2	1後			1			○						2	選択必修
	コリア語B-1	1前			1			○						1	選択必修
	コリア語B-2	1後			1			○						1	選択必修
	コリア語C-1	2前			1			○						1	選択必修
	コリア語C-2	2後			1			○						1	選択必修
	日本語A-1	1・2前			1			○						1	
	日本語A-2	1・2前・後			1			○						1	
	日本語B-1	1・2前			1			○						1	
	日本語B-2	1・2後			1			○						1	
	日本語D-1	1・2前			1			○						2	
	日本語D-2	1・2後			1			○						2	
	ドイツ語 I-1	1前			1			○						1	
	ドイツ語 I-2	1後			1			○						1	
	ドイツ語 II-1	2前			1			○						1	
	ドイツ語 II-2	2後			1			○						1	
	フランス語 I-1	1前			1			○						1	
	フランス語 I-2	1後			1			○						1	
	フランス語 III-1	2前			1			○						1	
	フランス語 III-2	2後			1			○						1	
	中国語 I-1	1前			1			○						1	
	中国語 I-2	1後			1			○						1	
	コリア語 I-1	1前			1			○						1	
	コリア語 I-2	1後			1			○						1	
	コリア語 II-1	2前			1			○						1	
	コリア語 II-2	2後			1			○						1	
	ロシア語 I-1	1前			1			○						1	
	ロシア語 I-2	1後			1			○						1	
	ラテン語 I-1	1前			1			○						1	
	ラテン語 I-2	1後			1			○						1	
	スペイン語 I-1	1前			1			○						1	
	スペイン語 I-2	1後			1			○						1	
	スペイン語 II-1	2前			1			○						1	
	スペイン語 II-2	2後			1			○						1	
	ヘブライ語 I-1	1前			1			○						1	
	ヘブライ語 I-2	1後			1			○						1	
	イタリア語 I-1	1前			1			○						1	
	イタリア語 I-2	1後			1			○						1	





3科目	日本国憲法 科目	暮らしの中の憲法	1・2前・後		2	○									2
	小計 (2科目)		-	-	0	3	0	-	0	0	0	0	0	0	8
専門基礎科目	文章作成演習		1後	○	2		○		2	4					17
	史学概論		1前	○	2		○		1						
日本史概説 I		1後	○	2		○		1							
考古学概説 I		1後	○	2		○				1					
アジア史概説 I		1前	○	2		○				1					
西洋史概説		1後	○	2		○				1					
文化史概説 I		1後	○	2		○				1					
英語コミュニケーション		2前		2			○							1	
実践英語		2後		2			○							1	
ギリシア語A		2前		2			○							1	
ギリシア語B		2後		2			○							1	
コリア語a		2前		2			○							1	
コリア語b		2後		2			○							1	
キャリア支援		2前		2			○							1	
歴史資料学コース	基盤科目	日本史概説 II	2前	○	2		○		1	1					
		考古学概説 II	2前	○	2		○		1						
歴史資料学実習A-I		2前	○	2			○							1	
歴史資料学実習A-II		2後	○	2			○		1	1					
歴史資料学実習B-I		2前	○	2			○			1					
歴史資料学実習B-II		2後	○	2			○			1					
博物館概論		1前	○	2			○							1	
博物館資料論		2前	○	2			○							1	
心理学統計法		2前	○	2			○							1	
心理学演習 I		2後	○	2			○							1	
専門科目	展開科目	歴史資料学演習A-I	2前		2		○		1						
		歴史資料学演習A-II	2後		2		○		1	1					
歴史資料学演習A-III		3前		2		○				1					
歴史資料学演習A-IV		3後		2		○			1						
歴史資料学演習B-I		3前		2		○			1						
歴史資料学演習B-II		3後		2		○			1						
歴史資料学演習B-III		2前		2		○			1						
歴史資料学演習B-IV		2後		2		○				1					
歴史資料学特殊講義A-I		2前		2		○			1	1					
歴史資料学特殊講義A-II		3前		2		○			1						
歴史資料学特殊講義A-III		3前		2		○				1					
歴史資料学特殊講義A-IV		3前		2		○								1	
歴史資料学特殊講義A-V		3前・後		2		○			1	1					
歴史資料学特殊講義A-VI		3前・後		2		○			2	1				1	
歴史資料学特殊講義B-I		2前		2		○								1	
歴史資料学特殊講義B-II		2前・後		2		○								1	
歴史資料学特殊講義B-III		3前・後		2		○								1	
歴史資料学特殊講義B-IV		3前		2		○			1						
歴史資料学特殊講義B-V		3後		2		○				1					
歴史資料学特殊講義B-VI		3前		2		○			1						
歴史資料学特殊講義B-VII		3前・後		2		○				1					
歴史資料学野外実習A		3通		4			○		1						
歴史資料学野外実習B-I		2通		4			○		1	1					
歴史資料学野外実習B-II		3通		4			○		1	1					
課題研究 I		3前	○	2			○			4	4				
課題研究 II		3後	○	2			○			4	4				
課題研究 III		4前	○	2			○			2	5				
卒業論文		4通	○	8			○			2	4				
世界	基盤科目	アジア史概説 II	2前	○	2		○							1	
		世界システム史概説	2前	○	2		○				1				
文化史概説 II		2前	○	2		○			1					1	
世界システム史基礎演習C		2前・後	○	2			○		1						
世界システム史基礎演習D-I		2前	○	2			○			1					
世界システム史基礎演習D-II		2前・後	○	2			○			1					
世界システム史基礎演習E-I		2前	○	2			○			1					
世界システム史基礎演習E-II		2後	○	2			○		1					1	
世界システム史講読C		2前・後	○	2			○			1					
世界システム史講読D-I		2後	○	2			○			1					
世界システム史講読D-II		2後	○	2			○			1					
世界システム史講読E-I		2前	○	2			○			1					
世界システム史講読E-II		2後	○	2			○		1					1	
世界システム史演習C-I		3後		2			○			1					
世界システム史演習C-II		3前		2			○		1						
世界システム史演習C-III		3後		2			○			1					
世界システム史演習C-IV		3前		2			○								
世界システム史演習D-I		3前		2			○				1				
世界システム史演習D-II		3後		2			○				1				

システム史学コース	専門科目	世界システム史演習D-III	3前・後			2			○		1						
		世界システム史演習D-IV	3前			2			○		1						
		世界システム史演習D-V	3後			2			○		1						
		世界システム史演習D-VI	3前・後			2			○		1						
		世界システム史演習D-VII	3前・後			2			○		1						
		世界システム史演習E-I	3後			2			○		1						
		世界システム史演習E-II	3後			2			○		1						
		世界システム史演習E-III	3前			2			○							1	
		世界システム史演習E-IV	3前			2			○							1	
		世界システム史特殊講義C-I	3前			2			○		1						
	世界システム史特殊講義C-II	3後			2			○	1								
	世界システム史特殊講義C-III	2前			2			○							1		
	世界システム史特殊講義D-I	2前			2			○		1							
	世界システム史特殊講義D-II	3後			2			○		1							
	世界システム史特殊講義D-III	3前			2			○		1							
	世界システム史特殊講義D-IV	2前・後			2			○							1		
	世界システム史特殊講義E-I	3前			2			○		1							
	世界システム史特殊講義E-II	2前			2			○							1		
	世界システム史特殊講義E-III	3後			2			○							1		
	世界システム史特殊講義E-IV	2前			2			○							1		
課題研究Ⅰ	3前	○	2				○		4	4							
課題研究Ⅱ	3後	○	2				○		4	5							
課題研究Ⅲ	4前	○	2				○		2	5							
卒業論文	4通	○	8				○		2	4							
小計 (95科目)		-	-	30	178	0	-	-	5	6	0	0	0	0	32		
合計 (230科目)		-	-	41	305~366	0	-	-	5	6	0	0	0	0	227		
学位又は称号		学士 (文学)			学位又は学科の分野			文学関係									
卒業要件及び履修方法										授業期間等							
<p>4年以上在学し、以下のとおり、教養教育科目33単位以上、専門教育科目91単位以上、合計124単位を修得した者を卒業と認定する。</p> <p>①教養教育科目において、必修科目11単位、外国語科目の選択必修から6単位、その他選択科目から16単位、合計33単位を修得すること。</p> <p>②専門教育科目の専門基礎科目から必修科目2単位、選択科目から12単位、合計14単位を修得すること。</p> <p>③2つのコースで開講されている科目の中から、  <b>【歴史資料学コース】</b> 歴史資料学コース専門科目の基盤科目から12単位、展開科目から38単位 (必修14単位を含む) を修得すること。②と合計し専門教育科目で91単位となるよう修得すること。  <b>【世界システム史学コース】</b> 世界システム史学コース専門科目の基盤科目から10単位 (必修4単位を含む)、展開科目から30単位 (必修14単位を含む) を修得すること。②と合計し専門教育科目で91単位となるよう修得すること。</p>										1学年の学期区分		2期					
										1学期の授業期間		15週					
										1時限の授業時間		90分					

教育課程等の概要																
(関係協力学部：文学部文学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
	英語A-1	1前・後		1				○		1					12	
	英語A-2	1前・後		1				○			1				14	
	英語B-1	1前・後		1				○							15	
	英語B-2	1前・後		1				○		1	1				14	
	英語e	1前・後		1				○		1	1				7	
	英語C-1	2前		1				○		2	1				14	
	英語C-2	2後		1				○		1	1				8	
	ドイツ語A-1	1前			1			○		1					2	選択必修
	ドイツ語A-2	1後			1			○							2	選択必修
	ドイツ語B-1	1前			1			○		1					2	選択必修
	ドイツ語B-2	1後			1			○		1					2	選択必修
	ドイツ語C-1	2前			1			○		2					2	選択必修
	ドイツ語C-2	2後			1			○		2					1	選択必修
	フランス語A-1	1前			1			○			1					選択必修
	フランス語A-2	1後			1			○			1					選択必修
	フランス語B-1	1前			1			○		1						選択必修
	フランス語B-2	1後			1			○		1						選択必修
	フランス語C-1	2前			1			○			1			1		選択必修
	フランス語C-2	2後			1			○			1			1		選択必修
	中国語A-1	1前			1			○		1	2				2	選択必修
	中国語A-2	1後			1			○		1	2				2	選択必修
	中国語B-1	1前			1			○		1	2				2	選択必修
	中国語B-2	1後			1			○		1	2				1	選択必修
	中国語C-1	2前			1			○			1				1	選択必修
	中国語C-2	2後			1			○			1				1	選択必修
	コリア語A-1	1前			1			○							2	選択必修
	コリア語A-2	1後			1			○							2	選択必修
	コリア語B-1	1前			1			○							1	選択必修
	コリア語B-2	1後			1			○							1	選択必修
	コリア語C-1	2前			1			○							1	選択必修
	コリア語C-2	2後			1			○							1	選択必修
	日本語A-1	1・2前			1			○							1	
	日本語A-2	1・2前・後			1			○							1	
	日本語B-1	1・2前			1			○							1	
	日本語B-2	1・2後			1			○							1	
	日本語D-1	1・2前			1			○							2	
	日本語D-2	1・2後			1			○							2	
	ドイツ語 I-1	1前			1			○							1	
	ドイツ語 I-2	1後			1			○							1	
	ドイツ語 II-1	2前			1			○								
	ドイツ語 II-2	2後			1			○		1						
	フランス語 I-1	1前			1			○		1						
	フランス語 I-2	1後			1			○		1						
	フランス語 III-1	2前			1			○			1					
	フランス語 III-2	2後			1			○		1						
	中国語 I-1	1前			1			○								1
	中国語 I-2	1後			1			○								1
	コリア語 I-1	1前			1			○								1
	コリア語 I-2	1後			1			○								1
	コリア語 II-1	2前			1			○								1
	コリア語 II-2	2後			1			○								1
	ロシア語 I-1	1前			1			○								1
	ロシア語 I-2	1後			1			○								1
	ラテン語 I-1	1前			1			○								1
	ラテン語 I-2	1後			1			○								1
	スペイン語 I-1	1前			1			○								1
	スペイン語 I-2	1後			1			○								1
	スペイン語 II-1	2前			1			○								1
	スペイン語 II-2	2後			1			○								1
	ヘブライ語 I-1	1前			1			○								1
	ヘブライ語 I-2	1後			1			○								1
	イタリア語 I-1	1前			1			○								1
	イタリア語 I-2	1後			1			○								1





科目	日本国憲法 科目	暮らしの中の憲法	1・2前・後		2	○									2
	小計 (2科目)		-	-	0	3	0	-	0	0	0	0	0	0	8
科目	専門 基礎 科目	文章作成演習	1後	○	2		○		3						20
		日本語日本文学入門	1前	○	2		○		1						
中国語圏文化論		1前	○	2		○				1					
英語圏文化論		1前	○	2		○			1						
ドイツ語圏・フランス語圏文化論		1後	○	2		○					1				
比較文学・国際文化学入門		1後	○	2		○			3		1				
英語コミュニケーション		2前		2			○								1
実践英語		2後		2			○								1
ギリシア語A		2前		2			○								1
ギリシア語B		2後		2			○								1
ロシア語a		2前		2			○								1
ロシア語b	2後		2			○								1	
キャリア支援	2前		2			○								1	
科目	基 盤 科 目	日本語学概論 I	2前	○	2		○		1						1
		日本語学概論 II	2前	○	2		○								
日本文学概論 I		2前	○	2		○			1						
日本文学概論 II		2前	○	2		○				1					
中国文学史 I		2前	○	2		○				1					
中国文学史 II		2後	○	2		○				1					
中国語学概論		2後	○	2		○				1					
中国語会話		2前	○	2		○				1					
中国語作文		2後	○	2		○				1					
科目	東 ア ジ ア 言 語 文 学 コ ー ス	専 門 科 目	日本語学基礎演習 I	2後		2		○		1					
			日本語学基礎演習 II	2後		2		○		1					
日本語学演習 I			3前		2		○			1					
日本語学演習 II			3後		2		○			1					
日本語学特殊講義 I			2後		2		○			1					
日本語学特殊講義 II			2前・後		2		○			1					
日本語学特殊講義 III			3前		2		○			1					
日本文学基礎演習 I			2後		2		○			1					
日本文学基礎演習 II			2後		2		○				1				
日本文学演習 I			3前		2		○			1					
日本文学演習 II			3前		2		○				1				
日本文学演習 III			3後		2		○				1				
日本文学特殊講義 I			2後		2		○			1					
日本文学特殊講義 II			2前		2		○				1				
日本文学特殊講義 III			3後		2		○			1					
展 開 科 目		中国語中国文学演習A1	2前		2		○				1				
		中国語中国文学演習A2	2後		2		○				1				
		中国語中国文学演習A3	3前		2		○				1				
		中国語中国文学演習A4	3後		2		○				1				
		中国語中国文学演習B1	2前		2		○				1				
		中国語中国文学演習B2	2後		2		○				1				
		中国語中国文学演習B3	3前		2		○				1				
		中国語中国文学演習B4	3後		2		○				1				
		中国語中国文学演習C1	2前		2		○				1				
		中国語中国文学演習C2	2後		2		○				1				
		中国語中国文学演習C3	3前		2		○				1				
		中国語中国文学演習C4	3後		2		○				1				
		中国語中国文学特殊講義 I	2後		2		○				1				
		中国語中国文学特殊講義 II	3後		2		○				1				
		中国語中国文学特殊講義 III	2前		2		○				1				
		課題研究 I	3前	○	2			○		6		6			
		課題研究 II	3後	○	2			○		6		6			
		課題研究 III	4前	○	2			○		7		6			
卒業論文	4通	○	8			○		8		4					
科目	基 盤 科 目	英語学概論	2後	○		2		○							1
		英文学史 I	2後	○		2		○				1			
英文学史 II		3後	○		2		○				1				
英会話		2前	○		2		○		1						
英作文		3前	○		2		○		1						
独語学概論		2前	○		2		○		1						
独文学史		2後	○		2		○							1	
独語独文学基礎演習A1		2前	○		2		○		1						
独語独文学基礎演習A2		2後	○		2		○							1	
仏文学史		2前	○		2		○				1				
仏語仏文学基礎演習A1		2前	○		2		○		1						
仏語仏文学基礎演習A2		2後	○		2		○		1						
専 門		英語学演習A	2後				2		○						
	英語学演習B	3後				2		○							1
	英文学演習A	2前				2		○			1				

教育	欧米言語文学コース	専門科目	英文学演習B	3前		2			○		1								
			米文学演習A	2後		2			○		1								
			米文学演習B	3後		2			○		1								
			英文学特殊講義	3前		2			○		1								
			米文学特殊講義A	2前		2			○		1								
			米文学特殊講義B	3前		2			○		1								
			独語独文学演習A1	2前		2			○		1								
			独語独文学演習A2	3前		2			○		1								
			独語独文学演習B1	3前		2			○		1								
		展開科目	独語独文学演習B2	3後		2			○									1	
			独語独文学特殊講義A	2後		2				○									1
			独語独文学特殊講義B	3後		2			○										1
			ドイツ語圏文化論演習	2前		2			○		1								
			仏語仏文学演習A1	3前		2			○		1								
			仏語仏文学演習A2	3後		2			○		1								
			仏語仏文学演習B1	2前		2			○			1							
			仏語仏文学演習B2	3後		2			○										1
			仏語仏文学演習C1	3前		2			○			1							
			仏語仏文学演習C2	3後		2			○			1							
			仏語仏文学特殊講義A	3前		2			○										1
			仏語仏文学特殊講義B	3後		2			○			1							
			フランス語圏文化論演習	2前		2			○		1	1							オムニバス
			課題研究 I	3前	○	2			○		6	6							
			課題研究 II	3後	○	2			○		6	6							
			課題研究 III	4前	○	2			○		7	6							
			卒業論文	4通	○	8			○		8	4							
	多言語文化学コース	専門科目	比較文学概論 I	2前	○	2			○		1								
				比較文学概論 II	2後	○	2			○		1							
		基盤科目	比較文学基礎演習 I	2前	○	2			○		1								
			比較文学基礎演習 II	2後	○	2			○		1								
			比較文学基礎演習 III	2前	○	2			○		2								
			国際文化学概論	2前	○	2			○										1
			国際文化学基礎演習 I	2前	○	2			○										1
			国際文化学基礎演習 II	2後	○	2			○			1							
		展開科目	世界文学論	2後		2			○		2	1							オムニバス
			比較文学演習 I	3前		2				○		1							
			比較文学演習 II	3前		2			○		1								
			比較文学特殊講義 I	2後		2			○		1								
			比較文学特殊講義 II	2前		2			○		1								
			国際文化学演習 I	3前		2			○			1							
			国際文化学演習 II	3後		2			○			1							
			国際文化学演習 III	3後		2			○		1								
			外国語演習 A1	2前		2			○			1							
			外国語演習 A2	2後		2			○			1							
			外国語演習 B1	2前		2			○		1								
			外国語演習 B2	2後		2			○										1
			外国語演習 C1	2前		2			○		1								
			外国語演習 C2	2後		2			○		1								
			国際文化学特殊講義 I	2後		2			○										1
			国際文化学特殊講義 II	3前		2			○										1
			国際文化学特殊講義 III	2前		2			○			1							
			中国語中国文学演習 C2	2後		2			○			1							
			英語学演習 A	2後		2			○										1
			独語独文学演習 B1	3前		2			○		1								
			独語独文学演習 B2	3後		2			○										1
			仏語仏文学演習 B1	2前		2			○			1							
			仏語仏文学演習 B2	3後		2			○										1
			日本文学特殊講義 I	2後		2			○		1								
			日本文学特殊講義 II	2前		2			○			1							
			日本文学特殊講義 III	3後		2			○		1								
			英文学特殊講義	3前		2			○			1							
			米文学特殊講義 A	2前		2			○		1								
			米文学特殊講義 B	3前		2			○		1								
			独語独文学特殊講義 A	2後		2			○										1
			独語独文学特殊講義 B	3後		2			○										1
			仏語仏文学特殊講義 A	3前		2			○										1
			仏語仏文学特殊講義 B	3後		2			○			1							
			課題研究 I	3前	○	2			○		6	6							
			課題研究 II	3後	○	2			○		6	6							
			課題研究 III	4前	○	2			○		7	6							
			卒業論文	4通	○	8			○		8	4							
			小計 (142科目)	-	-	44	258	0	-	-	9	7	0	0	0	0	0	0	29
			合計 (277科目)	-	-	55	385~446	0	-	-	9	7	0	0	0	0	0	0	215
学位又は称号			学士 (文学)			学位又は学科の分野			文学関係										
卒業要件			履修方法			授業期間等													

<p>4年以上在学し、以下のとおり、教養教育科目33単位以上、専門教育科目91単位以上、合計124単位を修得した者を卒業と認定する。</p> <p>①教養教育科目において、必修科目11単位、外国語科目の選択必修から6単位、その他選択科目から16単位、合計33単位を修得すること。</p> <p>②専門教育科目の専門基礎科目から必修科目2単位、選択科目から12単位、合計14単位を修得すること。</p> <p>③3つのコースで開講されている科目の中から、</p> <p>【東アジア言語文学コース】 東アジア言語文学コース専門科目の基盤科目から10単位、展開科目から34単位（必修14単位を含む）を修得すること。②と合計し専門教育科目で91単位となるよう修得すること。</p> <p>【欧米言語文学コース】 欧米言語文学コース専門科目の基盤科目から10単位、展開科目から30単位（必修14単位を含む）を修得すること。②と合計し専門教育科目で91単位となるよう修得すること。</p> <p>【多言語文化学コース】 多言語文化学コース専門科目の基盤科目から10単位、展開科目から30単位（必修14単位及び選択必修から4単位を含む）を修得すること。②と合計し専門教育科目で91単位となるよう修得すること。</p>	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要																
(連係協力学部：文学部コミュニケーション情報学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
	英語A-1	1前・後		1				○		1	1				12	
	英語A-2	1前・後		1				○		2	2				13	
	英語B-1	1前・後		1				○		1	2				14	
	英語B-2	1前・後		1				○		2	4				10	
	英語e	1前・後		1				○		2	2				5	
	英語C-1	2前		1				○		2	3				13	
	英語C-2	2後		1				○		1	2				7	
	ドイツ語A-1	1前			1			○							4	選択必修
	ドイツ語A-2	1後			1			○							3	選択必修
	ドイツ語B-1	1前			1			○							3	選択必修
	ドイツ語B-2	1後			1			○							3	選択必修
	ドイツ語C-1	2前			1			○							3	選択必修
	ドイツ語C-2	2後			1			○							3	選択必修
	フランス語A-1	1前			1			○							2	選択必修
	フランス語A-2	1後			1			○							2	選択必修
	フランス語B-1	1前			1			○							1	選択必修
	フランス語B-2	1後			1			○							1	選択必修
	フランス語C-1	2前			1			○		1					1	選択必修
	フランス語C-2	2後			1			○		1					1	選択必修
	中国語A-1	1前			1			○							6	選択必修
	中国語A-2	1後			1			○							6	選択必修
	中国語B-1	1前			1			○							4	選択必修
	中国語B-2	1後			1			○							4	選択必修
	中国語C-1	2前			1			○							2	選択必修
	中国語C-2	2後			1			○							2	選択必修
	コリア語A-1	1前			1			○							2	選択必修
	コリア語A-2	1後			1			○							2	選択必修
	コリア語B-1	1前			1			○							1	選択必修
	コリア語B-2	1後			1			○							1	選択必修
	コリア語C-1	2前			1			○							1	選択必修
	コリア語C-2	2後			1			○							1	選択必修
	日本語A-1	1・2前			1			○							1	
	日本語A-2	1・2前・後			1			○							1	
	日本語B-1	1・2前			1			○							1	
	日本語B-2	1・2後			1			○							1	
	日本語D-1	1・2前			1			○							2	
	日本語D-2	1・2後			1			○							2	
	ドイツ語 I-1	1前			1			○							1	
	ドイツ語 I-2	1後			1			○							1	
	ドイツ語 II-1	2前			1			○							1	
	ドイツ語 II-2	2後			1			○							1	
	フランス語 I-1	1前			1			○							1	
	フランス語 I-2	1後			1			○							1	
	フランス語 III-1	2前			1			○							1	
	フランス語 III-2	2後			1			○							1	
	中国語 I-1	1前			1			○							1	
	中国語 I-2	1後			1			○							1	
	コリア語 I-1	1前			1			○							1	
	コリア語 I-2	1後			1			○							1	
	コリア語 II-1	2前			1			○							1	
	コリア語 II-2	2後			1			○							1	
	ロシア語 I-1	1前			1			○							1	
	ロシア語 I-2	1後			1			○							1	
	ラテン語 I-1	1前			1			○							1	
	ラテン語 I-2	1後			1			○							1	
	スペイン語 I-1	1前			1			○							1	
	スペイン語 I-2	1後			1			○							1	
	スペイン語 II-1	2前			1			○							1	
	スペイン語 II-2	2後			1			○							1	
	ヘブライ語 I-1	1前			1			○		1						
	ヘブライ語 I-2	1後			1			○		1						
	イタリア語 I-1	1前			1			○							1	
	イタリア語 I-2	1後			1			○							1	





3科目	日本国憲法 科目	暮らしの中の憲法	1・2前・後		2	○										2
	小計 (2科目)		-	-	0	3	0	-	0	0	0	0	0	0	0	8
専門教育	専門基礎科目	文章作成演習	1後	○	2		○									3
		コミュニケーション情報学入門	1前	○		2	○		1							
コミュニケーション論		1後	○		2	○		1								
現代文化資源学入門		1前	○		2	○			1							
英語コミュニケーション		2前	○		2		○		1							
実践英語		2後	○		2		○		1							
ギリシア語A		2前			2		○								1	
ギリシア語B		2後			2		○								1	
コリア語a		2前			2			○							1	
コリア語b		2後			2			○							1	
キャリア支援	2前			2		○								1		
コミュニケーション情報学コース	基礎科目	論文作成演習	2前	○	2		○			1						
		メディア論	2後	○		2	○			1						
情報社会論		2前	○		2		○							1		
情報技術応用演習A		2前	○		2		○							1		
情報技術応用演習B		2前	○		2		○							1		
英会話 I		2前	○		2			○		1						
展開科目	専門科目	英作文 I	2前	○		2		○		1						
		異文化コミュニケーション論実習	2通			4			○	1						
		キャリアデザイン実習A	3前			2			○		1					
		キャリアデザイン実習B	3後			2			○		1					
		コミュニケーション情報学演習A	2後			2			○	1						
		コミュニケーション情報学演習B	2後			2			○		1					
		比較文化コミュニケーション論	2前			2			○		1					
		コミュニケーション情報学特殊講義A	2前			2			○		1					
		コミュニケーション情報学特殊講義B	3後			2			○		1					
		コミュニケーション情報学特殊講義C	3後			2			○						1	
		マーケティング・コミュニケーション	3前			2				○					1	
		スピーチ・コミュニケーション	3後			2				○		1				
		英会話 II	3前			2				○	1					
		英作文 II	3前			2			○		1					
		英語コミュニケーション論	3前			2			○			1				
		メディア英語研究	3後			2			○			1				
		課題研究 I	3前	○	2						5	11				
		課題研究 II	3後	○	2						5	11				
課題研究 III	4前	○	2						5	11						
課題研究 IV	4後	○	2						5	11						
卒業論文	4通	○	8						5	11						
現代文化資源学コース	基礎科目	論文作成演習	2前	○	2		○			1						
		メディア論	2後	○		2		○		1						
英会話 I		2前	○		2			○		1						
英作文 I		2前	○		2			○		1						
現代文化資源学概論 I		2前	○		2			○			1					
現代文化資源学概論 II		2前	○		2			○			1					
言語学概論		2前	○		2				○		1					
現代文化資源学実習A		3前	○		2				○		1					
現代文化資源学実習B		3後	○		2				○		1					
言語調査法実習A		2後	○		2				○		1					
言語調査法実習B	2後	○		2				○		1						
展開科目	専門科目	比較文化コミュニケーション論	2前			2		○			1					
		現代言語文化資源論A	3後			2		○			1					
		現代言語文化資源論B	3前			2		○			1					
		現代言語文化資源論C	3後			2		○			1					
		現代芸術文化論A	3後			2		○			2					
		現代芸術文化論B	3前			2		○			1					
		現代芸術文化論C	3後			2		○			1					
		現代芸術文化論D	3後			2		○			1					
		無形文化資源論	3前			2		○				1				
		記憶遺産論	2後			2		○			1					
		異文化コミュニケーション論実習	2通			4				○	1					
		キャリアデザイン実習A	3前			2				○		1				
		キャリアデザイン実習B	3後			2				○		1				
		スピーチ・コミュニケーション	3後			2				○		1				
英会話 II	3前			2			○		1							
英作文 II	3前			2			○		1							
英語コミュニケーション論	3前			2			○			1						
メディア英語研究	3後			2			○			1						
課題研究 I	3前	○	2						5	11						
課題研究 II	3後	○	2						5	11						
課題研究 III	4前	○	2						5	11						
課題研究 IV	4後	○	2						5	11						

			卒業論文	4通	○	8			○	5	11					
小計 (72科目)			-	-	38	122	0	-	-	5	11	0	0	0	7	
合計 (207科目)			-	-	49	251~312	0	-	-	5	11	0	0	0	227	
学位又は称号		学士 (文学)			学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法										授業期間等						
<p>4年以上在学し、以下のとおり、教養教育科目33単位以上、専門教育科目91単位以上、合計124単位を修得した者を卒業と認定する。</p> <p>①教養教育科目において、必修科目11単位、外国語科目の選択必修から6単位、その他選択科目から16単位、合計33単位を修得すること。</p> <p>②専門教育科目の専門基礎科目から必修科目2単位、選択科目から12単位、合計14単位を修得すること。</p> <p>③2つのコースで開講されている科目の中から、  <b>【コミュニケーション情報学コース】</b> コミュニケーション情報学コース専門科目の基盤科目から12単位（必修2単位を含む）、展開科目から32単位（必修14単位を含む）を修得すること。②と合計し専門教育科目で91単位となるよう修得すること。</p> <p><b>【現代文化資源学コース】</b> 現代文化資源学コース専門科目の基盤科目から14単位（必修2単位を含む）、展開科目から28単位（必修14単位を含む）を修得すること。②と合計し専門教育科目で91単位となるよう修得すること。</p>										1 学年の学期区分		2 期				
										1 学期の授業期間		1 5 週				
										1 時限の授業時間		9 0 分				

教育課程等の概要																
(連係協力学部：法学部法学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手以外の教員)
	英語A-1	1前・後		1					○						14	
	英語A-2	1前・後		1					○						17	
	英語B-1	1前・後		1					○						17	
	英語B-2	1前・後		1					○						16	
	英語e	1前・後		1					○						9	
	英語C-1	2前		1					○						18	
	英語C-2	2後		1					○						10	
	ドイツ語A-1	1前			1				○						4	選択必修
	ドイツ語A-2	1後			1				○						3	選択必修
	ドイツ語B-1	1前			1				○						3	選択必修
	ドイツ語B-2	1後			1				○						3	選択必修
	ドイツ語C-1	2前			1				○						3	選択必修
	ドイツ語C-2	2後			1				○						3	選択必修
	フランス語A-1	1前			1				○						2	選択必修
	フランス語A-2	1後			1				○						2	選択必修
	フランス語B-1	1前			1				○						1	選択必修
	フランス語B-2	1後			1				○						1	選択必修
	フランス語C-1	2前			1				○						2	選択必修
	フランス語C-2	2後			1				○						2	選択必修
	中国語A-1	1前			1				○			1			5	選択必修
	中国語A-2	1後			1				○			1			5	選択必修
	中国語B-1	1前			1				○			1			3	選択必修
	中国語B-2	1後			1				○			1			3	選択必修
	中国語C-1	2前			1				○						2	選択必修
	中国語C-2	2後			1				○						2	選択必修
	韓国語A-1	1前			1				○						2	選択必修
	韓国語A-2	1後			1				○						2	選択必修
	韓国語B-1	1前			1				○						1	選択必修
	韓国語B-2	1後			1				○						1	選択必修
	韓国語C-1	2前			1				○						1	選択必修
	韓国語C-2	2後			1				○						1	選択必修
	日本語A-1	1・2前			1				○						1	
	日本語A-2	1・2前・後			1				○						1	
	日本語B-1	1・2前			1				○						1	
	日本語B-2	1・2後			1				○						1	
	日本語D-1	1・2前			1				○						2	
	日本語D-2	1・2後			1				○						2	
	ドイツ語 I-1	1前			1				○						1	
	ドイツ語 I-2	1後			1				○						1	
	ドイツ語 II-1	2前			1				○						1	
	ドイツ語 II-2	2後			1				○						1	
	フランス語 I-1	1前			1				○						1	
	フランス語 I-2	1後			1				○						1	
	フランス語 III-1	2前			1				○						1	
	フランス語 III-2	2後			1				○						1	
	中国語 I-1	1前			1				○						1	
	中国語 I-2	1後			1				○						1	
	韓国語 I-1	1前			1				○						1	
	韓国語 I-2	1後			1				○						1	
	韓国語 II-1	2前			1				○						1	
	韓国語 II-2	2後			1				○						1	
	ロシア語 I-1	1前			1				○						1	
	ロシア語 I-2	1後			1				○						1	
	ラテン語 I-1	1前			1				○						1	
	ラテン語 I-2	1後			1				○						1	
	スペイン語 I-1	1前			1				○						1	
	スペイン語 I-2	1後			1				○						1	
	スペイン語 II-1	2前			1				○						1	
	スペイン語 II-2	2後			1				○						1	
	ヘブライ語 I-1	1前			1				○						1	
	ヘブライ語 I-2	1後			1				○						1	
	イタリア語 I-1	1前			1				○						1	
	イタリア語 I-2	1後			1				○						1	



現 代 教 養 科 目	地域づくりと科学技術	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○															4
	ものづくりの科学と技術	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○															6
	暮らしと情報・通信技術	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○															3
	健康の科学	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○															2
	病気の医科学	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○															2
	臨床医学の最前線	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○															2
	現代社会と医学	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○															1
	心身の健康と看護	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○															3
	医療における理工学	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○															1
	現代の医学検査	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○															1
	現代医療と生命科学	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○															2
	薬科学入門	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○															2
	現代社会と薬学	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○															2
	現代教育について考える	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○															7
	心理学の探求	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○															1
	芸術への招待	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○															2
	現代と言語	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○															2
	現代と文学	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○															2
	現代世界の形成と課題	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○															2
	現代社会と経済	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○				3	1										1
	現代の政治	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○				1	1										
学際科目	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○				1											2	
M u l t i s t i d i c i e p s i n a r y	Introduction to Science and Technology I	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○														3	
	Introduction to Science and Technology II	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○														1	
	Socio-Cultural Studies	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○														5	
	World History	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○														1	
	Area Studies	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○														4	
	Comprehensive English Communication	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○														1	
	Global Career Development	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○														1	
ボ ー ド 目 録 ス テ ィ ス 学	体育・スポーツ科学a	1・2①・②・③・④		1	○														5	
キャリア科目	キャリア科目	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○			2											5	
開放科目	開放科目	1・2前・後・①・②・③・④		1又は2	○					1									5	
小計 (62科目)		-	-	0	62~123	0	-			9	6	2	0	0					151	
必 修 科 目	基礎演習Ⅰ	1前	○	2						5	6	1								
	基礎演習Ⅱ	2前	○	2						9	2	1								
	演習Ⅰ	3通	○	4						17	18	2								
	演習Ⅱ	4通	○	4						17	18	2								



<p>4年以上在学し、以下のとおり、教養教育科目32単位以上、専門教育科目94単位以上、合計126単位を修得した者を卒業と認定する。</p> <p>①教養教育科目において、必修科目11単位、外国語科目の選択必修から6単位、その他選択科目から15単位、合計32単位を修得すること。</p> <p>②専門教育科目において、必修科目12単位、選択必修及び選択科目から82単位、合計94単位を修得すること。ただし、選択必修の科目から配当年次が3年次の単位を10単位以上修得しなければならない。</p>	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要																
(連係協力学部：理学部理学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)教員
基礎科目	英語A-1	1前・後		1					○					14		
	英語A-2	1前・後		1					○					17		
	英語B-1	1前・後		1					○					17		
	英語B-2	1前・後		1					○					16		
	英語e	1前・後		1					○					9		
	日本語A-1	1・2前			1				○					1		
	日本語A-2	1・2前・後			1				○					1		
	日本語B-1	1・2前			1				○					1		
	日本語B-2	1・2後			1				○					1		
	日本語D-1	1・2前			1				○					2		
	日本語D-2	1・2後			1				○					2		
	ドイツ語 I-1	1前			1				○					1		
	ドイツ語 I-2	1後			1				○					1		
	ドイツ語 II-1	2前			1				○					1		
	ドイツ語 II-2	2後			1				○					1		
	フランス語 I-1	1前			1				○					1		
	フランス語 I-2	1後			1				○					1		
	フランス語 III-1	2前			1				○					1		
	フランス語 III-2	2後			1				○					1		
	中国語 I-1	1前			1				○					1		
	中国語 I-2	1後			1				○					1		
	コリア語 I-1	1前			1				○					1		
	コリア語 I-2	1後			1				○					1		
	コリア語 II-1	2前			1				○					1		
	コリア語 II-2	2後			1				○					1		
	ロシア語 I-1	1前			1				○					1		
	ロシア語 I-2	1後			1				○					1		
	ラテン語 I-1	1前			1				○					1		
	ラテン語 I-2	1後			1				○					1		
	スペイン語 I-1	1前			1				○					1		
	スペイン語 I-2	1後			1				○					1		
	スペイン語 II-1	2前			1				○					1		
	スペイン語 II-2	2後			1				○					1		
	ヘブライ語 I-1	1前			1				○					1		
	ヘブライ語 I-2	1後			1				○					1		
	イタリア語 I-1	1前			1				○					1		
	イタリア語 I-2	1後			1				○					1		
	日本語 I-2	1・2前・後			1				○					2		
	日本語 II-2	1・2前・後			1				○					1		
	日本語 III-1	1・2前			1				○					1		
	日本語 III-2	1・2前・後			1				○					2		
	日本語 IV-1	1前			1				○					1		
	日本語 IV-2	1・2前・後			1				○					2		
	科目情報	ICTリテラシー	1前		2					○					7	
		DSリテラシー	1後		2					○					7	
理系基礎科目	微分積分 I	1前		2				○			2	2				
	微分積分 II	1後		2				○			2	1				
	線形代数 I	1前		2				○			2	1				
	線形代数 II	1後		2				○			3	1				
	統計学 I	2前		2				○				1				
	統計学 II	2後		2				○						1		
小計 (51科目)				—	—	21	38	0	—		5	4	0	0	0	58
	文系のための数学入門	1・2前・後・①・②・③・④				1又は2			○			1			1	
	数学の世界	1・2前・後・①・②・③・④				1又は2			○		1	1				
	物理学入門	1・2前・後・①・②・③・④				1又は2			○		2	3			2	
	教養の化学	1・2前・後・①・②・③・④				1又は2			○		2				1	

教養教育	リベラルアーツ科目	生物の世界	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○	6	3				
		地球環境の現状と人類	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○	1					
		持続可能な都市と地域づくり	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○	1					
		豊かさを持続させるものづくり	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						2
		日々の生活に垣間見る情報と通信	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						2
		倫理学入門	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						2
		心と世界	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						1
		思考と論理	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						1
		現代心理行動学	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						3
		こころの科学	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						1
		芸術文化論	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						1
		文学の諸相	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						3
		モノが語る歴史	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						4
		地域の世界史	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						4
		日本社会の歴史	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						3
		法学の基礎	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						5
		現代政治の諸相	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						3
		最前線の社会文化研究	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						8
		現代社会の解説	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						3
		自然と人間の地理学	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						3
教養科目	数学と文化	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○	1					1	
	物理学の世界	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						1	
	暮らしと化学	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○	2					1	
	化学と環境	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○	2	1					
	最先端の生命科学	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○	2					3	
	地球環境科学の最前線	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○	2	3		1			
	地域づくりと科学技術	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						4	
	ものづくりの科学と技術	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						6	
	暮らしと情報・通信技術	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						3	
	健康の科学	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						2	
	病気の医科学	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						2	
	臨床医学の最前線	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						2	
	現代社会と医学	1・2前・後・①・②・③・④	1又は2	○						1	

現代 教養 科目	心身の健康と看護	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														3
	医療における理工学	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														1
	現代の医学検査	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														1
	現代医療と生命科学	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														2
	薬科学入門	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														2
	現代社会と薬学	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														2
	現代教育について考える	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														7
	心理学の探求	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														1
	芸術への招待	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														2
	現代と言語	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														2
	現代と文学	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														2
	現代世界の形成と課題	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														2
	現代社会と経済	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														5
	現代の政治	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														2
	学際科目	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														3
M u l t i s t i c i e p s l i n a r y	Introduction to Science and Technology I	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														3
	Introduction to Science and Technology II	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														1
	Socio-Cultural Studies	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														5
	World History	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														1
	Area Studies	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														4
	Comprehensive English Communication	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														1
	Global Career Development	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														1
ボ ー ド 体 育 科 目 科 学	体育・スポーツ科学a	1・2①・②・③・ ④			1			○												5
キ ャ リ ア 科 目	キャリア科目	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														7
開 放 科 目	開放科目	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														6
小計 (62科目)		—	—	0	62~123	0	—			20	13	0	1	0	135					
教 職 科 目	ボ ー ド 体 育 科 目 科 学	体育・スポーツ科学b	1・2①・②・③・ ④			1		○												6
	日 本 国 憲 法 科 目	暮らしの中の憲法	1・2前・後			2		○												2
小計 (2科目)		—	—	0	3	0	—			0	0	0	0	0	8					
理 学 基 礎	物理学 I A	1前	○		2		○			1										
	物理学 I B	1前	○		2		○			2										
	物理学 II A	1後	○		2		○			1										
	物理学 II B	1後	○		2		○			2										
	化学 i	1①	○		1		○				1									
	化学 ii	1②	○		1		○			1										
	化学 iii	1③	○		1		○			1										
	化学 iv	1④	○		1		○				1									
	地球科学 I	1前	○		2		○			1	1									

一 科 目	地球科学Ⅱ	1後	○		2		○				2					
	生物学ⅠA	1前	○		2		○				1					
	生物学ⅠB	1前	○		2		○				1					
	生物学ⅡA	1後	○		2		○				1					
	生物学ⅡB	1後	○		2		○				1					
	理学基盤実験Ⅰ	1③	○		1				○			1				
	理学基盤実験Ⅱ	1④	○		1				○							
	小計 (16科目)	—	—	0	26	0	—	—	—	—	11	6	1	0	0	0
理 学 共 通 科 目	理系実用英語	2前	○	1			○				1					
	計算機科学	2前	○		1		○									1
	解析幾何	2前	○		2		○				1					
	微分方程式	2前	○		2		○				1					
	複素関数	2後	○		2		○				1					
	線形数学	2後	○		2		○				1					
	位相数学	2後	○		4		○				1					
	数学演習A	2前	○		1				○		1					
	数学演習B	2前	○		1				○	○	1					
	数学演習C	2後	○		1				○	○	1					
	数学演習D	2後	○		1				○	○	1					
	基礎力学	2前	○		2		○				1					
	基礎量子力学	2前	○		2		○				1					
	基礎電磁気学	2後	○		2		○				1					
	基礎物理数学	2後	○		2		○				1					
	力学	2後	○		2		○				1					
	熱力学	3前	○		2		○				1					
	基礎物理化学	2後	○		2		○				1					
	基礎無機化学	2前	○		2		○				1					
	基礎分析化学	2前	○		2		○				1					
	基礎有機化学	2前	○		2		○				1					
	無機化学Ⅰ	2後	○		2		○				1					
	分析化学Ⅰ	2後	○		2		○				1					
	有機化学Ⅰ	2後	○		2		○				1					
	地球システム学	2前	○		2		○					1				
	地球史	2前	○		2		○				1					
	一般地質学	2後	○		2		○				1					
	地球物質科学	2後	○		2		○				1					
	地球惑星科学	2後	○		2		○				1					
	地球環境科学	2前	○		2		○				1					
	基礎遺伝学Ⅰ	2①	○		1		○				1					
	基礎遺伝学Ⅱ	2②	○		1		○				1					
	基礎遺伝学Ⅲ	2③	○		1		○					1				
	基礎植物形態学・生理学Ⅰ	2③	○		1		○					1				
	基礎植物形態学・生理学Ⅱ	2④	○		1		○					1				
	基礎生化学	2①	○		1		○					1				
	基礎生態学	2④	○		1		○					1				
	基礎動物生理学Ⅰ	2②	○		1		○				1					
	基礎動物生理学Ⅱ	2③	○		1		○					1				
	基礎動物生理学Ⅲ	2④	○		1		○					1				
	生物多様性学Ⅰ	2①	○		1		○					1				
生物多様性学Ⅱ	2②	○		1		○					1					
生物多様性学Ⅲ	2③	○		1		○				1						
生態生態学	2④	○		1		○					1					
物理学共通実験	2③	○		1					○		1					
化学共通実験	2①	○		1					○		1					
地球科学共通実験	2①	○		1					○		1					
生物学共通実験	2③	○		1					○		1					
理学概論	2③	○		1		○				1						
データサイエンス入門	2後	○		2				○			1					
小計 (50科目)	—	—	1	76	0	—	—	—	—	18	19	1	0	0	1	
数 学	代数概論Ⅰ	3前	○		4		○				1					
	代数概論Ⅱ	3後	○		4		○				1					
	幾何概論Ⅰ	3前	○		4		○				1					
	幾何概論Ⅱ	3後	○		4		○				1					
	解析概論Ⅰ	3前	○		4		○				1					
	解析概論Ⅱ	3後	○		4		○				1					
	解析概論Ⅲ	3後	○		4		○				1					
	複素解析	3前	○		2		○				1					
	代数学Ⅰ	4前	○		2		○				1					
	代数学Ⅱ	4後	○		2		○				1					
	幾何学Ⅰ	4前	○		2		○				1					
	幾何学Ⅱ	4後	○		2		○				1					
	解析学Ⅰ	4前	○		2		○				1					
	解析学Ⅱ	4後	○		2		○				1					
応用解析	4後	○		2		○				1						

専門教育	物理学	確率論 I	4前	○	2	○		1						
		確率論 II	4後	○	2	○		1						
		力学演習	3前	○	2		○		1					
		電磁気学	3前	○	2		○		1					
		電磁気学演習	3前	○	2		○	○	1					
		量子力学 I	3後	○	2		○		1					
		量子力学 I 演習	3後	○	2		○	○	1					
		量子力学 II	4前	○	2		○			1				
		量子力学 II 演習	4前	○	2		○	○		1				
		統計力学 I	3後	○	2		○		1					
		統計力学 I 演習	3後	○	2		○	○		1				
		統計力学 II	4前	○	2		○		1					
		統計力学 II 演習	4前	○	2		○	○		1				
		物理数学	3後	○	2		○			1				
		光学	3後	○	2		○			1				
		特殊相対論	4前	○	2		○			1				
		物性物理学	3前	○	2		○			1				
		コンピュータ物理学	3後	○	2		○			1				
		物理実験学	3前	○	2		○			1				
		物理実験 A	3前	○	2				○	1				
	物理実験 B	3後	○	2				○	1					
	物理学セミナー A	4前	○	2				○	1					
	物理学セミナー B	4後	○	2				○	1					
	化学	物理化学 I	2後	○	2		○			1				
		物理化学 II	3前	○	2		○		1					
		物理化学 III	3後	○	2		○		1					
		無機化学 II	3前	○	2		○		1					
		無機化学 III	3後	○	2		○			1				
		分析化学 II	3前	○	2		○			1				
		分析化学 III	3後	○	2		○		1					
		有機化学 II	3前	○	2		○		1					
		有機化学 III	3後	○	2		○		1					
		物理化学実験 I	2前	○	1				○	1				
物理化学実験 II		2後	○	2				○	1					
無機化学実験 I		2前	○	1				○	1					
無機化学実験 II		2後	○	2				○	1					
分析化学実験 I		2前	○	1				○	1					
分析化学実験 II		2後	○	2				○	1					
有機化学実験 I		2前	○	1				○	1					
有機化学実験 II		2後	○	2				○	1					
化学セミナー		4通	○	4				○	1					
理学専門科目	地球環境科学	岩石学	3前	○	2		○			1				
		火山学	3後	○	2		○		1					
		層序学 I	3①	○	1		○			1				
		層序学 II	3②	○	1		○			1				
		地史・古生物学 I	3③	○	1		○		1					
		地史・古生物学 II	3④	○	1		○		1					
		構造地質学	3後	○	1		○			1				
		水文学	3③	○	1		○			1				
		気象学	3前	○	2		○			1				
		固体地球物理学 A	3後	○	2		○			1				
		固体地球物理学 B	3前	○	1		○							
		社会地球科学	3前	○	1		○			1				
		地球化学	3前	○	2		○					1		
		地質調査法 I	4前	○	2		○			1				
		地質調査法 II	4後	○	2		○			1				
	地球環境科学セミナー A	3前	○	2				○	1					
	地球環境科学セミナー B	3前	○	2				○	1					
	地球物質科学実験 A	3①	○	1				○		1				
	地球物質科学実験 B	3①	○	1				○	1					
	地球物質科学実験 C	3②	○	1				○	1					
	地球物質科学実験 D	3④	○	1				○			1			
	地球変遷学実験 A	3③	○	1				○		1				
	地球変遷学実験 B	3③	○	1				○	1					
	地球惑星科学実験 A	3④	○	1				○		1				
	地球惑星科学実験 B	3③	○	1				○		1				
	地球惑星科学実験 C	3④	○	1				○		1				
	地球惑星科学実験 D	3①	○	1				○		1				
	地球惑星科学実験 E	3④	○	1				○		1				
	野外巡検 I	3前	○	1				○		1				
	野外巡検 II	3後	○	1				○		1				
理学専門科目	内分泌学	3前	○	1		○		1						
	多様性進化学	3①	○	1		○		1						
	系統分類学	3①	○	1		○		1						

	発生生物学	3①	○		1		○			1							
	分子農学	3③	○		1		○			1							
	植物細胞学	3前	○		1		○			1							
	分子細胞生物学	3③	○		1		○			1							
	分子遺伝学	3②	○		1		○				1						
	保全生物学	3③	○		1		○				1						
	海洋生態多様性学	3④	○		1		○			1	1						
	動物細胞学	3③	○		1		○				1						
	植物発生学・ゲノム科学	3③	○		1		○			1							
	バイオイメージング	3④	○		1		○			1							
	生物地理学	3②	○		1		○				1						
	沿岸生態多様性学	3③	○		1		○				1						
	動物発生工学	3③	○		1		○			1							
	分子生物学	3③	○		1		○			1		1					
	生物環境セミナーA	4前	○		2			○		1							
	生物環境セミナーB	4後	○		2			○		1							
	生物環境概論	3前	○		2		○				1						
	細胞生物学概論	3後	○		2		○										1
	基礎生物学実験	2後	○		1				○		1						
	生物学実験A	3前	○		3				○		1						
	生物学実験B	3後	○		3				○		1						
	生物学実験C	3前	○		3				○		1						
	生物学実験D	3前	○		3				○		1						
	臨海実習Ⅰ	3後	○		2				○		1						
	臨海実習Ⅱ	3後	○		2				○		1						
	小計 (114科目)	—	—	0	205	0	—			29	24	1	2	0	1		
	共通	基礎講読Ⅰ	3前	○	2		○			1	1						
		基礎講読Ⅱ	3後	○	2		○			1	1						
		インターンシップA	3通	○	1			○		1							
		インターンシップB	3通	○	2			○		1							
		データサイエンスⅠ	3前	○	2		○				1						
		データサイエンスⅡ	3後	○	2		○			1							
		卒業研究	4通	○	10			○		31	27	1	1	0	0		
		小計 (7科目)	—	—	10	11	0	—		31	27	1	1	0	0		
	合計 (239科目)	—	—	49	434~482	0	—			31	27	1	1	0	204		
	学位又は称号	学士 (理学)			学位又は学科の分野				理学関係								
	卒業要件及び履修方法	理学関係							授業期間等								
	理学科に4年以上在学し、教養教育において28単位以上、専門教育において理学基礎科目12単位以上、理学共通科目24単位以上、理系専門科目42単位以上、合計88単位以上を修得し、総修得単位数の合計が124単位以上の者を卒業と認定する。	1学年の学期区分				4期											
		1学期の授業期間				8週											
		1時限の授業時間				90分											

教育課程等の概要

(連係協力学部：工学部土木建築学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)以外の教員
基礎科目	英語A-1	1前・後		1				○								14
	英語A-2	1前・後		1				○								17
	英語B-1	1前・後		1				○								17
	英語B-2	1前・後		1				○								16
	英語e	1前・後		1				○								9
	日本語A-1	1・2前			1			○								1
	日本語A-2	1・2前・後			1			○								1
	日本語B-1	1・2前			1			○								1
	日本語B-2	1・2後			1			○								1
	日本語D-1	1・2前			1			○								2
	日本語D-2	1・2後			1			○								2
	ドイツ語 I-1	1前			1			○								1
	ドイツ語 I-2	1後			1			○								1
	ドイツ語 II-1	2前			1			○								1
	ドイツ語 II-2	2後			1			○								1
	フランス語 I-1	1前			1			○								1
	フランス語 I-2	1後			1			○								1
	フランス語 III-1	2前			1			○								1
	フランス語 III-2	2後			1			○								1
	中国語 I-1	1前			1			○								1
	中国語 I-2	1後			1			○								1
	コリア語 I-1	1前			1			○								1
	コリア語 I-2	1後			1			○								1
	コリア語 II-1	2前			1			○								1
	コリア語 II-2	2後			1			○								1
	ロシア語 I-1	1前			1			○								1
	ロシア語 I-2	1後			1			○								1
	ラテン語 I-1	1前			1			○								1
	ラテン語 I-2	1後			1			○								1
	スペイン語 I-1	1前			1			○								1
	スペイン語 I-2	1後			1			○								1
	スペイン語 II-1	2前			1			○								1
	スペイン語 II-2	2後			1			○								1
	ヘブライ語 I-1	1前			1			○								1
	ヘブライ語 I-2	1後			1			○								1
	イタリア語 I-1	1前			1			○								1
	イタリア語 I-2	1後			1			○								1
	日本語 I-2	1・2前・後			1			○								2
	日本語 II-2	1・2前・後			1			○								1
	日本語 III-1	1・2前			1			○								1
	日本語 III-2	1・2前・後			1			○								2
	日本語 IV-1	1前			1			○								1
	日本語 IV-2	1・2前・後			1			○								2
	科目情報	ICTリテラシー	1前		2				○							
	DSリテラシー	1後		2				○								7
理系基礎科目	微分積分 I	1前		2				○								1
	微分積分 II	1後		2				○								1
	線形代数 I	1前		2				○								2
	線形代数 II	1後		2				○								2
小計(49科目)		-	-	17	38	0		-			0	0	0	0	0	61
	文系のための数学入門	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2			○								2
	数学の世界	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2			○								2
	物理学入門	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2			○								7
	教養の化学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2			○								3
	生物の世界	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2			○								9

リベラル アーツ 科目	地球環境の現状と人類	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															1
	持続可能な都市と地域づくり	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															1
	豊かさを持続させるものづくり	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															2
	日々の生活に垣間見る情報と通信	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															2
	倫理学入門	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															2
	心と世界	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															1
	思考と論理	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															1
	現代心理行動学	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															3
	こころの科学	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															1
	芸術文化論	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															1
	文学の諸相	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															3
	モノが語る歴史	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															4
	地域の世界史	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															4
	日本社会の歴史	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															3
	法学の基礎	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															5
	現代政治の諸相	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															3
	最前線の社会文化研究	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															8
	現代社会の解説	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															3
	自然と人間の地理学	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															3
	教養 教育	数学と文化	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○														
物理学の世界		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															1
暮らしと化学		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															3
化学と環境		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															3
最先端の生命科学		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															5
地球環境科学の最前線		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															6
地域づくりと科学技術		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○				3	1										
ものづくりの科学と技術		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															6
暮らしと情報・通信技術		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															3
健康の科学		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															2
病気の医科学		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															2
臨床医学の最前線		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															2
現代社会と医学		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○															1

現代 教養 科目	心身の健康と看護	1・2前・後・①・ ②・③・④		1又は2	○															3
	医療における理工学	1・2前・後・①・ ②・③・④		1又は2	○															1
	現代の医学検査	1・2前・後・①・ ②・③・④		1又は2	○															1
	現代医療と生命科学	1・2前・後・①・ ②・③・④		1又は2	○															2
	薬科学入門	1・2前・後・①・ ②・③・④		1又は2	○															2
	現代社会と薬学	1・2前・後・①・ ②・③・④		1又は2	○															2
	現代教育について考える	1・2前・後・①・ ②・③・④		1又は2	○															7
	心理学の探求	1・2前・後・①・ ②・③・④		1又は2	○															1
	芸術への招待	1・2前・後・①・ ②・③・④		1又は2	○															2
	現代と言語	1・2前・後・①・ ②・③・④		1又は2	○															2
	現代と文学	1・2前・後・①・ ②・③・④		1又は2	○															2
	現代世界の形成と課題	1・2前・後・①・ ②・③・④		1又は2	○															2
	現代社会と経済	1・2前・後・①・ ②・③・④		1又は2	○															5
	現代の政治	1・2前・後・①・ ②・③・④		1又は2	○															2
学際科目	1・2前・後・①・ ②・③・④		1又は2	○															3	
M u l t i S t u d i e s I n a r y	Introduction to Science and Technology I	1・2前・後・①・ ②・③・④		1又は2	○															3
	Introduction to Science and Technology II	1・2前・後・①・ ②・③・④		1又は2	○															1
	Socio-Cultural Studies	1・2前・後・①・ ②・③・④		1又は2	○															5
	World History	1・2前・後・①・ ②・③・④		1又は2	○															1
	Area Studies	1・2前・後・①・ ②・③・④		1又は2	○															4
	Comprehensive English Communication	1・2前・後・①・ ②・③・④		1又は2	○															1
	Global Career Development	1・2前・後・①・ ②・③・④		1又は2	○															1
ボ ク 目 科 目 体 育 ・ ス ポ ー ツ 科 学	体育・スポーツ科学a	1・2①・②・③・ ④		1				○												5
キ ャ リ ア 科 目	キャリア科目	1・2前・後・①・ ②・③・④		1又は2	○															7
開 放 科 目	開放科目	1・2前・後・①・ ②・③・④		1又は2	○						1									5
小計 (62科目)		—	—	0	62~123	0		—			4	1	0	0	0	0	0	0	0	163
教 職 科 目	体 育 ・ ス ポ ー ツ 科 学 科 目 ・ ス ポ ー ツ	体育・スポーツ科学b	1・2①・②・③・ ④		1				○											6
	日 本 国 憲 法 科 目	暮らしの中の憲法	1・2前・後		2				○											2
	小計 (2科目)		—	—	0	3	0		—			0	0	0	0	0	0	0	0	8
工 学 基 礎 科 目	物 理 ・ 化 学 I	1①	○	2					○			1								
	物 理 ・ 化 学 II	1③	○	2					○			1								
	工 学 基 礎 実 験	1前	○	1									1							
	数 学 演 習 I	1前	○	1					○			1								
	数 学 演 習 II	1後	○	1					○			1								
	デ ー タ サイ エ ンス ・ デ ー タ エン ジ ニア リン グ ・ AI 概 論	3前	○	2					○			1	1							
	小計 (6科目)		—	—	9	0	0		—			4	2	0	0	0	0	0	0	0

工学英語科目	工学英語Ⅰ	2前	○	1			○											2		
	工学英語Ⅱ	2後	○	1			○											2		
	工学英語Ⅲ	3前	○	1			○											1		
	工学英語Ⅳ	3後	○	1			○											5		4
	小計(4科目)	—	—	4	0	0	—											0	0	4
関連科目	社会と企業	1後	○	2			○													5
	インターンシップ	3前	○		2				○									1		
	小計(2科目)	—	—	2	2	0	—											0	1	5
学科 基盤 科目	力学Ⅰ	1②	○	2			○											1		
	力学Ⅱ	1④	○	2			○											1		
	空間デザイン演習Ⅰ	1前	○	2				○										1		
	空間デザイン演習Ⅱ	1後	○	2				○										1		
	エンジニアリング・コミュニケーション	2前	○		1			○										1		
	情報処理基礎	2前	○		1			○												
	微分方程式	2①	○		2			○												2
	ベクトル・フーリエ解析	2②	○		2			○												1
	構造力学基礎	2①	○		2			○										1		
	水理学基礎	2②	○		2			○										1		
	土質力学	2①	○		2			○										1		
	土木力学演習Ⅰ	2前	○		1				○									1		
	都市史	2①	○		2			○										1		
	土木計画数理Ⅰ	2②	○		2			○										1		
	都市地域計画学	2②	○		2			○										1		
	建築構造力学Ⅰ	2①	○		2			○										1		
	建築材料Ⅰ	2①	○		2			○										1		
	建築材料実験	2前	○		1				○									1		
	建築環境工学Ⅰ	2①	○		2			○										1		
	建築設計演習Ⅰ	2前	○		2				○									1		
	建築計画Ⅰ	2②	○		2			○										1		
	日本建築史	2②	○		2			○										1		
	工学倫理	2後	○		2			○												1
	安全工学	4前	○		2			○												1
	知的財産権	4前	○		2			○												1
社会 基盤 工学 教育 プロ グラム 専門 科目	土木デザイン	3後	○	4			○											1		
	土木工学実験	3前	○	2				○										1		
	情報処理応用	2後	○	1			○											1		
	測量学	3①	○		2		○											1		
	測量実習	3①	○		1			○										1		
	総合情報演習	3前	○		1			○										1		
	土木計画数理Ⅱ	2④	○		2		○											1		
	構造力学応用	2③	○		2		○											1		
	水理学応用	2④	○		2		○											1		
	地盤工学	2③	○		2		○											1		
	土木力学演習Ⅱ	2後	○		1			○										1		
	建設振動学	3②	○		2		○											1		
	コンクリート構造学	3③	○		2		○											1		
	地球環境学	2③	○		2		○											1		
	環境建設材料学	3②	○		2		○											1		
	水質環境工学	3①	○		2		○											1		
	応用測量学	3④	○		2		○											1		
	景観工学	2③	○		2		○											1		
	河川工学	3②	○		2		○											1		
	交通計画学	2④	○		2		○											1		
地域防災学	3①	○		2		○											1			
災害リスク工学	3③	○		2		○											1			
環境生態保全学	3②	○		2		○											1			
海岸工学	3③	○		2		○											1			
環境地盤工学	3④	○		2		○											1			
岩盤工学	3④	○		2		○											1			
地域 デザ イン 教育 プロ グ ram 専門 科目	都市計画演習	3前	○	4			○											1		
	公共空間デザイン	3後	○	4			○											1		
	情報処理応用	2後	○	1			○											1		
	測量学	3①	○		2		○											1		
	測量実習	3①	○		1			○										1		
	CAD演習	3前	○		1			○										1		
	土木計画数理Ⅱ	2④	○		2		○											1		
	構造力学応用	2③	○		2		○											1		
	水理学応用	2④	○		2		○											1		
	地盤工学	2③	○		2		○											1		
	土木力学演習Ⅱ	2後	○		1			○										1		
	建設振動学	3②	○		2		○											1		
コンクリート構造学	3③	○		2		○											1			
地球環境学	2③	○		2		○											1			

環境建設材料学 水質環境工学 応用測量学 景観工学 交通計画学 地域防災学 災害リスク工学 環境生態保全学 都市情報学 都市環境工学 都市・建築の法規	3②	○	2	○		1													
	3①	○	2	○		1													
	3④	○	2	○		1		1											
	2③	○	2	○		1													
	2④	○	2	○		1													
	3①	○	2	○		1													
	3③	○	2	○		1		1											
	3②	○	2	○		1													
	2④	○	2	○		1													
	3①	○	2	○		1													1
	3後	○	2	○		1													
	3後	○	2	○		1													
	2③	○	2	○		1		1											
	2前	○	1	○		1													
	2後	○	1	○		1			○										
	3②	○	2	○		1													
	3④	○	2	○		1													
	3①	○	2	○		1													
	3④	○	2	○		1													
3①	○	2	○		1														
2③	○	2	○		1														
3①	○	2	○		1														
3③	○	2	○		1														
3前	○	2	○		1														
2④	○	2	○		1														
3②	○	2	○		1														
3後	○	2	○		1			○											
3後	○	2	○		1													1	
2後	○	2	○		1														
3前	○	4	○		1														
3後	○	4	○		2														
3前	○	2	○		1														
2③	○	2	○		1														
2④	○	2	○		1														
3②	○	2	○		1														
3③	○	2	○		1														
2④	○	2	○		1														
2④	○	2	○		1														
4前	○	4	○		1			○											
4通	○	8	○		16	12		○											
小計 (103科目)	—	—	112	98	0	—	—	—	—	16	12	0	5	0	6				
合計 (228科目)	—	—	144	203~264	0	—	—	—	—	16	12	0	5	0	234				
学位又は称号	学士 (工学)		学位又は学科の分野				工学関係												
卒業要件及び履修方法										授業期間等									
4年以上在学し、以下のとおり、教養教育科目32単位以上、専門教育科目98単位以上、合計130単位を修得した者を卒業と認定する。ただし、建築学教育プログラムについては、専門教育科目94単位以上、合計126単位とする。										1学年の学期区分					4期				
①教養教育科目の必修科目17単位、選択科目15単位、合計32単位を修得すること。										1学期の授業期間					8週				
②3つの専門教育プログラムで開講されている科目の中から、 【土木工学教育プログラム】土木工学教育プログラム専門科目の必修科目38単位、学科基盤科目の中で当該教育プログラムが指定した選択科目16単位、およびCOC関連科目、学科基盤科目、当該教育プログラム専門科目の選択科目と合わせて44単位、合計98単位以上を修得すること。 【地域デザイン教育プログラム】地域デザイン教育プログラム専門科目の必修科目40単位、学科基盤科目の中で当該教育プログラムが指定した選択科目16単位、およびCOC関連科目、学科基盤科目、当該教育プログラム専門科目の選択科目と合わせて42単位、合計98単位以上を修得すること。 【建築学教育プログラム】建築学教育プログラム専門科目の必修科目40単位、学科基盤科目の中で当該教育プログラムが指定した選択科目17単位、およびCOC関連科目、学科基盤科目、当該教育プログラム専門科目の選択科目と合わせて37単位、合計94単位以上を修得すること。										1時限の授業時間					90分				

教育課程等の概要

（連係協力学部：工学部機械理工学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹（助手を除く）以外の教員	
基礎科目	英語A-1	1前・後		1				○								14	
	英語A-2	1前・後		1				○								17	
	英語B-1	1前・後		1				○								17	
	英語B-2	1前・後		1				○								16	
	英語e	1前・後		1				○								9	
	日本語A-1	1・2前			1			○								1	
	日本語A-2	1・2前・後			1			○								1	
	日本語B-1	1・2前			1			○								1	
	日本語B-2	1・2後			1			○								1	
	日本語D-1	1・2前			1			○								2	
	日本語D-2	1・2後			1			○								2	
	ドイツ語 I-1	1前			1			○								1	
	ドイツ語 I-2	1後			1			○								1	
	ドイツ語 II-1	2前			1			○								1	
	ドイツ語 II-2	2後			1			○								1	
	フランス語 I-1	1前			1			○								1	
	フランス語 I-2	1後			1			○								1	
	フランス語 III-1	2前			1			○								1	
	フランス語 III-2	2後			1			○								1	
	中国語 I-1	1前			1			○								1	
	中国語 I-2	1後			1			○								1	
	コリア語 I-1	1前			1			○								1	
	コリア語 I-2	1後			1			○								1	
	コリア語 II-1	2前			1			○								1	
	コリア語 II-2	2後			1			○								1	
	ロシア語 I-1	1前			1			○								1	
	ロシア語 I-2	1後			1			○								1	
	ラテン語 I-1	1前			1			○								1	
	ラテン語 I-2	1後			1			○								1	
	スペイン語 I-1	1前			1			○								1	
	スペイン語 I-2	1後			1			○								1	
	スペイン語 II-1	2前			1			○								1	
	スペイン語 II-2	2後			1			○								1	
	ヘブライ語 I-1	1前			1			○								1	
	ヘブライ語 I-2	1後			1			○								1	
	イタリア語 I-1	1前			1			○								1	
	イタリア語 I-2	1後			1			○								1	
	日本語 I-2	1・2前・後			1			○								2	
	日本語 II-2	1・2前・後			1			○								1	
	日本語 III-1	1・2前			1			○								1	
	日本語 III-2	1・2前・後			1			○								2	
	日本語 IV-1	1前			1			○								1	
	日本語 IV-2	1・2前・後			1			○								2	
	科目情報	ICTリテラシー	1前		2				○								7
		DSリテラシー	1後		2				○								7
	理系基礎科目	微分積分 I	1前		2			○			1						
		微分積分 II	1後		2			○			1						
		線形代数 I	1前		2			○			1	1					
		線形代数 II	1後		2			○			1	1					
小計（49科目）		—	—	17	38	0	—	—	—	2	1	0	0	0	58		
	文系のための数学入門	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2			○								2	
	数学の世界	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2			○								2	
	物理学入門	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2			○								7	
	教養の化学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2			○								3	
	生物の世界	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2			○								9	

リベラル アーツ 科目	地球環境の現状と人類	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						1
	持続可能な都市と地域づくり	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						1
	豊かさを持続させるものづくり	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○		2				
	日々の生活に垣間見る情報と通信	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						2
	倫理学入門	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						2
	心と世界	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						1
	思考と論理	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						1
	現代心理行動学	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						3
	こころの科学	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						1
	芸術文化論	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						1
	文学の諸相	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						3
	モノが語る歴史	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						4
	地域の世界史	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						4
	日本社会の歴史	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						3
	法学の基礎	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						5
	現代政治の諸相	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						3
	最前線の社会文化研究	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						8
	現代社会の解説	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						3
	自然と人間の地理学	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						3
	教養 教育	数学と文化	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○					
物理学の世界		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						1
暮らしと化学		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						3
化学と環境		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						3
最先端の生命科学		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						5
地球環境科学の最前線		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						6
地域づくりと科学技術		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						4
ものづくりの科学と技術		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○		2				4
暮らしと情報・通信技術		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						3
健康の科学		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						2
病気の医科学		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						2
臨床医学の最前線		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						2
現代社会と医学		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						1

現代 教養 科目	心身の健康と看護	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○												3
	医療における理工学	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○												1
	現代の医学検査	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○												1
	現代医療と生命科学	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○												2
	薬科学入門	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○												2
	現代社会と薬学	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○												2
	現代教育について考える	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○												7
	心理学の探求	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○												1
	芸術への招待	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○												2
	現代と言語	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○												2
	現代と文学	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○												2
	現代世界の形成と課題	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○												2
	現代社会と経済	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○												5
	現代の政治	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○												2
学際科目	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○												3	
M u l t i s t i d i c i e p s l i n a r y	Introduction to Science and Technology I	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○												3
	Introduction to Science and Technology II	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○												1
	Socio-Cultural Studies	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○												5
	World History	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○												1
	Area Studies	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○												4
	Comprehensive English Communication	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○												1
	Global Career Development	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○												1
ボ ク 目 体 育 ・ ス ポ ー ツ 科 学	体育・スポーツ科学a	1・2①・②・③・ ④			1			○										5
キ ャ リ ア 科 目	キャリア科目	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○												7
開 放 科 目	開放科目	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○												5
小計 (62科目)		—	—	0	62~123	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	164
教 職 科 目	ボ ク 目 体 育 ・ ス ポ ー ツ 科 学	体育・スポーツ科学b	1・2①・②・③・ ④			1			○									6
	日 本 国 憲 法 科 目	暮らしの中の憲法	1・2前・後			2			○									2
	小計 (2科目)		—	—	0	3	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
工 学 基 礎 科 目	物理・化学 I	1①	○	2				○				1						
	物理・化学 II	1③	○	2				○				1						
	工学基礎実験	1前	○	1						○		1						
	数学演習 I	1前	○	1					○									1
	数学演習 II	1後	○	1					○									1
	データサイエンス・データエンジニアリング・AI概論	3前	○	2					○			1	1					
小計 (6科目)		—	—	9	0	0	—	—	—	—	—	3	1	0	0	0	0	2

工学英語科目	工学英語Ⅰ	2前	○	1		○			1						
	工学英語Ⅱ	2後	○	1		○			1						
	工学英語Ⅲ	3前	○	1		○			1						
	工学英語Ⅳ	3後	○	1		○			1						
	小計(4科目)	—	—	4	0	0	—		2	0	0	0	0	0	0
関連科目	社会と企業	1後	○	2		○			1						
	インターンシップ	3前	○		2			○	1						
	小計(2科目)	—	—	2	2	0	—		2	0	0	0	0	0	0
学科基盤科目	工学倫理	1後	○	2		○									1
	安全工学	3前	○		2		○		1						
	知的財産権	4前	○		2		○								1
	コンピューター情報処理基礎	1①	○	2				○	1						
	プログラミング情報処理	1④	○	2				○			1				
	数値解析	2②	○	2	2		○		1						
	微分方程式	1③	○	2			○		1						
	複素関数論	2①	○	2			○						1		
	解析学基礎	2②	○	2	2		○		1						
	ベクトル解析	2②	○	2	2		○		1				1		
	フーリエ解析	2④	○	2			○		1						
	確率統計	2③	○	2			○			2					
	幾何学基礎	2③	○	2	2		○		1						
	実験数学	2後	○	2				○					1		
	工業力学基礎	1②	○	2			○			1					
	工業力学	1④	○	2			○		1						
	機器製作学通論	2①	○	2	2		○			1					
	機械製図およびCAD演習	2前	○	1				○	1						
	熱力学Ⅰ	2①	○	2	2		○		1						
	熱力学Ⅱ	2③	○	2	2		○		1						
	流体力学Ⅰ	2①	○	2	2		○		1						
	流体力学Ⅱ	2③	○	2	2		○			1					
	工業材料	2①	○	2	2		○		1						
	材料力学Ⅰ	2②	○	2	2		○		1						
	材料力学Ⅱ	2③	○	2	2		○		1						
	機械設計学Ⅰ	2②	○	2	2		○		1						
	機械設計学Ⅱ	2④	○	2	2		○			1					
	機構運動学	2③	○	2	2		○		1						
	振動工学	2③	○	2	2		○		1						
	センサー工学	2④	○	2	2		○				1				
	基礎電磁気学	2④	○	2	2		○			1					
	機械工学教育プログラム専門科目	機器製作実習	2前	○	1				○	1					
プロジェクト実習		2後	○	1				○	1						
機械システム演習		4前	○	2				○	2						
切削加工学		3①	○	2	2		○			1					
特殊加工学		3①	○	2	2		○		1						
制御工学Ⅰ		3①	○	2			○		1						
成形工学		3④	○	2	2		○		1						
接合工学		3②	○	2	2		○		1						
伝熱工学		3①	○	2	2		○		1						
エネルギー変換機器		3②	○	2	2		○			1					
流体機械		3③	○	2	2		○			1					
機械工学実験		3前	○	1					1						
設計製図		3後	○	1					1						
卒業研究	4通	○	8					11	7	1					
専門科目	機器製作実習	2前	○	1				○	1						
	プロジェクト実習	2後	○	1				○	1						
	機械システム演習	4前	○	2				○	2						
	固体の力学	3①	○	2	2		○			1					
	特殊加工学	3①	○	2	2		○		1						
	伝熱工学	3①	○	2	2		○		1						
	制御工学Ⅰ	3①	○	2			○		1						
	制御工学Ⅱ	3③	○	2	2		○		1						
	ロボット工学	3④	○	2	2		○		1						
	信号処理	3②	○	2	2		○		1						
	原子力工学	3③	○	2	2		○		1						
	機械工学実験	3前	○	1					1						
	設計製図	3後	○	1					1						
卒業研究	4通	○	8					11	7	1					
専門教育	集合と論理	2①	○		2		○		1						
	信号処理	3②	○		2		○		1						
	制御工学Ⅰ	3①	○	2			○		1						
	ロボット工学	3④	○	2	2		○		1						
	量子力学	3②	○	2	2		○							1	
	アルゴリズム論Ⅰ	3①	○	2	2		○							1	



教育課程等の概要															
(連係協力学部：工学部情報電気工学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	英語A-1	1前・後		1				○						14	
	英語A-2	1前・後		1				○						17	
	英語B-1	1前・後		1				○						17	
	英語B-2	1前・後		1				○						16	
	英語e	1前・後		1				○						9	
	日本語A-1	1・2前			1			○						1	
	日本語A-2	1・2前・後			1			○						1	
	日本語B-1	1・2前			1			○						1	
	日本語B-2	1・2後			1			○						1	
	日本語D-1	1・2前			1			○						2	
	日本語D-2	1・2後			1			○						2	
	ドイツ語 I-1	1前			1			○						1	
	ドイツ語 I-2	1後			1			○						1	
	ドイツ語 II-1	2前			1			○						1	
	ドイツ語 II-2	2後			1			○						1	
	フランス語 I-1	1前			1			○						1	
	フランス語 I-2	1後			1			○						1	
	フランス語 III-1	2前			1			○						1	
	フランス語 III-2	2後			1			○						1	
	中国語 I-1	1前			1			○						1	
	中国語 I-2	1後			1			○						1	
	ロシア語 I-1	1前			1			○						1	
	ロシア語 I-2	1後			1			○						1	
	ロシア語 II-1	2前			1			○						1	
	ロシア語 II-2	2後			1			○						1	
	ロシア語 I-1	1前			1			○						1	
	ロシア語 I-2	1後			1			○						1	
	ラテン語 I-1	1前			1			○						1	
	ラテン語 I-2	1後			1			○						1	
	スペイン語 I-1	1前			1			○						1	
	スペイン語 I-2	1後			1			○						1	
	スペイン語 II-1	2前			1			○						1	
	スペイン語 II-2	2後			1			○						1	
	ヘブライ語 I-1	1前			1			○						1	
	ヘブライ語 I-2	1後			1			○						1	
	イタリア語 I-1	1前			1			○						1	
	イタリア語 I-2	1後			1			○						1	
	日本語 I-2	1・2前・後			1			○						2	
	日本語 II-2	1・2前・後			1			○						1	
	日本語 III-1	1・2前			1			○						1	
	日本語 III-2	1・2前・後			1			○						2	
	日本語 IV-1	1前			1			○						1	
	日本語 IV-2	1・2前・後			1			○						2	
	科目情報	ICTリテラシー	1前		2				○						7
		DSリテラシー	1後		2				○						7
	理系基礎科目	微分積分 I	1前		2			○							1
		微分積分 II	1後		2			○							1
		線形代数 I	1前		2			○							1
	線形代数 II	1後		2			○							1	
小計 (48科目)				-	-	17	38	0	-		0	0	0	0	53
	文系のための数学入門	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2			○						2	
	数学の世界	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2			○						2	
	物理学入門	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2			○						7	
	教養の化学	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2			○						3	
	生物の世界	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2			○						9	

リベラル アーツ 科目	地球環境の現状と人類	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							1
	持続可能な都市と地域づくり	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							1
	豊かさを持続させるものづくり	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							2
	日々の生活に垣間見る情報と通信	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○			2				
	倫理学入門	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							2
	心と世界	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							1
	思考と論理	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							1
	現代心理行動学	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							3
	こころの科学	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							1
	芸術文化論	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							1
	文学の諸相	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							3
	モノが語る歴史	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							4
	地域の世界史	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							4
	日本社会の歴史	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							3
	法学の基礎	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							5
	現代政治の諸相	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							3
	最前線の社会文化研究	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							8
	現代社会の解説	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							3
	自然と人間の地理学	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							3
	教養 教育	数学と文化	1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○						
物理学の世界		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							1
暮らしと化学		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							3
化学と環境		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							3
最先端の生命科学		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							5
地球環境科学の最前線		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							6
地域づくりと科学技術		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							4
ものづくりの科学と技術		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							6
暮らしと情報・通信技術		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○			3				
健康の科学		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							2
病気の医科学		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							2
臨床医学の最前線		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							2
現代社会と医学		1・2前・後・①・ ②・③・④	1又は2	○							1

現代 教養 科目	心身の健康と看護	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														3
	医療における理工学	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														1
	現代の医学検査	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														1
	現代医療と生命科学	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														2
	薬科学入門	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														2
	現代社会と薬学	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														2
	現代教育について考える	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														7
	心理学の探求	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														1
	芸術への招待	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														2
	現代と言語	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														2
	現代と文学	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														2
	現代世界の形成と課題	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														2
	現代社会と経済	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														5
	現代の政治	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														2
学際科目	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														3	
M u l t i s t i d i c i e p t i n a r y	Introduction to Science and Technology I	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														3
	Introduction to Science and Technology II	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														1
	Socio-Cultural Studies	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														5
	World History	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														1
	Area Studies	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														4
	Comprehensive English Communication	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														1
	Global Career Development	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○														1
ポ ク 目 体 育 ・ ス ポ ー ツ 科 学	体育・スポーツ科学a	1・2①・②・③・ ④			1		○												5	
キ ャ リ ア 科 目	キャリア科目	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○													7	
開 放 科 目	開放科目	1・2前・後・①・ ②・③・④			1又は2	○													5	
小計 (62科目)		—	—	0	62~123	0	—				6	0	0	0	0	0	0	0	162	
教 職 科 目	ポ ク 目 体 育 ・ ス ポ ー ツ 科 学	体育・スポーツ科学b	1・2①・②・③・ ④		1		○												6	
	日 本 国 憲 法 科 目	暮らしの中の憲法	1・2前・後		2		○												2	
	小計 (2科目)		—	—	0	3	0	—				0	0	0	0	0	0	0	8	
工 学 基 礎 科 目	物理・化学 I	1①	○	2			○				1	1								
	物理・化学 II	1③	○	2			○				1									
	工学基礎実験	1前	○	1					○		1									
	数学演習 I	1前	○	1				○			1							1		
	数学演習 II	1後	○	1				○											2	
	データサイエンス・データエンジニアリング・AI概論	3前	○	2				○				1								
	小計 (6科目)		—	—	9	0	0	—				3	2	0	2	0	0	0	0	

工学英語科目	工学英語Ⅰ	2前	○	1			○			1					
	工学英語Ⅱ	2後	○	1			○			1					
	工学英語Ⅲ	3前	○	1			○			2					
	工学英語Ⅳ	3後	○	1			○			2					
	小計(4科目)	—	—	4	0	0	—			3	0	0	0	0	0
関連科目	社会と企業	1後	○	2			○			3					
	インターンシップ	3前	○		2				○		1				
	小計(2科目)	—	—	2	2	0	—			3	1	0	0	0	0
学科基盤科目	ものづくり入門実習	1前	○	1					○		1				
	論理回路	1③	○	2			○			1					
	論理回路演習	1③	○	1				○				1			
	電気回路Ⅰ	1④	○	2			○			1					
	電気回路演習Ⅰ	1④	○	1				○				1			
	電気回路Ⅱ	2①	○		2		○			1					
	プログラミング方法論	1④	○	2			○			1					
	プログラミング演習Ⅰ	1④	○	1				○				1			
	情報理論	2①	○	2			○			1					
	アルゴリズム論Ⅰ	2①	○		2		○			1					
	コンピュータシステム論	2①	○		2		○				1				
	電磁気学Ⅰ	2②	○		2		○			1					
	離散数学	2②	○		2		○			1					
	複素関数論	2①	○		2		○				1				
	微分方程式	2②	○		2		○			1					
	ベクトル解析	2③	○		2		○							2	
	確率統計	2③	○		2		○							2	
	フーリエ解析	2④	○		2		○				1				
	課題解決法演習	2④	○		1			○		1					
	工学倫理	2後	○		2		○								1
	安全工学	3前	○			2		○							1
知的財産権	4前	○			2		○							1	
電気工学教育プログラム専門科目	電気回路Ⅲ	3①	○		2		○			1					
	電気回路演習Ⅱ	2①	○	1				○		1	1				
	電気計測	2③	○		2		○			1					
	固体エレクトロニクス基礎Ⅰ	2①	○		2		○							1	
	固体エレクトロニクス基礎Ⅱ	2②	○		2		○							1	
	量子力学	3②	○		2		○			1					
	電気電子材料	3③	○		2		○			1					
	半導体工学	3④	○		2		○				1				
	電力発生工学	3②	○		2		○							1	
	電力輸送工学	3③	○		2		○							1	
	プラズマ工学	3③	○		2		○				1				
	電気エネルギー変換工学	3③	○		2		○				1				
	パワーエレクトロニクス	3④	○		2		○			1					
	高電圧パルスパワー工学	3④	○		2		○			1					
	電気機器設計製図	4①	○		2		○			1					
	電磁気学Ⅱ	2④	○		2		○			1					
	電磁気学演習Ⅰ	2②	○		1			○					1		
	電磁気学演習Ⅱ	2④	○		1			○				1			
	電磁気学Ⅲ	3①	○		2		○							1	
	通信工学	3②	○		2		○							1	
	制御工学Ⅰ	2②	○		2		○			1					
	制御工学Ⅱ	3①	○		2		○				1				
	アナログ電子回路	2③	○		2		○			1					
	画像処理・パターン認識	3②	○		2		○			1					
	生体情報システム	3③	○		2		○			1					
	音響音声工学	3③	○		2		○				1				
	デジタル信号処理Ⅰ	2④	○		2		○			1					
	デジタル信号処理Ⅱ	3①	○		2		○				1				
	デジタル電子回路	3②	○		2		○				1				
	プログラミング演習Ⅱ	2①	○		1			○					1		
	情報セキュリティ	3④	○		2		○			1					
	情報電気電子のフロンティア	3④	○		2		○								1
情報電気電子工学実験Ⅰ	2前	○		1				○		2					
情報電気電子工学実験Ⅱ	2後	○		1				○		2					
情報電気電子工学実験Ⅲ	3①	○		1				○		2					
情報電気電子工学実験Ⅳ	3②	○		1				○		2					
情報電気電子工学創造実験	3後	○		1				○		2					
セミナー	3④	○			1		○			1					
プレゼンテーション技術	4前	○			1		○			1					
専門教育	電気回路Ⅲ	3①	○		2		○			1					
	電気回路演習Ⅱ	2①	○	1				○			1				
	電気計測	2③	○		2		○			1					
	制御工学Ⅰ	2②	○		2		○			1					



情報電気電子工学創造実験	3後	○	1				○									
セミナー	3④	○		1			○			1	2					
プレゼンテーション技術	4前	○	1				○			1						
卒業研究	4通	○	8				○			20	15	0	6	0	0	
小計 (142科目)	—	—	84	168	0	—	—			20	15	0	6	0	9	
合計 (266科目)	—	—	116	273~334	0	—	—			20	15	0	6	0	224	
学位又は称号	学士 (工学)		学位又は学科の分野			工学関係										
卒業要件及び履修方法									授業期間等							
<p>4年以上在学し、以下のとおり、教養教育科目32単位以上、専門教育科目94単位以上、合計126単位を修得した者を卒業と認定する。ただし、情報工学教育プログラムについては、専門教育科目96単位以上、合計128単位とする。</p> <p>①教養教育科目の必修科目17単位、選択科目15単位、合計32単位を修得すること。</p> <p>②3つの専門教育プログラムで開講されている科目の中から、  <b>【電気工学教育プログラム】</b> 電気工学教育プログラム専門科目の必修科目50単位、学科基盤科目の中で当該教育プログラムが指定した選択科目4単位、およびCOC関連科目、学科基盤科目、当該教育プログラム専門科目の選択科目と合わせて40単位、合計94単位以上を修得すること。</p> <p><b>【電子工学教育プログラム】</b> 電子工学教育プログラム専門科目の必修科目50単位、学科基盤科目の中で当該教育プログラムが指定した選択科目4単位、およびCOC関連科目、学科基盤科目、当該教育プログラム専門科目の選択科目と合わせて40単位、合計94単位以上を修得すること。</p> <p><b>【情報工学教育プログラム】</b> 情報工学教育プログラム専門科目の必修科目50単位、学科基盤科目の中で当該教育プログラムが指定した選択科目4単位、およびCOC関連科目、学科基盤科目、当該教育プログラム専門科目の選択科目と合わせて42単位、合計96単位以上を修得すること。</p>									1学年の学期区分			4期				
									1学期の授業期間			8週				
									1時限の授業時間			90分				

教育課程等の概要																
(連係協力学部：工学部材料・応用化学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
基礎科目	英語A-1	1前・後		1				○							14	
	英語A-2	1前・後		1				○							17	
	英語B-1	1前・後		1				○							17	
	英語B-2	1前・後		1				○							16	
	英語e	1前・後		1				○							9	
	日本語A-1	1・2前			1			○							1	
	日本語A-2	1・2前・後			1			○							1	
	日本語B-1	1・2前			1			○							1	
	日本語B-2	1・2後			1			○							1	
	日本語D-1	1・2前			1			○							2	
	日本語D-2	1・2後			1			○							2	
	ドイツ語Ⅰ-1	1前			1			○							1	
	ドイツ語Ⅰ-2	1後			1			○							1	
	ドイツ語Ⅱ-1	2前			1			○							1	
	ドイツ語Ⅱ-2	2後			1			○							1	
	フランス語Ⅰ-1	1前			1			○							1	
	フランス語Ⅰ-2	1後			1			○							1	
	フランス語Ⅲ-1	2前			1			○							1	
	フランス語Ⅲ-2	2後			1			○							1	
	中国語Ⅰ-1	1前			1			○							1	
	中国語Ⅰ-2	1後			1			○							1	
	コリア語Ⅰ-1	1前			1			○							1	
	コリア語Ⅰ-2	1後			1			○							1	
	コリア語Ⅱ-1	2前			1			○							1	
	コリア語Ⅱ-2	2後			1			○							1	
	ロシア語Ⅰ-1	1前			1			○							1	
	ロシア語Ⅰ-2	1後			1			○							1	
	ラテン語Ⅰ-1	1前			1			○							1	
	ラテン語Ⅰ-2	1後			1			○							1	
	スペイン語Ⅰ-1	1前			1			○							1	
	スペイン語Ⅰ-2	1後			1			○							1	
	スペイン語Ⅱ-1	2前			1			○							1	
	スペイン語Ⅱ-2	2後			1			○							1	
	ヘブライ語Ⅰ-1	1前			1			○							1	
	ヘブライ語Ⅰ-2	1後			1			○							1	
	イタリア語Ⅰ-1	1前			1			○							1	
	イタリア語Ⅰ-2	1後			1			○							1	
	日本語Ⅰ-2	1・2前・後			1			○							2	
	日本語Ⅱ-2	1・2前・後			1			○							1	
	日本語Ⅲ-1	1・2前			1			○							1	
	日本語Ⅲ-2	1・2前・後			1			○							2	
	日本語Ⅳ-1	1前			1			○							1	
	日本語Ⅳ-2	1・2前・後			1			○							2	
	科目情報	ICTリテラシー	1前		2				○							7
		DSリテラシー	1後		2				○							7
	理系基礎科目	微分積分Ⅰ	1前		2			○								1
		微分積分Ⅱ	1後		2			○								1
		線形代数Ⅰ	1前		2			○								1
		線形代数Ⅱ	1後		2			○								1
	小計(49科目)	—	—	17	38	0	—			0	0	0	0	0	53	
	文系のための数学入門	1・2前・後・①・②・③・④			1又は2			○							2	



教養科目	現代教養科目	地域づくりと科学技術	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○						4	
		ものづくりの科学と技術	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		2	2			2	
		暮らしと情報・通信技術	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○							3
		健康の科学	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○							2
		病気の医科学	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○							2
		臨床医学の最前線	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○							2
		現代社会と医学	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○							1
		心身の健康と看護	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○							3
		医療における理工学	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○							1
		現代の医学検査	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○							1
		現代医療と生命科学	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○							2
		薬科学入門	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○							2
		現代社会と薬学	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○							2
		現代教育について考える	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○							7
		心理学の探求	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○							1
		芸術への招待	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○							2
		現代と言語	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○							2
		現代と文学	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○							2
		現代世界の形成と課題	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○							2
		現代社会と経済	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○							5
現代の政治	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○							2		
学際科目	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○							3		
M u l t i S o c i a l S t u d i e s I n t e r n a t i o n a l S t u d i e s	Introduction to Science and Technology I	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○			1				2	
	Introduction to Science and Technology II	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○			1					
	Socio-Cultural Studies	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○			1				4	
	World History	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○							1	
	Area Studies	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○			1				3	
	Comprehensive English Communication	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○							1	
	Global Career Development	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○							1	



専門教育	プログラム専門科目	有機分子構造化学	2③	○	2		○		1									
		生化学Ⅱ	3④	○	2		○				1							
		バイオテクノロジー	3④	○	2		○		1									
		電気化学	3②	○		2		○				1						
		環境科学Ⅱ	3前・後	○	1		○					1						
		化学物質管理学	2①	○	1		○										1	
		応用生命化学	3②	○	1		○										1	
		応用物質化学	3①	○	1		○										1	
		化学コミュニケーション	4③	○		1		○				1						
		専門科目	応用物質化学教育プログラム専門科目	物理化学Ⅱ	2④	○	2		○		1							
分析化学Ⅱ	3①			○	2		○		1									
反応工学	2③			○	2		○		1									
無機化学Ⅱ	3③			○	2		○		1									
有機化学Ⅱ	3②			○	2		○		1									
量子化学	3③			○	2		○				1							
化学実験Ⅰ	2③			○	4								1					
化学実験Ⅱ	2④			○	4								1		1			
化学実験Ⅲ	3①			○	4								2					
化学実験Ⅳ	3②			○	4								2					
化学実験Ⅴ	3③			○	4										2			
電気化学	3②			○		2		○					1					
分離工学	3①			○	2		○			1								
高分子物理化学	2④			○	2		○			1								
有機分子構造化学	2③			○	2		○			1								
環境科学Ⅱ	3前・後			○		1		○					1					
化学物質管理学	2①			○	1		○										1	
応用物質化学	3①			○	1		○										1	
応用生命化学	3②			○	1		○										1	
化学コミュニケーション	4③			○		1		○				1						
物質材料工学教育プログラム専門科目	格子欠陥学	2③	○	2		○		1										
	結晶塑性学	2④	○	2		○		1										
	物性物理学	2③	○	2		○				1								
	固体物性学	2④	○	2		○		1										
	固体内の拡散	2③	○	2		○				1								
	相変態論	2④	○	2		○		1										
	材料物理化学	2①	○	2		○		1										
	材料電気化学	2④	○	2		○		1										
	破壊工学	3①	○		1		○		1									
	塑性加工学	3③	○		1		○		1									
	電子材料工学	3②	○		1		○				1							
	機能材料学	3④	○		1		○		1									
	磁性材料工学Ⅰ	3①	○		1		○		1									
	磁性材料工学Ⅱ	3②	○		1		○		1									
	粉体加工学Ⅰ	3③	○		1		○		1									
	粉体加工学Ⅱ	3④	○		1		○		1									
	鉄鋼材料学	3①	○		1		○		1									
	非鉄金属学	3③	○		1		○				1							
	凝固工学	3③	○		1		○				1							
	鉄鋼製錬工学	3①	○		1		○				1							
	非鉄製錬工学	3②	○		1		○				1							
	腐食防食学	3④	○		1		○		1									
	セラミックス材料工学	3③	○		1		○		1									
	機器分析学	3④	○		1		○				2							
	プログラミング演習	2①	○	2			○		1									
	機器製作実習	2前	○	1				○	1									
機械設計製図演習	2後	○	1				○			1								
物質材料工学実験・基礎編	3前	○	1					1										
物質材料工学実験・応用編	3後	○	2					1										
産業応用演習	3③	○	2				○	1										
物質材料工学演習	4①	○	2				○	1										
卒業研究	4通	○	8				○		18	14	0	4	0	0				
小計 (94科目)		—	—	121	63	0	—		18	14	0	4	0	7				
合計 (220科目)		—	—	153	168~229	0	—		18	14	0	4	0	221				
学位又は称号		学士 (工学)			学位又は学科の分野			工学関係										
卒業要件及び履修方法									授業期間等									

4年以上在学し、以下のとおり、教養教育科目32単位以上、専門教育科目94単位以上、合計126単位を修得した者を卒業と認定する。ただし、物質材料工学教育プログラムについては、専門教育科目97単位以上、合計129単位とする。

①教養教育科目の必修科目17単位、選択科目15単位、合計32単位を修得すること。

②3つの専門教育プログラムで開講されている科目の中から、

**【応用生命化学教育プログラム】** 応用生命化学教育プログラム専門科目の必修科目56単位、学科基盤科目の中で当該教育プログラムが指定した選択科目13単位、およびCOC関連科目、学科基盤科目、当該教育プログラム専門科目の選択科目と合わせて25単位、合計94単位以上を修得すること。

**【地域デザイン教育プログラム】** 地域デザイン教育プログラム専門科目の必修科目56単位、学科基盤科目の中で当該教育プログラムが指定した選択科目13単位、およびCOC関連科目、学科基盤科目、当該教育プログラム専門科目の選択科目と合わせて25単位、合計94単位以上を修得すること。

**【物質材料工学教育プログラム】** 物質材料工学教育プログラム専門科目の必修科目45単位、学科基盤科目の中で当該教育プログラムが指定した選択科目18単位、およびCOC関連科目、学科基盤科目、当該教育プログラム専門科目の選択科目と合わせて34単位、合計97単位以上を修得すること。

1 学年の学期区分	4 期
1 学期の授業期間	8 週
1 時限の授業時間	9 0 分

教 育 課 程 等 の 概 要																
(連係協力学部：工学部半導体デバイス工学課程)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員  ( 助 手 を 除 く )
基礎科目	外国語科目	英語A-1		1前・後	1				○						14	
		英語A-2		1前・後	1				○						17	
		英語B-1		1前・後	1				○						17	
		英語B-2		1前・後	1				○						16	
		英語e		1前・後	1				○						9	
		日本語A-1		1・2前		1			○						1	
		日本語A-2		1・2前・後		1			○						1	
		日本語B-1		1・2前		1			○						1	
		日本語B-2		1・2後		1			○						1	
		日本語D-1		1・2前		1			○						2	
		日本語D-2		1・2後		1			○						2	
		ドイツ語 I-1		1前		1			○						1	
		ドイツ語 I-2		1後		1			○						1	
		ドイツ語 II-1		2前		1			○						1	
		ドイツ語 II-2		2後		1			○						1	
		フランス語 I-1		1前		1			○						1	
		フランス語 I-2		1後		1			○						1	
		フランス語 III-1		2前		1			○						1	
		フランス語 III-2		2後		1			○						1	
		中国語 I-1		1前		1			○						1	
		中国語 I-2		1後		1			○						1	
		コリア語 I-1		1前		1			○						1	
		コリア語 I-2		1後		1			○						1	
		コリア語 II-1		2前		1			○						1	
		コリア語 II-2		2後		1			○						1	
		ロシア語 I-1		1前		1			○						1	
		ロシア語 I-2		1後		1			○						1	
		ラテン語 I-1		1前		1			○						1	
		ラテン語 I-2		1後		1			○						1	
		スペイン語 I-1		1前		1			○						1	
		スペイン語 I-2		1後		1			○						1	
		スペイン語 II-1		2前		1			○						1	
		スペイン語 II-2		2後		1			○						1	
		ヘブライ語 I-1		1前		1			○						1	
		ヘブライ語 I-2		1後		1			○						1	
		イタリア語 I-1		1前		1			○						1	
		イタリア語 I-2		1後		1			○						1	
		日本語 I-2		1・2前・後		1			○						2	
		日本語 II-2		1・2前・後		1			○						1	
		日本語 III-1		1・2前		1			○						1	
		日本語 III-2		1・2前・後		1			○						2	
		日本語 IV-1		1前		1			○						1	
		日本語 IV-2		1・2前・後		1			○						2	
		科目 目録	ICTリテラシー	1前		2				○						7
			DSリテラシー	1後		2				○						7
		理系 目 基 礎 科	微分積分 I	1前		2			○							1
			微分積分 II	1後		2			○							1
			線形代数 I	1前		2			○			1				1
			線形代数 II	1後		2			○			1				1
小計 (49科目)		—	—	17	38	0	—	—	—	0	1	0	0	0	60	
	文系のための数学入門	1・2前・後・ ①・②・③・④			1又は2			○						2		
	数学の世界	1・2前・後・ ①・②・③・④			1又は2			○						2		

教養教育	リベラルアーツ科目	物理学入門	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○	1	6	
		教養の化学	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		3	
		生物の世界	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		9	
		地球環境の現状と人類	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		1	
		持続可能な都市と地域づくり	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		1	
		豊かさを持続させるものづくり	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○	1	1	
		日々の生活に垣間見る情報と通信	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○	1	1	
		倫理学入門	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		2	
		心と世界	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		1	
		思考と論理	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		1	
		現代心理行動学	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		3	
		こころの科学	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		1	
		芸術文化論	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		1	
		文学の諸相	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		3	
		モノが語る歴史	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		4	
		地域の世界史	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		4	
		日本社会の歴史	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		3	
		法学の基礎	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		5	
		現代政治の諸相	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		3	
		最前線の社会文化研究	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		8	
		現代社会の解説	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		3	
		自然と人間の地理学	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		3	
		教養科目	数学と文化	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		2
			物理学の世界	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		1
			暮らしと化学	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		3
			化学と環境	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		3
			最先端の生命科学	1・2前・後・ ①・②・③・④	1又は2	○		5
地球環境科学の最前線	1・2前・後・ ①・②・③・④		1又は2	○		6		
地域づくりと科学技術	1・2前・後・ ①・②・③・④		1又は2	○		4		
ものづくりの科学と技術	1・2前・後・ ①・②・③・④		1又は2	○	1	5		



	開 目 放 科	開放科目	1・2前・後・ ①・②・③・④			1又は2		○			1					5
		小計 (62科目)	—	—	0	62~123	0	—			5	2	0	0	0	160
教 職 科 目	体 育 ・ ス ポ ー ツ 科 学 科 目	体育・スポーツ科学b	1・2①・②・ ③・④			1		○								6
	日 本 国 憲 法 科 目	暮らしの中の憲法	1・2前・後			2		○								2
		小計 (2科目)	—	—	0	3	0	—			0	0	0	0	0	8
工 学 基 礎 科 目	物理・化学 I	1①	○	2				○			1					
	物理・化学 II	1③	○	2				○			1					
	工学基礎実験	1前	○	1						○	1					
	数学演習 I	1前	○	1					○		1					
	数学演習 II	1後	○	1					○				1			
	データサイエンス・データエンジニアリング・AI概論	3前	○	2				○			1					
	小計 (6科目)	—	—	9	0	0	—				4	1	0	1	0	0
工 学 英 語 科 目	工学英語 I	2前	○	1				○			1					
	工学英語 II	2後	○	1				○			1					
	工学英語 III	3前	○	1				○			1					
	工学英語 IV	3後	○	1				○			1					
	小計 (4科目)	—	—	4	0	0	—				3	0	0	0	0	0
関 連 科 目 C O C	社会と企業	1後	○	2				○			1					
	インターンシップ	3前	○	2						○	5					
	小計 (2科目)	—	—	2	2	0	—				6	0	0	0	0	0
専 門 教 育	課 程 基 礎 科 目	半導体概論	1③	○	1			○			1					
		論理回路	1③	○	2			○			1					
		論理回路演習	1③	○	1					○				1		
		電気回路 I	1④	○	2				○			1				
		電気回路演習 I	1④	○	1					○				1		
		プログラミング方法論	1④	○	2					○		1				
		プログラミング演習	1④	○	1					○				1		
		固体エレクトロニクス基礎 I	2①	○	2				○			1				
		固体エレクトロニクス基礎 II	2②	○	2		2		○			1				
		電磁気学 I	2②	○	2				○			1				
		電磁気学演習 I	2②	○	1					○						1
		微分方程式	2②	○	2					○		1				
		ベクトル解析	2③	○	2					○		1				
		確率統計	2③	○	2					○			1			
		フーリエ解析	2④	○	2					○			1			
		工学倫理	2③・④	○	2					○						1
		安全工学	3①・②	○	2			2		○		1				
	知的財産権	4①・②	○	2			2		○							1
	専 門 科 目	電気回路 II	2①	○	2				○			1				
		電気回路演習 II	2①	○	1					○		1				
		情報理論	2①	○	2				○			1				
		コンピュータシステム論	2③	○	2				○			1				
		化学物質管理学	2①	○	1				○							1
		物性物理学基礎	2①	○	2				○			1				
		結晶回折学	2②	○	2				○			1				
		物性物理学	2③	○	2				○			1				
		固体内の拡散	2④	○	2				○			1				
状態図と熱力学		2③	○	2				○			1					
有機化学基礎	2③	○	2				○			1						
無機化学基礎	2④	○	2				○			1						
アナログ電子回路	2③	○	2			2		○		1						
電気計測	2③	○	2			2		○		1						
電磁気学 II	2④	○	2			2		○		1						
電磁気学演習 II	2④	○	1			1			○			1				
半導体デバイス I	2④	○	2			2		○		1						
半導体デバイス II	3①	○	2			2		○						1		
半導体プロセス I	2④	○	2			2		○		1						
半導体プロセス II	3①	○	2			2		○		1						
伝熱工学	3①	○	2			2		○		1						
流体力学 I	3①	○	2			2		○		1						

程 応 用 科 目	電気化学	3②	○		2		○			2									
	量子力学	3②	○		2		○			1									
	電子材料工学	3②	○		1		○				1								
	デジタル電子回路	3②	○	2			○				1								
	信号処理	3②	○		2		○				1								
	電気電子材料	3③	○		2		○				1								
	集積システム設計学	3③	○		2		○				1								
	プラズマ工学	3②	○		2		○					1							
	流体力学Ⅱ	3③	○		2		○					1							
	流体機械	3③	○		2		○					1							
	パワーエレクトロニクス	3④	○		2		○												1
	半導体実装信頼性工学	3④	○		2		○				1								
	機器分析学	3④	○		1		○				1								
	半導体工学実験Ⅰ	2①・②	○	1					○			1							
	半導体工学実験Ⅱ	2③・④	○	1					○			1							
	半導体研究論	3④	○	2			○				2								
	半導体製造装置論Ⅰ	3②	○		1		○				2								
	半導体製造装置論Ⅱ	3②	○		1		○				2								
	地域における半導体産業Ⅰ	3③	○		1		○				2								
	地域における半導体産業Ⅱ	3③	○		1		○				2								
半導体実習	3①・②・ ③・④ 4①・②・ ③・④	○		1				○		8	4								
産学連携PBL	3④	○		1				○		2	1								
卒業研究	4通	○		8				○		8	4								
小計(63科目)		-	-	46	68	0	-			23	18	0	4	0	6				
合計(239科目)		-	-	78	173~234	0	-			28	18	0	5	0	225				
学位又は称号	学士(工学)		学位又は学科の分野			工学関係													
卒業要件及び履修方法						授業期間等													
4年以上在学し、以下のとおり、教養教育科目32単位以上、専門教育科目94単位以上、合計126単位を修得した者を卒業と認定する。 ①教養教育科目の必修科目17単位、選択科目15単位、合計32単位を修得すること。 ②専門教育科目の必修科目46単位、およびCOC関連科目、学科基盤科目、当該教育プログラム専門科目の選択科目と合わせて48単位、合計94単位以上を修得すること。						1 学年の学期区分		4 期											
						1 学期の授業期間		8 週											
						1 時限の授業時間		9 0 分											

授 業 科 目 の 概 要					
(共創学環)					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育	基礎科目	外国語科目 必修外国語科目(既修)	英語A-1	国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを目指す。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。社会的、学問的なトピックや日常生活のトピックについて英語で話す積極性を養い、ダイアログでの適切な応答、プレゼンテーション、情報交換、ディスカッションなど、スピーキングの基本的なスキルとストラテジーを養う。	
教養教育	基礎科目	外国語科目 必修外国語科目(既修)	英語A-2	国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを目指す。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。身近な事柄や社会的・アカデミックな話題について、英語で積極的に情報や相手の意図・考えを聞き取りようとする姿勢を培い、様々な題材について「聞くこと」の基礎を身に付ける。	
教養教育	基礎科目	外国語科目 必修外国語科目(既修)	英語B-1	国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを目指す。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。身近な英文を効率的かつ正確に読み解く能力を高め、併せて異文化や異なる価値観への理解を深める。また、精読や速読など目的に応じた読み方ができる「読むこと」の基礎を身に付ける。あわせて、書くことの基礎を培う。	
教養教育	基礎科目	外国語科目 必修外国語科目(既修)	英語B-2	国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを目指す。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。身近な事柄や社会的・アカデミックな話題について、英語で積極的に情報や相手の意図・考えを聞き取りようとする姿勢を培い、様々な題材について「聞くこと」の基礎を身に付ける。さらに、身近な英文を効率的かつ正確に読み解く能力を高め、併せて異文化や異なる価値観への理解を深める。また、精読や速読など目的に応じた読み方ができる「読むこと」の基礎を身に付ける。加えて、発信型の技能(スピーキングやライティング)につながる総合的なコミュニケーション能力の基礎を培う。	
教養教育	基礎科目	外国語科目 必修外国語科目(既修)	英語e	国際理解の深化と拡大のために、専門知識習得の基礎的手段として英語を身に付けるとともに、複眼的視点から国際社会を見る眼を養成することを目指す。さらに、英語における音声の側面を文字の側面と同様に重視し、海外の情報を受信するだけでなく、自分の持つ情報や意見を英語を通して海外に積極的に発信する技能の修得を目指す。大学での学修と国際コミュニケーションに必要な英語基礎力を身につけ、検定試験により各自の英語習熟度を測定し、その結果に応じて授業担当教員のメンタリングを受けながら、継続的に学修に取り組む。学期内に受験するTOEIC IPテストにおいて一定の水準のスコアを獲得することを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目 必修外国語科目(既修)	英語C-1	広範な話題について、英語で積極的に情報や相手の意図・考えを聞き取りようとする姿勢を伸張させ、多様な題材を目的に応じて「聞くこと」ができる技能を身に付ける。さらに、発展的な内容の英文を効率的かつ正確に読み解く能力を高め、併せて異文化や異なる価値観への理解を深める。また、題材や「読むこと」の目的に応じて精読や速読などを効果的に使い分けができることとともに、「読むこと」を通して語彙や表現を豊かにする。加えて、発信型の技能(スピーキングやライティング)につながる総合的なコミュニケーション能力を伸張させる。	
教養教育	基礎科目	外国語科目 必修外国語科目(既修)	英語C-2	広範な話題について、英語で積極的に情報や相手の意図・考えを聞き取りようとする姿勢を伸張させ、多様な題材を目的に応じて「聞くこと」ができる技能を身に付ける。さらに、発展的な内容の英文を効率的かつ正確に読み解く能力を高め、併せて異文化や異なる価値観への理解を深める。また、題材や「読むこと」の目的に応じて精読や速読などを効果的に使い分けができることとともに、「読むこと」を通して語彙や表現を豊かにする。加えて、発信型の技能(スピーキングやライティング)につながる総合的なコミュニケーション能力を伸張させる。	
教養教育	基礎科目	外国語科目 必修外国語科目(初修)	ドイツ語A-1	本授業では、基本的なドイツ語の文章を理解し運用するための初級文法、会話練習や聞き取り練習を通じて、ドイツ語の実践的な運用能力、およびそれに必要な語彙を獲得し、ドイツ語の発音、基礎的な文法規則、日常の会話表現を学び、それに応じた語彙力を身につける。文字の読み方、単語の発音規則を学習したあと、動詞の基本的な用法、名詞の格変化からはじめて、間接話法や非現実話法(仮定法)に至る初級文法を体系的に習得する。	選択必修

教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	ドイツ語A-2		本授業では、基本的なドイツ語の文章を理解し運用するための初級文法、会話練習や聞き取り練習を通じて、ドイツ語の実践的な運用能力、およびそれに必要な語彙を獲得し、ドイツ語の発音、基礎的な文法規則、日常の会話表現を学び、それに応じた語彙力を身につける。文字の読み方、単語の発音規則を学習したあと、動詞の基本的な用法、名詞の格変化からはじめて、間接話法や非現実話法(仮定法)に至る初級文法を体系的に習得する。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	ドイツ語B-1		本授業は受講者のドイツ語基礎能力を養い、特に会話能力の向上を目的とする。総合的なドイツ語能力の向上を目指し、授業の主眼としては、主にリスニングの練習ならびに文法事項を様々なシチュエーションで実際に使うことによって、「聴く」能力と「話す」能力を身につける。授業は教科書に沿って、原則として2回の授業で1課ずつ進めていく。パートナー練習などにより、よく使われる表現の練習も行う。さらに、「書き言葉」と「話し言葉」の相違にも注意しながら、ドイツ語と日本語の様々なコミュニケーションスタイルの文化的背景を理解する。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	ドイツ語B-2		本授業は受講者のドイツ語基礎能力を養い、特に会話能力の向上を目的とする。総合的なドイツ語能力の向上を目指し、授業の主眼としては、主にリスニングの練習ならびに文法事項を様々なシチュエーションで実際に使うことによって、「聴く」能力と「話す」能力を身につける。授業は教科書に沿って、原則として2回の授業で1課ずつ進めていく。パートナー練習などにより、よく使われる表現の練習も行う。さらに、「書き言葉」と「話し言葉」の相違にも注意しながら、ドイツ語と日本語の様々なコミュニケーションスタイルの文化的背景を理解する。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	フランス語A-1		現代フランス語の初級文法を一通り習得する。音と綴り字の規則から直説法複合過去までを学ぶ。現代フランス語の初級文法の要点を発音から直説法複合過去まで学修し、品詞(冠詞・名詞・動詞・前置詞など)の区別が付き、基本動詞活用20(être, avoir, habiter, aimer, finir, partir, sortirなど)を習得する。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	フランス語A-2		フランス語A-1に引き続き、現代フランス語の初級文法を一通り習得する。音と綴り字の規則から接続法現在までを学ぶ。現代フランス語の初級文法の要点を発音から接続法まで学修し、綴り字の正確な読みにも習熟する。また、初級文法を一通り習得し、辞書を用いれば、平易な現代フランス語を読解できるようになる。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	フランス語B-1		平易な文を読解かつ作文でき、オーラルコミュニケーションが出来るようになること、簡単な会話ができるようになること、辞書を利用すれば、平易な文章が理解できること、ごく簡単な文章が書けることを目的とする。教科書に沿って授業を行い、毎授業、リスニング、フランス語の表現・会話を実践する簡単なアクティビティを行う。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	フランス語B-2		フランス語の口頭表現や筆記の実用による教育と学習。二人一組がクラス全員と一緒に勉強する。平易な文を読解かつ作文でき、オーラルコミュニケーションが出来るようになること、簡単な会話ができるようになること、辞書を利用すれば、平易な文章が理解できること、ごく簡単な文章が書けることを目的とする。教科書に沿って授業を行い、毎授業、リスニング、フランス語の表現・会話を実践する簡単なアクティビティを行う。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	中国語A-1		発音、文字、文法、読解、聞き取り、文化の理解など、多様な側面から、総合的に中国語の基本を習得する。授業では、まず発音練習を集中的に繰り返して、中国語の発音がある程度スムーズに発せられ、また基本的な音の聞き分けができるようにする。また、簡単な文法事項の学習と、それに応じた短い文章の読解、聞き取り、書き取り、作文などができるようにする。事前事後学習として、音声資料などを聞きながらの発音練習、短文の暗唱などを反復を行う。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	中国語A-2		発音、文字、文法、読解、聞き取り、文化の理解など、多様な側面から、総合的に中国語の基本を習得する。授業では、まず発音練習を集中的に繰り返して、中国語の発音がある程度スムーズに発せられ、また基本的な音の聞き分けができるようにする。また、簡単な文法事項の学習と、それに応じた短い文章の読解、聞き取り、書き取り、作文などができるようにする。事前事後学習として、音声資料などを聞きながらの発音練習、短文の暗唱などを反復を行う。	選択必修

教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	中国語B-1		発音、文字、文法、読解、聞き取り、文化の理解など、多様な側面から、総合的に中国語の基本を習得する。授業では、まず発音練習を集中的に繰り返して、中国語の発音がある程度スムーズに発せられ、また基本的な音の聞き分けができるようにする。また、簡単な文法事項の学習と、それに応じた短い文章の読解、聞き取り、書き取り、作文などができるようにする。事前事後学習として、音声資料などを聞きながらの発音練習、短文の暗唱などを反復を行う。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	中国語B-2		発音、文字、文法、読解、聞き取り、文化の理解など、多様な側面から、総合的に中国語の基本を習得する。授業では、まず発音練習を集中的に繰り返して、中国語の発音がある程度スムーズに発せられ、また基本的な音の聞き分けができるようにする。また、簡単な文法事項の学習と、それに応じた短い文章の読解、聞き取り、書き取り、作文などができるようにする。事前事後学習として、音声資料などを聞きながらの発音練習、短文の暗唱などを反復を行う。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	コリア語A-1		韓国語の文字と発音、簡単な文法と表現、コミュニケーション能力を身につける。また、韓国社会と文化に触れることで、異文化理解を深めることを目的とする。まず、韓国語の仕組み、文字、発音のルールを学び、韓国語の正確な発音を身につける。そして、場面ごとの基本表現(学校生活、旅行、道案内など)を会話形式で練習し、韓国語を駆使したコミュニケーション力を身につける。以上のことを楽しく学習するため、韓国社会と文化に関連する資料(映像、歌など)を多く活用する。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	コリア語A-2		韓国語の初・中級レベルの文法、表現、コミュニケーション能力を身につける。また、韓国社会と文化に触れることで、異文化理解を深めることを目的とする。韓国語の初・中級レベルの文法と表現を身につけ、場面ごとの基本的な会話、読解、作文ができるように学習する。また、異文化理解を深めるために学習事項と関連付け、韓国社会と文化についても学習する。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	コリア語B-1		韓国語の文字と発音、簡単な文法と表現、コミュニケーション能力を身につける。また、韓国社会と文化に触れることで、異文化理解を深めることを目的とする。まず、韓国語の仕組み、文字、発音のルールを学び、韓国語の正確な発音を身につける。そして、場面ごとの基本表現(学校生活、旅行、道案内など)を会話形式で練習し、韓国語を駆使したコミュニケーション力を身につける。以上のことを楽しく学習するため、韓国社会と文化に関連する資料(映像、歌など)を多く活用する。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	コリア語B-2		韓国語の初・中級レベルの文法と表現、コミュニケーション能力を身につける。また、韓国社会と文化に触れることで、異文化理解を深めることを目的とする。韓国語の初・中級レベルの文法と表現を身につけ、場面ごとの基本的な会話、読解、作文ができるように学習する。また、韓国社会と文化に触れることで、異文化理解を深める。	選択必修
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	日本語A-1		この授業では、次の4タイプの練習を行い、論理的で説得力のあるスピーチや論拠を提示しながら、構成を考えた口頭発表ができるようになる。(1)自分の意見を論理的に話すスピーチ練習。(2)資料の比較を元に、その結果を発表する練習。(3)インタビュー調査を元に、その結果を発表する練習。(4)グループでプランを作成して発表する練習。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	日本語A-2		この授業では、次の4タイプの練習を行い、論理的で説得力のあるスピーチや論拠を提示しながら、構成を考えた口頭発表ができるようになる。(1)自分の意見を論理的に話すスピーチ練習。(2)資料の比較を元に、その結果を発表する練習。(3)インタビュー調査を元に、その結果を発表する練習。(4)グループでプランを作成して発表する練習。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目(初修)	日本語B-1		幅広い分野のニュースや講義等を自然なスピードで聞き、話の流れや要旨を把握し、詳細を理解できるようになることを目指す。授業では、最近の話題・時事問題や日本の文化などを扱ったニュース・特集番組・講義等を聞き取り、その中で使われている表現・語彙を学んだりタスクに取り組んだりしながら詳細内容を理解する。また、聞き取った内容について、詳しく説明したり意見を交換したり、また関連する自国の状況を紹介したりする。授業外でも、指定されたニュース・特集番組を聴いて書き取るディクテーション課題にも取り組む。	

教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（初修）	日本語B-2		幅広い分野のニュースや講義等を自然なスピードで聞き、話の流れや要旨を把握し、詳細を理解できるようになることを目指す。授業では、最近の話題・時事問題や日本の文化などを扱ったニュース・特集番組・講義等を聴き取り、その中で使われている表現・語彙を学んだりタスクに取り組んだりしながら詳細内容を理解する。また、聴き取った内容について、詳しく説明したり意見を交換したり、また関連する自国の状況を紹介したりする。授業外でも、指定されたニュース・特集番組を聴いて書き取るディクテーション課題にも取り組む。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（初修）	日本語D-1		時事問題を題材に様々なテーマの文章を読みながら、アカデミックな文体や表現に慣れ、論説文を正確に読み取る力を養う。社会問題や時事問題などをテーマとした文章の論理的な構成を正確につかみ、まだ読んだことがない人に内容を伝えるための資料を作成する。また、アカデミックな文体に触れつつ、さまざまな語彙を学ぶ。本授業を通じて、2000字程度の論説文を読み、内容を理解でき、さらに、自分が理解した内容を説明することができるようにする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	必修外国語科目（初修）	日本語D-2		時事問題を題材に様々なテーマの文章を読みながら、アカデミックな文体や表現に慣れ、論説文を正確に読み取る力を養う。社会問題や時事問題などをテーマとした文章の論理的な構成を正確につかみ、まだ読んだことがない人に内容を伝えるための資料を作成する。また、アカデミックな文体に触れつつ、さまざまな語彙を学ぶ。本授業を通じて、2000字程度の論説文を読み、内容を理解でき、さらに、自分が理解した内容を説明することができるようにする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ドイツ語 I-1		ドイツ語初学者が「聞く・話す・読む・書く」能力をバランスよく身につけることを目的とする。できるだけ多くのドイツ語に触れ、場面や状況に即した自然なコミュニケーションを行うことができるようにする。またドイツ（あるいはドイツ語圏）の文化や習慣について理解する。授業は教科書に沿って進め、ドイツ語でのコミュニケーションに必要な知識を身につける。レベルはおおむねヨーロッパ言語共通参照枠A1レベル、独検5級を想定している。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ドイツ語 I-2		ドイツ語初学者が「聞く・話す・読む・書く」能力をバランスよく身につけることを目的とする。できるだけ多くのドイツ語に触れ、場面や状況に即した自然なコミュニケーションを行うことができるようにする。またドイツ（あるいはドイツ語圏）の文化や習慣について理解する。授業は教科書に沿って進め、ドイツ語でのコミュニケーションに必要な知識を身につける。レベルはおおむねヨーロッパ言語共通参照枠A1レベル、独検5級を想定している。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ドイツ語 II-1		ドイツ語の初歩的な知識を踏まえて、さらに高度な「聞く・話す・読む・書く」能力を身につけることを目指す。日常のさまざまな場面や状況に即したドイツ語表現を学び、自然なコミュニケーションを行うことができるようになる。また、ドイツ（あるいはドイツ語圏）の文化や習慣に関する理解を深める。授業は教科書に沿って進め、会話練習や聞き取り問題を中心に、ドイツ語の基礎を復習しながら、発展的な文法規則や語彙を身につける。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ドイツ語 II-2		ドイツ語の初歩的な知識を踏まえて、さらに高度な「聞く・話す・読む・書く」能力を身につけることを目指す。日常のさまざまな場面や状況に即したドイツ語表現を学び、自然なコミュニケーションを行うことができるようになる。また、ドイツ（あるいはドイツ語圏）の文化や習慣に関する理解を深める。授業は教科書に沿って進め、会話練習や聞き取り問題を中心に、ドイツ語の基礎を復習しながら、発展的な文法規則や語彙を身につける。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	フランス語 I-1		フランス語の口頭表現や筆記の実用による教育と学習を行う。二人一組かクラス全員で一緒に学習する。フランス語で指示し、フランス語と日本語でのテキストを用いる。本授業は、教科書に沿って授業を行い、リスニング、フランス語の表現・会話を実践する簡単なアクティビティを行い、平易な文を読解かつ作文でき、オーラルコミュニケーションができるようになる。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	フランス語 I-2		フランス語の口頭表現や筆記の実用による教育と学習を行う。二人一組かクラス全員で一緒に学習する。フランス語で指示し、フランス語と日本語でのテキストを用いる。本授業は、教科書に沿って授業を行い、リスニング、フランス語の表現・会話を実践する簡単なアクティビティを行い、平易な文を読解かつ作文でき、オーラルコミュニケーションができるようになる。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	フランス語 III-1		動詞活用を含め初級文法を総合的に駆使できるように習熟すると共に、中級レベルへとすすむ。辞書を用いて平易な文章を読解できるようになる。フランス語圏の文化と社会に親しむ。基本動詞の活用形の暗唱と平易な日常フランス語の短文の暗唱とを毎回行う。初級文法の復習を随時織り込めつつ、フランス文学の作品の触りを読解する。本授業を通じて、日常の平易なフランス語の発信、動詞活用を含めた初級文法、辞書を用いた平易な文章の読解ができるようになる。	

教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	フランス語Ⅲ-2		動詞活用を含め初級文法を総合的に駆使できるように習熟すると共に、中級レベルへとすすむ。辞書を用いて平易な文章を読解できるようになる。フランス語圏の文化と社会に親しむ。基本動詞の活用形の暗唱と平易な日常フランス語の短文の暗唱とを毎回行う。初級文法の復習を随時織り込めつつ、フランス文学の作品の触りを読解する。本授業を通じて、日常の平易なフランス語の発信、動詞活用を含めた初級文法、辞書を用いた平易な文章の読解ができるようにする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	中国語Ⅰ-1		発音、文字、文法、読解、聞き取り、文化の理解など、多様な側面から、総合的に中国語の基本を習得します。まず発音練習を集中的に繰り返し、中国語の音に慣れていき、中国語の発音がある程度スムーズに発せられ、また基本的な音の聞き分けができるようにする。事前事後の学習では、音声資料などを聞きながらの発音練習、短文の暗唱などを反復して行い、その後、簡単な文法事項の学習と、それに応じた短い文章の読解、聞き取り、書き取り、作文などを身に付ける。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	中国語Ⅰ-2		発音、文字、文法、読解、聞き取り、文化の理解など、多様な側面から、総合的に中国語の基本を習得します。まず発音練習を集中的に繰り返し、中国語の音に慣れていき、中国語の発音がある程度スムーズに発せられ、また基本的な音の聞き分けができるようにする。事前事後の学習では、音声資料などを聞きながらの発音練習、短文の暗唱などを反復して行い、その後、簡単な文法事項の学習と、それに応じた短い文章の読解、聞き取り、書き取り、作文などを身に付ける。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	韓国語Ⅰ-1		ハングルの読み書きができ、正確に発音できるようになるための練習をし、特に平音、激音、濃音の区別やパッチム、発音のルール(音声規則)等に関して詳しく学ぶ。また、「습니다」や「数字」、「指示詞」など、基礎的な韓国語の文法事項を学び簡単な日常会話ができるようにする。授業は主にペア・グループ活動で行い、異文化理解を深めるために、韓国の文化や社会に関して理解を深める。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	韓国語Ⅰ-2		ハングルの読み書きができ、正確に発音できるようになるための練習をし、特に平音、激音、濃音の区別やパッチム、発音のルール(音声規則)等に関して詳しく学ぶ。また、「습니다」や「数字」、「指示詞」など、基礎的な韓国語の文法事項を学び簡単な日常会話ができるようにする。授業は主にペア・グループ活動で行い、異文化理解を深めるために、韓国の文化や社会に関して理解を深める。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	韓国語Ⅱ-1		韓国語の中級レベルの文法、表現、コミュニケーション能力を身につけます。また、韓国社会と文化に触れることで、異文化理解を深めることを目的とする。韓国語の中級レベルの文法と表現を身につけ、場面ごとの会話、読解、作文ができるように学修する。また、異文化理解を深めるために学習事項と関連づけ、韓国の社会と文化についても学修する。本授業を通じて、学習した文法と表現を活用した「聞く、話す、書く、読む」、基本的な日常会話、積極的に自分の考えを韓国語で表現することができるようにする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	韓国語Ⅱ-2		韓国語の中級レベルの文法、表現、コミュニケーション能力を身につけます。また、韓国社会と文化に触れることで、異文化理解を深めることを目的とする。韓国語の中級レベルの文法と表現を身につけ、場面ごとの会話、読解、作文ができるように学修する。また、異文化理解を深めるために学習事項と関連づけ、韓国の社会と文化についても学修する。本授業を通じて、学習した文法と表現を活用した「聞く、話す、書く、読む」、基本的な日常会話、積極的に自分の考えを韓国語で表現することができるようにする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	韓国語Ⅲ-1		韓国語の中級レベルの文法と表現について学び、韓国語能力試験(TOPIKⅠ・Ⅱ)に合格することを目的とする。また、韓国社会と文化に触れることで異文化理解を深める。韓国語の中級レベルの文法と表現を身につけ、様々な問題を解きながら、試験対策(聞き取り、書き取り、読解)ができるように学修し、また、異文化理解を深めるために学習事項と関連づけ、韓国社会と文化について学修する。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	韓国語Ⅲ-2		韓国語の中・上級レベルの文法と表現について学び、韓国語能力試験(TOPIKⅠ・Ⅱ)に合格することを目的とする。また、韓国社会と文化に触れることで異文化理解を深める。韓国語の中・上級レベルの文法と表現を身につけ、様々な問題を解きながら、試験対策(聞き取り、書き取り、読解)ができるように学修し、また、異文化理解を深めるために学習事項と関連づけ、韓国社会と文化について学修する。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ロシア語Ⅰ-1		ロシアも含め、いま劇的に変動するロシア語通用圏のコトバを習得するうえでのロシア語の初歩的な文法を学ぶ。本授業を通じて、キリル文字で読み書きできること、簡単なロシア語の自己表現ができること、基本的な動詞(「読む」や「話す」など)を使って対話を組み立てることができること、ロシア語で自己紹介ができることを目指す。授業前に、テキストをつかってあらかじめ「音読」を行い、授業後に学んだことの再確認を行う。一方的な語学の授業にならないように、定期的に履修者同士でロシア語の実践を行う。	

教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ロシア語 I-2		ロシア語も含め、いま劇的に変動するロシア語通用圏のコトバを習得するうえでロシア語の初歩的な文法を学ぶ。本授業を通じて、キリール文字で読み書きできること、簡単なロシア語の自己表現ができること、基本的な動詞（「読む」や「話す」など）を使って対話を組み立てることができること、ロシア語で自己紹介できることを目指す。授業前に、テキストをつかってあらかじめ「音読」を行い、授業後に学んだことの再確認を行う。一方的な語学の授業にならないように、定期的に履修者同士でロシア語の実践を行う。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ラテン語 I-1		ラテン語の単語の多くは様々な活用変化し、主語動詞などの語順は自由で、文の中で使われている単語が、いかなる語のいかなる変化形であるか判別できなければ、文を読むことができない。本授業では、基本的な活用変化について、段階的に学修することを主として、解読できる文を広げていく。本授業を通じて、名詞・形容詞の基本的変化（第1～3変化）、および動詞の直説法各態各時制活用を習得すること。それにより、ラテン語の基本文法の理解し、平易な文の文法的分析ができることを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ラテン語 I-2		ラテン語の単語の多くは様々な活用変化し、主語動詞などの語順は自由で、文の中で使われている単語が、いかなる語のいかなる変化形であるか判別できなければ、文を読むことができない。本授業では、基本的な活用変化について、段階的に学修することを主として、解読できる文を広げていく。本授業を通じて、名詞・形容詞の基本的変化（第1～3変化）、および動詞の直説法各態各時制活用を習得すること。それにより、ラテン語の基本文法の理解し、平易な文の文法的分析ができることを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	スペイン語 I-1		スペイン語の基礎会話力及び簡単な読み書きを学び、生きたスペイン語として実際に使えるレベルの力を習得する。スペイン語の基本単語、文法を理解するとともに簡単な文章の読み書き及び会話ができるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	スペイン語 I-2		スペイン語 I-1に続き、スペイン語の基礎会話力及び簡単な読み書きを学び、生きたスペイン語として実際に使えるレベルの力を習得する。スペイン語の基本単語、文法を理解するとともに簡単な文章の読み書き及び会話ができるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	スペイン語 II-1		スペイン語 I-2に続き、スペイン語の基礎会話力及び簡単な読み書きを学び、生きたスペイン語として実際に使えるレベルの力を習得する。スペイン語の基本単語、文法を理解するとともに簡単な文章の読み書き及び会話ができるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	スペイン語 II-2		スペイン語 II-1に続き、スペイン語の基礎会話力及び簡単な読み書きを学び、生きたスペイン語として実際に使えるレベルの力を習得する。スペイン語の基本単語、文法を理解するとともに簡単な文章の読み書き及び会話ができるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ヘブライ語 I-1		聖書ヘブライ語の初級文法についての概説を確認し、練習問題を解くことによって、その知識の定着を促す。文字の書き方と読み方をマスターし、さまざまな音規則、簡単な名詞文の読解、名詞や形容詞の語形変化を学ぶ。ユダヤ文化、ユダヤ人の歴史、現代のイスラエルなどについても紹介する。本授業を通じて、ヘブライ語の発音、文法、語彙の定着、文章の読解を学び、やさしい文が原語で読めるようになることを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	ヘブライ語 I-2		聖書ヘブライ語の初級文法についての概説を確認し、練習問題を解くことによって、その知識の定着を促す。文字の書き方と読み方をマスターし、さまざまな音規則、簡単な名詞文の読解、名詞や形容詞の語形変化を学ぶ。ユダヤ文化、ユダヤ人の歴史、現代のイスラエルなどについても紹介する。本授業を通じて、ヘブライ語の発音、文法、語彙の定着、文章の読解を学び、やさしい文が原語で読めるようになることを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	イタリア語 I-1		イタリア語の特徴、文法の基礎及び基本的な表現を学修し、イタリアという国について、生活や文化などを概観する。「読む」・「聴く」などの基礎の語学力を身に付けるためのテキストを使用し、リスニング教材を用いて、学習項目に沿ったリスニングを行う。本授業を通じて、イタリア語の文法事項を理解し、文章を読解すること、基本的な文章が作成できること、イタリア語の文章を聴き内容を理解すること、簡単なイタリア語での会話をすることを目指す。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	イタリア語 I-2		イタリア語の特徴、文法の基礎及び基本的な表現を学修し、イタリアという国について、生活や文化などを概観する。「読む」・「聴く」などの基礎の語学力を身に付けるためのテキストを使用し、リスニング教材を用いて、学習項目に沿ったリスニングを行う。本授業を通じて、イタリア語の文法事項を理解し、文章を読解すること、基本的な文章が作成できること、イタリア語の文章を聴き内容を理解すること、簡単なイタリア語での会話をすることを目指す。	

教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	日本語Ⅰ-2		授業は対面で、ペア・グループによる聞き取り・口頭練習、導入文法を使った読み・書き練習を行う。この授業では、日本語の話す・聞く・読む・書くの4技能を身につけながら、N4レベルの文法を学ぶことを目指す。N4レベルの文法を正しく理解し、習った文法を使って正しい文を発話し、書くことができるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	日本語Ⅱ-2		初級が終わった人を対象に、日常よく接する場面での会話の聞き取り力を高めること、さらに、聞く力を伸ばすことによって、話す力が身につくことを目的としています。登場人物の人間関係や場面が異なるスキットを聞き、タスクを通して内容の理解を深めます。さらに、それぞれの課の重要表現でポイントを確認し、会話の中で使う練習を行う。1. 自然に近いスピードで話される日常会話の具体的な内容が聞き取れるようになること。2. 人間関係や場面、トピックに応じた表現の違いがあることを理解し、自分でも正しく使えるようになること。を目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	日本語Ⅲ-1		中級レベル以降の文法、語彙、表現を身につけて、より高い日本語レベルになることを目指す。中級レベルの大切な学習項目のアウトラインを示して、練習問題を中心に進める。1) 中級レベル(日本語能力試験N3-N2レベル)の日本語力を付け、日本語能力試験N2に合格することができること。2) 中級レベルの文法や語彙を使って、文章を読んだり書いたりすることができること。を目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	日本語Ⅲ-2		授業では、様々な資料を読んだり、その内容について議論したりしながら、いろいろな分野で使われる語彙を増やし、総合的な日本語力の向上を目指します。読みのストラテジーやスキルを使い、おおまかな意味が早く・的確に理解できるようになること。様々な話題について聞き手のことを配慮した表現や話し方ができるようになること。を目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	日本語Ⅳ-1		日本語能力試験N1レベルの文法項目について、その意味・接続・用法・使用制限などを解説する。その後、練習問題を解いて、定着を図る。また、語と語を結びつけて意味の通る文が作れるよう、実際に文を組み立てる練習問題や、まとまった長さの文章の中で文法項目がどのように使われているかを考える練習問題にも取り組む。日本語の読解力や表現力を支える表現文法を学び、既習文法や類似文法との用法・意味の微妙な違いを比較・考察し、練習問題を通して確実に使い分けができるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	外国語科目	自由選択外国語科目	日本語Ⅳ-2		中上級レベルの日本語学習者(日本語レベル4-5、JLPT2級レベル)が、日本の大学生活で必要とされる「公の場でまとまった内容のことを話したり議論したりする」練習をする。主な活動として、「スピーチ」「ディスカッション」を行い、それぞれのテーマの最後には、発表を行う。留学生が大学生活の場で必要とされる「スピーチ」や「ディスカッション」について、大学生に求められるレベルのまとまった内容で、できるようになることを目標とする。	
教養教育	基礎科目	情報基礎科目		ICTリテラシー		大学生活に必要なITスキルを身につけるとともに、ネットワーク社会で生きて行くための情報の収集・作成の基礎を修得する。具体的には、パスワードの取り扱いを始めとする情報セキュリティの基礎や電子メール等のオンラインコミュニケーションにおけるネチケット、検索エンジン等用いた情報収集、著作権・知的財産権を理解した上での引用を学び、構造化された文書を作成する能力を身につける。また、不特定多数が利用するWebサービスを含め、情報セキュリティ・法律・情報倫理についても学ぶ。	
教養教育	基礎科目	情報基礎科目		DSリテラシー		データの処理、集計、可視化、分析を行うためのデータサイエンスの基礎的事項を学習することで、社会における事象を適切に捉え、分析・説明できるようになることを到達目標とする。また、インターネット上での情報発信に必要なWebサイト作成能力、Webアプリケーション活用能力も併せて身につける。データサイエンスやAIの基礎を学び、データサイエンスに用いられる手法と得られる結果の解釈について把握するために、統計学の基礎的内容を概観するとともに、データサイエンスの手法について説明する。また、インターネット上で情報発信を行うための基礎としてHTMLの基本構造やスタイルシートについて併せて学ぶ。	
教養教育	教養科目		リベラルアーツ科目	文系のための数学入門		文系の学生が数学とはどのような学問なのかということを理解し、数学の考え方や使い方を身につけることを目的とする。データサイエンスに関する基礎的事項を理解し、実際にR言語を使用してデータの整理や関係の分析、推定や検定ができるようになることを目指し、データの整理から統計的な分析手法までについて取り扱い、実際にR言語によりそれらの処理ができるように、演習を踏まえて講義する。	

教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	数学の世界		初等整数論に登場する基本的な用語、概念、定理を学び、それらが暗号にどの様に使われているかを理解する。過去の統計活動および確率論に基づく統計学の形成過程について学び、現代社会における確率・統計の役割を知る。データサイエンスやAIの基礎を学び、データサイエンスにおいてはどのような方法で結論が導かれるか、どのような利点や問題点があるかを把握する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	物理学入門		高校の化学で習ったような物質の成り立ちや性質を電子レベルのエネルギーや運動量という観点から眺めることにより、化学の知識を物理学的な観点から直観的かつ本質的に理解するという学びを通じて、物理学的思考方法を身につける。力学を通して、物理法則である数式で自然現象が説明できることを理解する。現代天文学の基礎事項を学び、我々が住む宇宙についての認識を深め、また天文学の背後にある現代科学の素養を身につける。高圧下での物質の挙動の理解を深めるために、圧力に関する歴史を学び、基礎的な物理法則を習得し、生活の中さらには自然界に存在する圧力とその仕組みを理解すること、さらに高圧下で実際に物質が見せる挙動、現象についての知識を深める。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	教養の化学		持続可能性について科学的に理解を深めるために、元素の周期表に基づいて物質の世界を化学的視点で捉え、考察できるようになる。人々のくらしで活躍しているガラスについて、その基礎と応用について化学的視点で説明できるようになる。また、持続可能性の課題を克服するために、ガラスが貢献できることについて提案できるようになる。化学がどのように生まれ進化してきたかを学ぶことで、現代の日常生活を支える化学への理解を深めつつ、物事を多面的角度から見ることの重要性を学ぶ。様々な化学的事例を取り上げその化学的特性について考えることで、特徴や性質について覚えるのではなく、考えて理解する化学の基礎を習得する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	生物の世界		過去のノーベル賞受賞研究を紹介する共に、現代における生命科学とどう繋がっているのかを理解する。生き物にみられる環境適応の多様さ・巧妙さを知るとともに、それを創り出した自然選択(自然淘汰)および進化の原理について正しく理解できるようになる。基本的な生物学的現象を講義し、実験・観察で実際に確認して生物の本来の姿を理解し、生物学的な思考を身につける。生命の設計図である遺伝子DNAを理解し、生命がどのようなシステムで成立しているのかを説明できるようになる。地球上に生命が誕生してからどのように進化してきたかを説明できるようになる。水の中にいる生物の驚くべき特徴や生態について学ぶとともに、実際に自分でも特定の生き物や水に関わる事象について調べ、それを分かりやすく発表する。私たちの体がどのように発生し、次世代に命をつなげているのかについて理解する。植物が環境に応じて成長するしくみを学び、その生物学的な特徴と、私たちとの関わりについて理解する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	地球環境の現状と人類		この宇宙の中で、我々の住む地球とはどのような星なのだろうか。太陽系の各惑星、さらには、太陽系の外に存在する惑星に関する最新の探査、観測によって、宇宙には実に様々な惑星が存在することが明らかとなりつつある。空間的にも、時間的にも広大な宇宙の中に存在するそれら惑星の姿との比較を通して、地球という惑星の存在を理解する。以下の項目について、最新のデータを紹介しつつ講義する。 ・身近な天体一月、太陽と地球の関係と暦 ・太陽系の大きさや宇宙の時間、空間スケール ・地球-月系の特徴と、地球形成以来の地球環境の変遷 ・太陽系形成過程 ・太陽系外惑星系	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	持続可能な都市と地域づくり		熊本県で危惧される自然災害、および派生する社会的災害に対する基本的な知識を有するとともに、それに基づいて平常時からまちづくり等の地域活動に関心を持ち、災害時には適切で主導的な対応ができる知識と姿勢が身につけている人材【減災型地域社会のリーダー】の育成を目指し、次の3項目を修得する。自然災害の基本的発生メカニズムを自然科学と社会科学の両面から学ぶ。災害に関する基礎的情報とそれらの取り扱い方、基礎的減災対策の事項を具体的に学ぶ。その上で減災リテラシー入門が目指す「減災型地域社会」の提示と、それに関わる様々なステークホルダーの役割と相互理解の必要性、減災リーダーに求められる資質を理解する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	豊かさを持続させるものづくり		地球温暖化を紹介し、環境問題を抑制するPPTを用いた再生可能エネルギーの基礎研究について説明し、バイオマス・エネルギーに関する基礎知識を理解する。毎回、先端の科学技術にかかわるいくつかのトピックを取り上げて講義し、科学技術発展の現状を理解するとともに、現在ある課題を理解することに加えて、科学技術の未来について学ぶ。本授業を通じて、エネルギーと社会・暮らしとの関わりについて考えを展開していくためのきっかけや手がかりを見出し、広く深く思考展開ができることを目指す。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	日々の生活に垣間見る情報と通信		テレビ、ラジオ、携帯電話など、電波を利用した電子機器がいかなる機能をもつ部品と回路の組合せでできているかを、電波の原理を学ぶ講義と中波ラジオの製作実習を通して理解する。ハードウェア、ソフトウェアの基礎を解説、誰にでもできる簡単な指導を行い、スイッチやセンサの値を読み取ることができたり、LEDやモータを制御することができたりするようになる。基本的な電波通信の仕組みを理解し、教員やTAのアドバイスのもとで、電気回路の配線と機器のデザインができることを目指す。	

教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	倫理学入門		現代社会の倫理的問題に関して、その内容や問題の射程を理解し、それらについて、倫理的な考え方を踏まえて自分の考えを持つことができるようになる。小・中学校の道徳の授業で用いられる教材をいくつか取り上げ、そこに含まれる価値や規範（規則遵守や生命尊重、公平・公正や思いやりなど）について哲学・倫理学の観点から考察を深める。また、善・悪や正・不正について子どもたちが抱く素朴な疑問について、大人はどう向かい合えばよいのかを考える。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	心と世界		人間の生命活動を論じる上で、中心的なテーマとなる心と行為について、心とは何か、人間とは何か、なぜ行為が問題か、なぜ哲学の中心問題は心と行為か、行為の正・不正、正義、幸福、行為の選択をめぐる問題等について論じ、心、行為、人間、意志、自由といった基本的な日常語について理解を深めた上で、これまでの自分の考え方を、少しでも自分で見直すことができるようになる。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	思考と論理		現代論理学（自然演繹法による）の基礎を学び、論証（推論）の正しさを見分ける技術と感覚を身につける。この授業では、現代論理学の基礎にある概念や記号法、証明技術を学んで、論理的に考える手助けとし、さらに論理とは何かについて理解を深めることを目指す。本授業を通じて、日本語文の論理構造を把握し、十分に形式言語で表記ができ、また論理学の証明方法を使って推論の妥当性を容易に証明できるようになる。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	現代心理行動学		特別支援教育に含まれている心理学的なトピックスを取り上げ、講義を受講後、グループで協議し、授業後に Moodle 上のまとめテストに解答することを通じて人の「こころ」についての理解を深める。また、グループ協議を通じて、多様な人との社会性を身につける。心理学の観点から発達をとらえ、また様々な発達の障害について理解することで、人間の生涯発達の諸現象について深く考察する。「社会」の中における対人関係スタイルの成り立ちを理解し、共に生きる関係構築の方法を実生活の中で模索する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	こころの科学		こころについて科学的に見たり考えたりする方法を学修する。こころについて、心理学の幾つかの領域（心理学全般、発達心理学、教育心理学、社会心理学、臨床心理学、周辺領域）から学修し、様々な領域にわたって心理学に関する基礎的な知識を身につけ、生活場面で活用できるようにする。また、不登校について取り上げ、不登校の対象理解と対処や不登校が果たす社会的機能について学ぶ。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	芸術文化論		”現代音楽文化”の基本となる西洋音楽の歴史と理論を学ぶことにより、豊かな教養と感性を身につけ、さらには世界における”自分の文化”を考えることができるようになる。スペクトル楽派、ミニマル・ミュージック、ポスト・ミニマリズム、新ロマン主義、パフォーマンス作品、楽器によるミュージック・コンクレート、引用の音楽、ノイズ、ミュージック・シアター、国際的に活躍するアジアの作曲家の動向、担当教員の自作品について、多くの視聴覚資料を用いながら解説し、興味・関心を持った21世紀の作曲家、作品について自ら主体的に調べ学習を行い、知識を高め、より深く理解し、自らの言葉で詳細に説明することができるようになる。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	文学の諸相		文豪たちが生み出した近・現代の日本文学について、その時代に良いと思われていたこと・悪いと思われていたこと、作者が良いと思っていたこと・悪いと思っていたことの相関関係において講じ、時代との関連においてどのような文学的表現が出現するか歴史的な知見を得る。他言語で書かれたテキストをもとに、「食」に焦点をあて他文化や他言語について学ぶ。食や言語をめぐる様々なテキストに触れ、他文化について深い知識を身につける。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	モノが語る歴史		日本を中心に東アジアにおける食文化の実態と変遷について、考古学の最新成果を通して理解する。また、文献史学、民族学、さらには理化学分析などの成果と考古学を融合しながら、いかにして食文化の歴史的側面に迫ることができるのかを考える。様々な角度から主食を中心とする食文化を眺め、相対化することで日常的な食事の歴史的成り立ちを学びます。特に、考古学は過去の人々の日常的な食文化を復元するのに最適な学問です。それに文献史学や民族学を加え、さらには近年その成果が蓄積されつつある化学分析を合わせることで、より具体的な食文化の歴史的実態にアプローチします。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	地域の世界史		現代中国にも大きな影響を残しつつある近代以前の中国の社会と国家の仕組みと特質を知り、人類社会の多様性を理解する。近代イギリスの歴史と文化についての知識と理解を深め、現代イギリス社会やイギリス文化の歴史的起源を長期かつグローバルな観点から説明できるようになる。現代イギリス社会の問題やイギリス文化を歴史的な観点から説明できるようになる。韓国の社会と文化についての知識と理解を深め、日韓の異なる文化や価値観を共有し認識することで、現代の日韓関係の在り方を考える。西洋の中世史、近世史、近代史に関する基礎的な知識を摂取しながら、その流れを大まかに理解し、世界史における西洋世界の位置づけの変化を理解できるようになる。	

教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	日本社会の歴史		江戸・明治時代の歴史から、日本人の意識や心性の形成過程を考える。歴史学を実証的に分析するには、物事を客観的かつ理論的にとらえる能力が求められる。そして理論を実践的に転換する手段として、博物館をテーマに取り上げ、まず博物館の歴史の変遷を正しく理解する。その結果、今後あるべき日本の博物館、さらには地域の文化行政のありかたについて考える。260年以上も続いた江戸時代を終わらせ、現代日本につながる社会をもたらした明治維新という変革について知り、その意義を理解できるようになる。戦国時代と現代との繋がりを理解し、また、戦国動乱が収束して内戦が長く凍結された要因を探ることで、未来に向けての平和主義の発展のための歴史的基盤を探求する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	法学の基礎		民事事件の重要な問題について、基本的知識を得た上で、受講生が具体的に筋道を立てて思考し問題解決を図ることができるようになる。法学の基本的な考え方を知り、身近な問題に対して法的知見に基づく理解力・洞察力を身につける。基本的な消費者取引関連法の概要が理解できる。消費者取引のトラブルについて、解決方法を導く力を身につける。消費者に縁の深い決済方法について理解できる。法哲学という学問分野の中でも「法とは何か」という問題に取り組む法概念論を研究し、「法」の概念がいかなる内容と問題性を有しているのかを検討するとともに、「法」の概念を用いることで私たちは結局何をし（ようと）しているのかを探究する。探究を通して、主に法を素材にしつつ哲学的思考法を習得する。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	現代政治の諸相		実際の新聞報道など毎回実践に即したテーマを取り上げ、新聞報道の役割、ジャーナリズムについての理解を深め、新聞、テレビを中心としたメディアの特性を学びながら、それを取り巻く現状や課題を認識し、ジャーナリズムに関する知識を習得する。水俣病やハンセン病、免田事件、赤ちゃんポストといった熊本における普遍的なテーマを取り上げ、地域課題と地方紙の役割について多角的に考察し、ネットメディアが台頭する中で、ローカルジャーナリズムの意義について考える。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	最前線の社会文化研究		対象に応じた調査手法の選び方と調査設計の手法についての基礎知識および技術を身につける。主に民俗学で研究対象とされる「生業」を元に授業を行い、具体的な遊び方についても紹介し、様々な自然と触れあうための意欲と知識を養う。偽史や都市伝説、陰謀論などといった社会の中に流通する「物語（ナラティブ）」に関する研究の最前線を紹介し、最新の研究動向を概説し、現代社会における物語（ナラティブ）の位置づけについて考える。世界遺産の概要とそれをめぐる現状を概観し、世界遺産と現代社会の関係を理解する。熊本の伝説や祭祀に関する知見を増やし、身近な素材から学問的課題を発見することを通じて、より広範な現代社会の諸課題への理解を深める。自然について多様な角度から見る力を養い、人との関わりからみえてくる自然とはどのようなものかを理解する。ユーラシアからアフリカまで広がる世界の牧畜の歴史と現状を概観することで、人間と動物と土地とのつながりを理解する。メディアと社会の関係について考えるための基礎的な知識や考え方を身につける。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	現代社会の解説		<水俣病>事件の歴史性と現代性の解説を試み、<水俣病>事件の現代的な意義について多角的な視点で考えられるようになる。地域社会学の基礎的知識や社会学の考え方（理論、方法、概念など）について講義し、それらの知識や概念を習得し、社会学的な観点から現代社会における課題について考察する力を養う。社会調査について、基本的な用語と考え方を学ぶ。わたしたちがいまどのような社会に生きているのかを、近現代における国民国家の形成やグローバル化を手がかりに理解し、考える。	
教養教育	教養科目	リベラルアーツ科目	自然と人間の地理学		地域の諸問題について、特に熊本県や九州の事例を交え、地理学的観点から現状と課題を考察する。地理学的のもの見方と考え方およびアプローチ方法を理解する。現代社会が抱える環境問題や社会問題が起こる背景や要因を地理学的に理解する。人間生活と自然環境との関係を多角的に見る力を養う。熊本が7年前に地震被災地となったことをうけて、地震等の自然災害の被災地が、どのように復旧・復興したのかしなかったのかを知ることにより、地震被災地としての熊本の将来を考えることができるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	数学と文化		高等学校を用いて理解できる応用数学の様々なトピック（折り紙、2進数、アルゴリズム、素数、ゲーム、グラフ、統計）を扱い、高等学校までに学習した数学を基礎として、応用数学に関する様々な話題を取り上げ、現代数学を理解する。高等学校までに学習した数学を基礎として、主に代数学に関する話題を取り上げ、現代数学を理解する。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	物理学の世界		広い視野をもって社会の急激な変化や諸科学の高度化に対応できるように、特に材料工学の視点から幅広く深い教養を身につける。また国際的な活躍ができる人材の育成を目的として、材料工学分野を拠点とする世界が直面する課題とその解決方法を考える。地球以外に生命が存在するのかどうかを科学的に考察する力を身につけ、必要な自然科学の広い知識を身につける。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	暮らしと化学		生体および環境のさまざまな事象について化学的に考えることができる基礎的な知識を身につける。身の回りに存在する化学的な現象や事項について、あらためて目を向け、その原理や概要を理解する。化学的な理解を深めることで、不意の事故の防止や、有用な現象の利用を拡大することが可能となる。高校の教科書にも載っているような基本的な有機化合物について、その“かたち”を決める原理を考察できるようになる。さらに、便利で豊かな生活が様々な有機化合物によって支えられていることを実感できるようになる。	

教養教育	教養科目	現代教養科目	化学と環境		大気や水質や大気に関連する環境問題を主に化学の視点より講義し、大気や水質について理解を深める。大気や水の構成や成分を把握し、大気に関連する環境問題の現象や影響を化学的な視点で理解する。複雑な化学反応で維持されている人体への化学物質によるポジティブな影響やネガティブな影響についてメカニズムを理解する。また、化学の目で健康をいかにとらえているかを理解する。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	最先端の生命科学		植物の形づくりと環境応答、細胞の構造と振舞いについて学習し、最先端の植物科学研究を理解するための素地をつくる。バイオリソースの重要性を理解し、実験動物及び動物実験に関する正しい知識を身に付ける。ヒト免疫不全ウイルスHIV-1等の感染症について、ウイルス、造血および免疫の観点から学ぶ。遺伝の基本的な仕組みの学習を通じて、栽培化・家畜化・育種等の生物と人類の多面的な関わり方の背景となるメカニズムを理解する。進化の基本を学び、節足動物の一群(ヤスデ類)で見られる擬態現象の理解を通して、生物多様性創出の基本概念を理解することを目的とする。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	地球環境科学の最前線		海洋学の真髄である「海という視点」から分野横断的に海洋現象や海洋問題を解説し、これまでほとんど教わっていない「海洋学的知識」を食わず嫌いの領域から脱却してもらい、「海の理解者」としての素養を身に付ける。地球のシステムや古環境の変遷、生物の進化に関連する現象について理解する。熊本県下に特徴的な地質や地形に関連する現象について理解する。私たちの身のまわりに日常起こる現象に大気と水がどのように関わっているのかを解説し、地球が「大気圏」「水圏」「岩石圏」「生物圏」から構成される1つの「システム」であることを認識し、それらの構成圏の間にどのような相互作用が働いているかを、主に気象現象を通じて理解する。大気や水の循環の変化を原因とするグローバルな環境問題がどのようなメカニズムによって引き起こされているか理解する。火山の研究、観測、教育、アウトリーチ、防災などに関わる専門家の講義を通して、火山に関するさまざまなテーマを学ぶ。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	地域づくりと科学技術		人々の「くらし」を切り口として国内外の住宅を様々な視点から分析し、「よい住宅・インテリアとは何か」を理解する。地域や都市の基盤となる社会インフラの概要とその防災減災技術、まちづくりの理論と実践方法等について、自分の言葉で説明できるようになる。世界史や日本史に登場する都市を取り上げ、その都市の成り立ちから現在の姿を読み解くことで、その都市がどのような都市計画(自然発生的な成立を含む)によって形成されたのかを理解し、現在の都市計画の考え方や手法を説明できるようになる。歴史的な建築物や、それらが集まって出来上がった街並みや都市、石工や建築家に関するテーマを取り上げて、建築や都市と、社会や技術との関係を論じ、大学で学ぶことは何かを理解する。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	ものづくりの科学と技術		エネルギー源の種類と特徴や社会・生活における利用形態について自主的に学習し、自分なりの考え方を育てようとする。またクラス内での意見交換を通して、主張の方法と他人の意見を聞く柔軟性を身に付ける。科学技術と暮らしにかかわるいくつかのテーマについて考え、科学技術が暮らしとどのようにかかわっているのかを考え認識を深める。資源循環型社会を実現するためにはどのようにすればよいかについて、考える機会を持つ。資源やエネルギーの諸問題を解決するためにどのような科学的アプローチや取り組みが行われているかを学び、主に今後の製品化や環境負荷低減に貢献するナノ材料を化学的な観点から理解する。食品、医薬品、プラスチックなどを題材にくらしの中にある化学物質とそれらを構成する元素について講義し、化学的見地からものごとを考える力をつける。社会の急激な変化や諸科学の高度化に対応し得るよう、広い視野に立ち、幅広く深い教養を身に付けられるようになること、および国際的な活躍ができる人材になれるよう、今日の世界が直面する課題を理解できるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	暮らしと情報・通信技術		デジタル処理の原理を学び情報のコミュニケーションや人間環境のモニタリングやセンシングの原理と応用について講義し、現代社会の基盤を構成している情報・通信技術にかかわる知識や技術を学び、科学的な見方・考え方の素養を身に付ける。現代社会の基盤を構成している情報・通信技術にかかわる知識や技術の一端を学び、これら技術の重要性を知る。現代社会の基盤を構成している電気エネルギーの発生や電気エネルギーの効率的利用や応用に関する知識や技術について知識と理解を深めます。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	健康の科学		人間の健康に影響を与える要因にはどのようなものがあるか多角的な視点から理解し、それらへの対処能力を養うために必要な知識やスキルを身に付けることができるよう教授し、大学生活のみならず将来の生活も含めて具体的にイメージしてもらい、こころとからだの健康とヘルスケアについて理解し、自身の日常生活に生かすことができるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	病気の医科学		解剖学、病理学、生理学、脳科学、免疫学をそれぞれ専門とする教員が、医学を専門としない幅広い分野の学生を対象として、各回の授業テーマにあげた内容について基礎から解説し、誰にとっても大きな関心事である健康と病気について、氾濫する情報の中で根拠のない誤ったものに惑わされず、正しい判断ができるための科学的な知識と考え方を身に付ける。	

教養教育	教養科目	現代教養科目	臨床医学の最前線		熊本大学病院における医療の最前線で活躍している各分野の専門家が、がん、生活習慣病、救急疾患、小児疾患などそれぞれの分野について最新の知識を提供し、がん、最新の医学の進歩について広く学ぶ。がん、生活習慣病、救急疾患、精神疾患など多岐にわたる病態を対象とし、研究や診断・治療法の進歩を紹介し、本科目を受講することで、最先端の医学研究や医療の概要を理解する。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代社会と医学		第一線の医療を担う医師・歯科医師及び熊本県庁の行政担当者を招いて、こうした地域医療の諸活動と問題点等を講義し、それにより我が国の医療・保健・福祉について、医療従事者の視点や行政担当者の視点から概観し多面的に理解するとともに、将来医療や行政に携わる学生にとってのキャリア教育にもなりうる。一方、医療や福祉のことを広く身近な問題として捉えてもらえる内容としている。これを踏まえ、この授業の目的は、日本における医療制度（特に地域医療制度）を取り上げ、その諸活動と問題点等を学ぶ。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	心身の健康と看護		現代社会における心身の健康について理解し、自らを振り返り、心身の健康を増進させる方策について考察する。我が国の疾病構造の変化ならびに生活と健康について理解し、自分や家族、地域の人々が健康的な生活を送るための知識や実践力を身につける。認知症や生活習慣病について学ぶことにより、超高齢化社会がもたしている影響・課題について理解し、そのような社会状況のなかで、健康寿命を延長する具体的な取り組みや誰もが安心して暮らせるまちづくりのために現在の自分たちに何ができるかを考察、実践することができる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	医療における理工学		放射線の医学・医療利用に関して社会へ対する理工学的貢献を理解することを目的として、放射線に関する基礎的な知識を身に付けるとともに、放射線利用のひとつである医学・医療利用の原理および科学技術について学ぶ。本授業を通じて、放射線の基礎知識の修得、放射線の医学・医療利用についての理解、放射線利用とリスクに対する考え方の理解を深める。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代の医学検査		私たちが社会活動を営むうえで、「健康」は基礎となっている。しかし、私たちが暮らす「環境」や「感染症」などに代表される、健康を脅かす様々なリスクが存在することは事実である。本講義では、人類が直面してきた感染症について学ぶとともに、ワクチン、抗菌薬などについて学ぶことで、感染症リスクに対する対処法を学ぶ。また、世界的視点で感染症の流行状況を学ぶことで、健康格差について学ぶ。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代医療と生命科学		古くて新しい糖の生物学的役割や糖（鎖）を利用した工業製品や医薬品の開発を理解する。また、プレゼンテーションを通じて、自己表現力を高める。医学以外の分野を専門とする学部学生が、現代医学で不可欠といえる免疫の基本的考え方について説明できるようになる。免疫学の基礎を学び、生体内で起こる免疫の仕組みを理解する。免疫疾患の発症機序や臨床所見を理解する。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	薬科学入門		生体機能物質の化学について、様々な視点から講義し、生体機能物質とは何か、また、なぜそれが生体に機能するかを理解し、それを他人に説明できるようになる。薬の科学について、様々な視点から分かりやすく講義し、薬にはいろいろな種類があり、どのように探索・設計・最適化され、いかに効力を発揮するかについて、それぞれの立場から深く理解し、その概要を説明できるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代社会と薬学		現代社会における人々（集団）の健康と疾病の現状およびその影響要因（遺伝要因、生活要因、環境要因）を把握し、その予防・治療に関する基本的知識を深めるために、健康と疾病の概念、疾病の予防（疾病の予防の定義、感染症とその予防、生活習慣病とその予防）、疾病の治療、伝統・伝承医療とユニバーサル・ヘルス・カバレッジの推進などの内容を専門外の受講者にもわかるような平易な表現で解説する。現代社会を生き抜くためのリテラシーとして、薬と正しく付き合いその効果を生活に適切に活かしていくために、薬に対する正しい理解を深め、薬の使用に必要な薬学の概念・基礎知識を習得する。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代教育について考える		障害のある人を包摂する、インクルージョンをめざす生活や教育のあり方について考える。家庭科の歴史、学校教育の選抜機能、家族の変遷等を考察しながら、各自のライフスタイルの確立に役立てる。日常生活を安心して送る拠点として自分に合ったより良い住環境を選択できる実践的な力を養う。自然と人間の共生について興味・関心を高め、自然環境と教育に関する現代的課題を見据えて未来の展望をもつことができる。論理・集合、代数、幾何、解析、応用数学等の中から、いくつかの数学的な話題に触れ、数学的に考えることを学ぶ。持続可能なライフスタイルの構築において、私たちが毎日の生活の中で抱えている問題を明らかにし、問題の解決方法を考え、解決に向けて実践する力を身につける。これまで自明視されてきた家族や子育て・教育のあり方について問い直すとともに、現代の親や子どもと教育の問題について理解する。日本本土とは異なる社会制度、公的社会教育が脆弱ななかで、沖縄の住民はどのように自治的に自らの生活と文化を育み継承してきたのか、社会教育の枠組みから考察する。教育における対話的コミュニケーションの重要性を中心に、社会的構成主義の学習観に基づいた学びの在り方について理解する。	

教養教育	教養科目	現代教養科目	心理学の探求		このような人間の行動を支える「こころ」の仕組みについて、心理学領域の代表的な基礎理論と研究成果に基づいて解説し、心理学領域の代表的な理論や考え方に関する基礎知識を得ることで、人間の行動を支える心の働きを科学的にとらえられるようになる。心理学的な考え方や、心や行動の諸現象について学ぶことで、人の心や行動を客観的に理解できるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	芸術への招待		4分野実技（絵画 工芸 音楽）の授業として、1分野ごとの芸術実技の基礎的技能を学び、作り出す芸術実技を体感する。内容は初歩的なことであるが、芸術（音・美）が繰り広げる「魅力を生み出す力」を体験し、芸術を深く理解する。音楽、美術を通じて現代文化について学ぶ。また演習等で実践的活動を行えるようにする。本授業を通じて、芸術実技について魅力を知り、芸術への理解を高度に深めること、各芸術分野（絵画 工芸 音楽）について基礎的技能を学び、芸術に存する「生み出す力」を体感し、芸術実技を高度に身に付け、高度な表現力を培い教養とすることを旨とする。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代と言語		日本語学という学問の視点から「いろいろな日本語」の姿を観察し、大いに楽しむ方法を紹介するとともに、私たちは自分（たち）のこぼとどのように向き合っていけばいいのかを考える。日本各地でどのようなことばが使用されているかがまとめられている「言語地図」を解釈することを通して、日本語のバリエーションや歴史について理解し、身の回りのことばをバリエーションやことばの歴史という観点から考察できるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代と文学		文学テキストの読みと国語教科書・国語の授業という枠組みとの関係性について考える。日本古典文学が近現代の文学や海外に与えた影響について、時代や国境を越えて広い視野で考え、理解する。日本漢詩を読み、漢詩の詩型や押韻、基本的な知識を身につけた上で、漢詩を鑑賞する力を養う。異なる言語、文化の視点から見ることにより、日本の文学、文化への理解を深めるとともに、外国の文学、文化について学ぶ。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代世界の形成と課題		薬害肝炎被害者、水俣病患者支援者、在日コリアンの方のお話を参考に、日本社会の人権状況を正確に理解し、認識を深める。全体を通じて、人権や性の問題に真摯に向き合う基本的姿勢を身につける。国内最大のハンセン病療養所である菊池恵楓園を退所された方、また、ハンセン病問題に関わってきた様々な専門家（医師・研究者・新聞記者・弁護士）に、それぞれの立場から講義をしていただき、ハンセン病問題の歴史を踏まえて、正しい認識を構築する。核兵器をめぐる歴史的事実を知った上で、20世紀の歴史を語る事が出来るようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	最先端の法学		平成17年に制定された会社法は、現在の我が国にもっとも大きな影響を及ぼす経済主体である会社に関する法規範であり、また会社以外の企業主体に関する法規範にも大きく影響を与えている。本講義では、会社法をはじめとする企業組織に関する法規範やコーポレートガバナンス・コードなどを紹介するとともに、企業組織に関する最新の法的問題を紹介し、各自にその問題について自ら考える機会を持ってもらう。企業活動についての理解を深めてもらうとともに、企業組織に関する最新の法規制についても理解を深めてもらう。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代社会と経済		経済学の基本的な理論とその応用を学習し、経済学の基本的な考え方ができるようになる。日常生活に焦点を合わせ、その視点から、個人の意思決定から社会問題に至るさまざまな問題について考え、価格、コスト、嗜好（選好）、収益、損失、リスク、インセンティブ、情報の対称性、ゲームの状況などのキーワードをもとに現代社会を読み解く。経営学のうち、マネジメント、マーケティング、経営戦略論の基礎を学び、どのような学説があり、それはどのように活かされるのかを学生自身の言葉で説明できるようにする。韓国の経済発展をめぐる問題と現在直面している経済的社会的課題を取り上げ、それぞれの問題の概要や背景にある要因を多面的に理解し、自分の言葉で説得的に説明できるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	現代の政治		我々にとって最も身近な政府である自治体、とりわけ自治体政治に焦点を当て、その現状と課題について考察する。現代世界の特徴について理解するとともに、様々な政治現象を自分の力で読み解くことができるようになる。近代日本の戦争を通じて、争点をめぐる外交交渉が武力行使に転換する理由、作戦計画における目的設定と実施過程における問題点、戦争を終結させる際にどのような困難があったのかを説明できるようになる。	
教養教育	教養科目	現代教養科目	学際科目		九州内の国立大学が協力し合い、九州各県・各地域の特色を活かして、それぞれの魅力について多角的に学修する。新聞記者の指導で文章作成を体験する過程で、メディアに関する理解を深め、情報を読み解く力（メディアリテラシー）、文章力などを高めていく。授業で多様なニュースに触れることで、社会の動きや課題についての認識も広げる。日本の財政、金融及び地域経済の現状等を知ってもらうとともに、税制や税関の役割や仕組み、さらには金融取引等の基礎知識等について理解を深める。将来の日本経済を担っていく学生に生きた経済や、より実践的な金融の知識を身につける。実際のビジネスの世界において発生している事案を専門士業（弁護士、公認会計士及び不動産鑑定士）の観点から整理することで、事案の本質を分析する目を養うことのみならず、ディベートを通じて網羅性等を担保した分析能力を習得する。	

教養教育	教養科目	Multidisciplinary	Introduction to Science and Technology I		<p>(英文)</p> <p>To understand the basic information on renewable energy pertinent to biomass. To understand the basic information on renewable energy or clean energy. To learn prominent scientists in multidisciplinary fields of science and technology, and how their works are shaping our future. To learn the fundamentals and terminologies in entrepreneurship, with reviews and analyses of some successful science-related businesses. The students learn coastal sustainability issues in various disciplines such as history, political, social/cultural, ethical and science and technology taking into consideration possible contribution to UN Sustainable Development Goals (SDGs) and a carbon neutral society. This course will explore information and communications technologies (ICTs) and their multidisciplinary applications to the social and natural sciences. Students will understand basic biological mechanisms, so that they will better understand environmental risks posed by pollutants including endocrine disrupting chemicals (EDCs).</p> <p>(和訳)</p> <p>バイオマスに関連する再生可能エネルギーの基礎知識を理解する。再生可能エネルギーやクリーンエネルギーの基礎知識を理解する。起業家精神の基礎と用語を学び、成功した科学関連ビジネスのレビューと分析を行う。国連の持続可能な開発目標 (SDG) とカーボンニュートラルな社会への貢献の可能性を考慮して、歴史、政治、社会/文化、倫理、科学技術などのさまざまな分野で沿岸の持続可能性の問題を学ぶ。情報とコミュニケーションを探究する。学生は基本的な生物学的メカニズムを理解し、内分泌攪乱化学物質 (EDC) を含む汚染物質によってもたらされる環境リスクをよりよく理解できるようにする。</p>	
教養教育	教養科目	Multidisciplinary	Introduction to Science and Technology II		<p>(英文)</p> <p>To learn the fundamentals of separation processes common in the industries and environment. The students will also learn to apply basic knowledge of chemistry, physics and mathematics to understanding common separation processes while actively discussing with classmates. To learn the fundamentals of chemical reaction processes common in the industries and environment. The students will learn from this multidisciplinary course the fundamentals of biomass utilization to gain broader global perspectives of this exciting field.</p> <p>(和訳)</p> <p>業界や環境で一般的な分離プロセスの基礎を学ぶ。また、クラスメートと積極的に議論しながら、一般的な分離プロセスを理解するために化学、物理学、数学の基礎知識を適用することも学ぶ。産業や環境に共通する化学反応過程の基礎を学ぶ。この学際的なコースからバイオマス利用の基礎を学び、より広いグローバルな視点を得る。</p>	
教養教育	教養科目	Multidisciplinary	Socio-Cultural Studies		<p>(英文)</p> <p>This class will cover history, social/cultural issues, ethics and science of humanitarian efforts. Students learn terminologies and concepts related to humanitarian issues, which can be adapted to subsequent courses in life and natural science as well as in the practice of the profession after graduation. Individual and large-scale projects to promote human welfare in areas afflicted by war, famine, natural disasters or diseases have a long and rich history and form the basis of many contemporary political discussions. We will look at humanitarian issues from different points of view including historical, scientific and anthropological approaches.</p> <p>(和訳)</p> <p>この授業では、人道的活動の歴史、社会的/文化的問題、倫理、科学について学ぶ。学生は人道問題に関連する用語や概念を学ぶが、これはその後の生命科学や自然科学の科目や、卒業後の専門職の実践に適用することができる。戦争、飢饉、自然災害、疾病に苦しむ地域において、人類の福祉を促進するための個人的または大規模なプロジェクトには、長く豊かな歴史があり、現代の多くの政治的議論の基礎となっている。歴史的、科学的、人類学的のアプローチを含む様々な視点から人道の問題を考察する。</p>	
教養教育	教養科目	Multidisciplinary	World History		<p>(英文)</p> <p>The course is designed to make students know more about European history and culture focusing on language and its role in the development of national identity. The goal of this course is to deepen cross-cultural understanding and to build bridges between past and present. The goal of this course is to provide profound knowledge about European geography and cultural history.</p> <p>(和訳)</p> <p>学生が言語と国民的アイデンティティの発達におけるその役割に焦点を当てたヨーロッパの歴史と文化について知る。異文化理解を深め、過去と現在の架け橋を築く。ヨーロッパの地理と文化史に関する深い知識を提供する。</p>	

教養教育	教養科目	Multidisciplinary Studies	Area Studies		<p>(英文)</p> <p>We will study the impact of modernization on Japanese society and the challenges of leadership during the first half of the Meiji period. We will have a comprehensive look at the education of the future elite at the Fifth High School also addressing the symbolism of the school's organization and architecture. Taking the Fifth High School as an example, we pick up several aspects of Meiji Period elite training and discuss the social and historical background.</p> <p>(和訳)</p> <p>近代化が日本社会に与えた影響と、明治時代前半におけるリーダーシップの課題について学びます。第五高等学校における将来のエリート教育について、その組織や建築の象徴性にも触れながら包括的に考察する。第五高等学校を例に、明治期のエリート教育のいくつかの側面を取り上げ、その社会的・歴史的背景について議論する。</p>	
教養教育	教養科目	Multidisciplinary Studies	Comprehensive English Communication		<p>(英文)</p> <p>Each session, we will look closely at the various components necessary for successful presentations made in English. Students will work in pairs to prepare and deliver a 7 minute presentation to the class.</p> <p>Through completion of this course, students will:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Understand the components and structure necessary for successful presentations</li> <li>Become adept at accessible, intuitive, and efficient slide design</li> <li>Become proficient in gathering research data</li> <li>Improve English communication and presentation skills</li> </ul> <p>(和訳)</p> <p>毎回、英語でのプレゼンテーションを成功させるために必要な様々な構成要素について詳しく見ていく。生徒は2人1組で7分間のプレゼンテーションを準備し、クラスで発表する。</p> <p>本科目を修了することで、以下のことが習得できる：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーションを成功させるために必要な構成要素と構造を理解する</li> <li>分かりやすく、直感的で、効率的なスライドデザインに習熟する</li> <li>リサーチデータの収集に習熟する</li> <li>英語でのコミュニケーションとプレゼンテーションのスキルを向上させる</li> </ul>	
教養教育	教養科目	Multidisciplinary Studies	Global Career Development		<p>(英文)</p> <p>Gaining insights and perspectives through exchanging with Kumamoto University faculty members with global career experience. The goal of this course is to offer valuable and rare opportunities to interact with local based experts whose experiences and skills will broaden the scope for students' career options. The goal is to improve analytic and communication skills, in addition to the basic understanding of business operations.</p> <p>(和訳)</p> <p>グローバルなキャリアを積んだ熊本大学の教職員との交流を通じて洞察と視点を獲得。経験とスキルが学生のキャリアの選択肢の範囲を広げる地元の専門家と交流する貴重でまれな機会を提供する。事業運営の基本的な理解に加えて、分析とコミュニケーションのスキルを向上させる。</p>	
教養教育	教養科目	キャリア科目	キャリア科目		<p>現代的課題の1つとされる男女共同参画社会を実現するために、女性のライフコースの特性を理解し、女性のキャリア形成のあり方について考えるとともに、仕事と生活の両面から、自分の将来の生活設計を立案できるようにする。国内外で実施されているボランティア活動を事例に支援者（ボランティア）の役割とマネジメントについて理解し、支援活動における基礎知識を身につける。ベンチャー企業の経営者、事業再生を経験した経営者、地域で活躍する中小企業や地方創生に取り組む企業の経営者等の生の声を聴くことで、ベンチャーマインド、経営マインドとは何かを学ぶ。大学での学び、生活と仕事・職業の関係について理解し、主体的な大学生活を過ごすための基礎知識を習得する。ダイバーシティ・インクルージョンの基本的知識を習得し、社会の担い手としての問題意識を持つ。</p>	
教養教育	教養科目	開放科目	開放科目		<p>本来学部の特長科目として開講されている科目のうち、内容が教養教育にふさわしく、開講学部以外の学生が履修できる科目として特に指定しているもの。（例：聴覚障害児教育、医療倫理、プログラミング演習、国際関係論、地域防災等）</p>	
教養教育	教養科目	体育・スポーツ科目	体育・スポーツ科学a		<p>スポーツの実践とスポーツ文化の理解を深めるとともに、スポーツの持つ魅力を理解し生涯スポーツへの基礎作りを行う。運動・スポーツを行うにあたって最低限必要な基礎知識や身体の手入れの方法などを習得し、身体トレーニングを行うことを通じて、将来にわたって体力・健康づくりができるようになる。健康の保持増進のために、運動習慣の大切さを理解するとともに日常生活において実践する態度を身につける。</p>	
専門教育	共創基盤科目		プレゼンテーション入門	○	<p>大学では学生自身の専門分野に関する研究成果を発表したり、社会に出ると自身のアイデアを企画書として他者に伝える機会が多く存在する。これらのコミュニケーションの手段として、最も重要なのは「プレゼンテーションスキル」である。本科目では、プレゼンテーションの重要性と関連する諸問題について学ぶとともに、人を惹きつけるためのプレゼンテーションの戦略とスライドの作成テクニックを理論と実践を交えながら身に付ける。</p>	

専門教育	共創基盤科目	共創キャリアデザイン	○	本授業は、将来のキャリア形成を重視し、3種の人材に求められる資質や能力を理解・育成することを目的とする。自己分析を通じて自身の強みや適性を明確化し、具体的なキャリアプランを設計する。また、各種取組事例の紹介や能力分析を行い、自分に適したキャリアモデルを探索する。さらに、グローバルキャリアデザインを視野に入れ、多文化共生社会で求められるスキルや姿勢を養成する。共創人材として活躍するための基盤を築く実践的な科目である。	
専門教育	共創基盤科目	クリティカルシンキング入門	○	クリティカルシンキングは批判的思考力とも言われ、物事を多面的に見る力であり、大学のみならず、社会に出た後にも必ず必要となる能力である。本科目では、クリティカルシンキングの概要について解説した後、受講生が実際にクリティカルシンキングを実践できる能力を身につけることを目指す。講義は各教員の専門性を活かしながら演習形式で進め、様々な分野の事例を扱いながらお互いに意見を出し合い、議論することで、対話的で深い学びを実現する。	
専門教育	共創基盤科目	リーダーシップスキル	○	この科目は、チームや組織を効果的に導くための基本的なリーダーシップ能力を養うことを目的とする。学生たちは、コミュニケーション、意思決定、問題解決、戦略的思考などの重要なスキルを学ぶ。特に、セルフリーダーシップ、チームリーダーシップ、グローバルリーダーシップ、ソーシャルリーダーシップの4つの視点からアプローチし、理論と実践を組み合わせた学習を行う。ケーススタディや演習を通じて、実際の職場や社会で応用できるリーダーシップ力を身につけ、より良い組織運営やチームマネジメントに活かせるスキルを学ぶ。	
専門教育	共創基盤科目	共創実践論Ⅰ	○	本授業では、人口減少や地域課題をテーマに、異なる専門性を持つ3種の講師陣による講義を通じて、持続可能な社会の実現に向けた地域課題の解決方法を学ぶ。多様なアプローチや事例分析を交え、課題解決に必要な知識とスキルを身につける。また、グローバルな視点を取り入れたコンテンツも含まれており、国際的な課題意識も育成する。なお、本授業は教員の知識を一方的に伝える授業ではなく、事例や実際の課題を元に学生自らが検討し考えて答えを導き出すPBL(Problem Based Learning: 課題解決型学習)の手法を用いて、共創の取組についての講義とグループワークを行う。	共同
専門教育	共創基盤科目	共創実践論Ⅱ	○	本授業は、共創実践論Ⅰで学んだ基礎的な内容を踏まえ、人口減少や地域課題に対する具体的な解決策を探索する科目である。3種の人材による講義を通じて、多角的視点から課題分析とアプローチ方法を深く学ぶ。また、グローバルコンテンツを取り入れ、国際的な視点を持った問題解決力を養成する。実践的な議論やケーススタディを通じて、共創の場を形成するための知識と応用力を高め、社会課題への対応力を強化する。	共同
専門教育	共創基盤科目	共創企業戦略論Ⅰ	○	本授業は、地域課題の解決と同時に自社の持続可能な成長を目指す企業の戦略や役割を学ぶ概論科目である。地域密着型ビジネスのモデルや事例を紹介し、企業戦略の基本を理解する。また、実際のローカルゼブラ系地域企業による講義を通じて、実践的な知見を深め、共創による地域活性化の可能性を探る。地域社会と共に発展する企業戦略の本質を学び、今後のキャリア形成や課題解決力を育成する。なお、本授業はPBL(Problem Based Learning: 課題解決型学習)の手法を用いて、人口減少時代の企業経営の取組についての講義とグループワークを行う。	共同
専門教育	共創基盤科目	共創企業戦略論Ⅱ	○	本授業は、共創企業戦略論Ⅰで学んだ基礎知識を発展させ、大手企業と地域企業による共創戦略の具体的な事例を深く掘り下げる専門的な科目である。ローカルゼブラ企業を軸に、持続可能な地域経済や社会課題解決に向けた戦略を多角的に学ぶ。地方創生に取組む大手企業をゲスト講師として迎え、実践的な事例を交えた講義を展開する。企業の最新の取り組みや共創型ビジネスモデルを分析し、実務に即した知識と応用力を養う。グローバル視点とローカル視点を融合させた課題解決能力を高める科目である。	共同
専門教育	共創基盤科目	地域再生論	○	本授業は、地域主導の地域づくりに焦点を当て、地域再生の理論と実践を総合的に学ぶ科目である。国土政策の変遷やCSV(共有価値の創造)を踏まえ、地域資源の活用と持続可能な発展の可能性を探る。事例研究やステークホルダー分析を通じて、地域課題を多面的に理解し、課題解決に必要な企画力・実践力・調整力を養成する。また、地域で活躍するプレイヤーをゲスト講師として迎え、現場の視点から地域プロジェクトの成功要因や課題について深く学ぶ。地域再生のモデルと方法論を具体化し、地域づくりの未来を構想できる力を培うことを目指す。	
専門教育	共創基盤科目	経済地理学	○	現代の日本では少子高齢化やグローバル化などの影響を受けて、地方の衰退や人口・産業の大都市集中など、様々な地域現象や地域問題が生じてきている。この授業では、こうした地域現象を理解しそれぞれの地域の実態に即した振興策を考えるための基礎として、経済現象の地域的展開の動向を把握し、それを説明する理論を学ぶ。具体的には、地域の概念、経済活動の立地展開の理論と実際、産業集積論、地域間格差の動向、地域政策などについて扱う。その際、特に九州や熊本県を中心に、豊富な事例を取り上げる。	
専門教育	共創基盤科目	社会課題解決のためのデータサイエンス基礎	○	本講義では、次世代社会の創成に向けて、基礎的な情報処理技術を学習する。Python言語を用いて大規模データを適切に処理する方法を習得し、さらに書籍やウェブの情報を利用して自主的に学習を進める力を養うことを到達目標とする。講義の前半では、Pythonの仕様や文法について多くの演習を通じて学習する。後半では、ハンズオン演習を通じてデータ分析、解釈、可視化の基礎を身につけることに重点を置く。さらに、受講生が講義内容を超えて自ら学習を深められるよう、Kaggleデータサイエンスコンペティションなどの外部の学習リソースも紹介する。	共同
専門教育	共創プロジェクト	共創プロジェクト演習Ⅰ	○	共創プロジェクト演習は、段階的に連携し、体験と実践を通じて共創型人材を育成するプログラムである。本授業は、地域共創に向けた基礎力を養う準備段階として、業界・企業研究や自治体の業務内容を理解することを目的としている。地域課題や企業・行政の役割を分析し、フィールドワークに向けたリサーチスキルと情報整理能力を育成する。また、学生・教員共同のチームでグループ学習・討議、フィールドワークに取り組み、地域課題における実践的な課題解決力を高める基盤を構築する。	共同

専門教育	共創プロジェクト科	共創プロジェクト演習Ⅱ	○	共創プロジェクト演習は、段階的に連携し、体験と実践を通じて共創型人材を育成するプログラムである。本授業では、グローバル視点での共創プロジェクトに向けた準備を行う。国際的な業界・企業研究や各国の行政システムを学び、異文化理解と国際協力の観点から課題解決力を養成する。地域課題のグローバル化や国際連携を視野に入れた応用力と実践力を高める。また、学生・教員共同のチームでグループ学習・討議、フィールドワークに取り組み、グローバルな視野を持った課題解決力を高める基盤を構築する。	共同
専門教育	共創プロジェクト	共創プロジェクト演習Ⅲ	○	共創プロジェクト演習は、段階的に連携し、体験と実践を通じて共創型人材を育成するプログラムである。本授業は、越境学習や地域課題解決プロジェクト、グローバル課題解決プロジェクトへの参加を通じて、実践的な課題解決能力を養う。フィールドワークやヒアリング調査、チーム活動を通じて地域イノベーション及びグローバルイノベーションの具体例を分析し、成果をレポートや発表にまとめる。	共同
専門教育	共創プロジェクト	共創プロジェクト演習Ⅳ	○	共創プロジェクト演習は、段階的に連携し、体験と実践を通じて共創型人材を育成するプログラムである。未来創造塾や地域課題解決プロジェクト、グローバル課題解決プロジェクトへの参加を通じて、共創の実践的知識とスキルを深める。実践者への調査やヒアリングを基に、課題解決に向けた企画や提案を作成し、成果を報告する。フィールドワークとチーム活動を組み合わせ、地域イノベーション及びグローバルイノベーションへの貢献力を養う。	共同
専門教育	共創プロジェクト	地域共創プロジェクト演習	○	共創プロジェクト演習は、段階的に連携し、体験と実践を通じて共創型人材を育成するプログラムである。本授業は、長期インターンシップやフィールドワークを通じて、実践的なプロジェクト運営能力を育成する。未来創造塾や企業・団体との協働により、課題解決のプロセスを経験しながら、マーケティングや分析支援、独自プランの作成に取り組む。グループ活動を通じて、成果発表会での提案を最終目標とし、実践的なスキルを磨く。	共同、選択必修
専門教育	共創プロジェクト	グローバル共創プロジェクト演習	○	本授業では、実践的な課題解決型授業活動に取り組む。様々な社会問題にグローバルな観点から取り組み、問題解決に向けた実践かつ持続可能な方法の検討・実践を行う。主に3種類のプロジェクト(①大学・部局間交流協定締結校での調査、②海外フィールド調査、③国内研修・グローバル・インターンシップ)があり、学一つ以上を選択する。求められる言語能力など、プロジェクトによって異なりますが、教員による丁寧な事前事後指導を通して、学生の興味・関心にあったプロジェクトが成功するように取り組む。	共同、選択必修
専門教育	共創プロジェクト	地域共創プロジェクト研究	○	共創プロジェクト演習は、段階的に連携し、体験と実践を通じて共創型人材を育成するプログラムである。本授業は、未来創造塾やことらほ、協力企業・自治体での実習を経て、研究論文の作成や企画案を実施する実践的研究科目となっている。インターンシップを通じた即戦力育成やプロジェクトの収益化を目指す、課題発見から解決策の立案・実行までを体系的に学ぶ。ゼミ活動や個別指導を活用しながら、グループで成果を発表し、実社会に貢献する力を養う。	共同、選択必修
専門教育	共創プロジェクト科	グローバル共創プロジェクト研究	○	本授業では、前半に「グローバル共創プロジェクト演習」で取り組んだ研修を基盤にした研究を進める。具体的には、研究を進めるうえで必要な資料(文献や先行研究)を収集し、批判的に読み解き、自己の研究の視点(リサーチ・クエスション)を固めることを重視する。ここでいう「批判的」とは、客観的・論理的な態度を指す。他人の知見と自己の主張との関係を明確にすることではじめて、思い込みや独りよがりではないレベルに、研究を進展させることができる。そして、後半は研究発表の準備を行います。発表の使用言語は英語を予定している。ハンドアウト作成から、発表のデリバリーまできめ細かな指導を行う。	共同、選択必修
専門教育	共創専門科目	データサイエンス・生命科学系	○	本授業では、ビジネス上の意思決定やマネジメントに不可欠な統計を正しく理解し、正しく利用するために必要な統計学の基礎、特にその中の推測統計の基礎について学ぶ。具体的には、記述統計の基本概念と確率の基礎、確率変数と確率分布、標本と標本分布、信頼区間と仮説検定について学んだ上で、最後に、統計において最もよく用いられる手法の1つである回帰分析について学ぶ。これにより、ビジネスを分析し意思決定に必要な統計能力の基礎を身に付ける。	選択必修
専門教育	共創専門科目	データサイエンス・生命科学系・自然	○	本講義では、『社会課題解決のためのデータサイエンス基礎』で学んだ内容を基に、発展的な情報処理技術を学習する。具体的なテーマとしてまちづくりや環境問題などを取り上げ、自ら分析課題を設定し、適切にアプローチできる能力を養うことを到達目標とする。講義の前半では、機械学習アルゴリズムを用いたデータ分析や、GISを活用した地理空間情報の処理・可視化に関する演習を行い、『社会課題解決のためのデータサイエンス基礎』で扱えなかった知識を補充する。後半ではグループワークを行い、課題の発見、分析、プレゼンテーションを通じて、総合的な課題解決能力を身につける。一連の科目を通じて学んだ内容の総まとめとしてピア・ラーニングを実施することで、受講生の平均理解度を向上させることを目指す。	共同、選択必修
専門教育	共創専門科目	データサイエンス・生命科学系・自然	○	このコースでは、国境を越えた効果的なチームワークを促進する上での人工知能の変革的役割について探究する。学生は、コミュニケーションを強化し、プロジェクト管理を合理化し、異文化理解を促進する AI ツールの実践的な経験を積むことができる。このコースでは、AI を活用した翻訳サービス、仮想コラボレーション プラットフォーム、データ駆動型の意思決定ツールなどのトピックを取り上げる。実践的なプロジェクトとケーススタディを通じて、学生はさまざまな文化的および地理的背景を持つ仲間と協力しながら、現実世界のコラボレーションの課題にAI ソリューションを適用する。コース終了時には、学生は AI テクノロジーを活用してグローバルなチームワークを最適化し、動的な環境で革新的なソリューションを推進する能力を身に付ける。	選択必修

専門教育	共創専門科目	データサイエンス・生命科学系・自然科	デジタル・グリーン・トランスフォーメーション	○	デジタルトランスフォーメーション (DX) は、近年、産業界だけでなく社会の最前線でも注目されている。これは、AI、ロボット、ビッグデータ、IoTなどの主要技術を駆使して、製造プロセスをサポートし、人間の生活を楽にするものである。グリーントランスフォーメーション (GX) のコンセプトも、2050年までにカーボンニュートラル社会を実現するという呼びかけに応えるため、日本政府によって導入された。グリーントランスフォーメーション (GX) とは、化石燃料に依存した経済・社会・産業構造から、「クリーンエネルギーによって駆動される構造」への経済・社会システム全体の転換と定義されている。これは、二酸化炭素排出を緩和することによって、経済成長と発展を促進することを目的としている。本講座では、持続可能なデジタル化社会の実現に向け、DXがGXをどのようにサポートできるか、またその逆はどのようにできるかを探る。	選択必修
専門教育	共創専門科目	データサイエンス・生命科学系	企業から学ぶICT・DX活用論	○	高度情報社会において、ICT・DXの活用は、地域イノベーションに不可欠である。本講座では、熊本県内の企業及び組織で活躍されている社会人講師を招聘し、ICT・DXを活用してどのように地域の課題を解決しているのか、また、組織的取り組みとしての地域貢献についての考え方について講義する。複数の講師により、多様なテーマを設定し、講義と討論によって学習を深めていく。また、ビジネスモデルの表現を学び、地域課題を解決するためのビジネスモデルの提案力、プレゼンテーション力を身につける。	選択必修
専門教育	共創基盤科目	データサイエンス・生命科学系・生命科学系	データマイニング		データマイニング (Datamining) とは、収集したデータから傾向や特性を抽出する技術であり、企業では商品開発や市場動向の予測に利用されている。本講座では、データを活用して有益な情報を見出す手法を学ぶ。また、広報活動においてもデータの収集と分析が重要であり、効果的な広報内容の決定や検証に役立つものである。例として入試関係のアンケートデータを用いて、効果的な入試広報についての演習を行い、理解を深める。	共同、選択必修
専門教育	共創専門科目	データサイエンス・生命科学系	防災・減災学	○	本講座では、防災・減災の基礎を学ぶ。災害の発生要因は自然的要素と社会的要素があり、特に防災・減災は、教育や福祉、法律、地域構造を理解する必要がある。平成28年熊本大地震や令和2年7月豪雨など熊本における災害事例だけでなく、海外を含めた災害事例を基に地区防災計画や個別避難計画、タイムラインやハザードマップなど防災・減災の取り組みと課題、避難所運営や災害支援を含む発災後から復旧・復興までの過程と課題について学ぶ。	選択必修
専門教育	共創専門科目	データサイエンス・生命科学系	安全学	○	安全は、生活だけでなく人間で構成される社会において、人身損害や物件損害となる事故が起きないようにするために重要である。この授業において、安全とは何か、安全対策、安全文化の構築と安全行動について学ぶ。テキストを使って、安全、安全対策、安全文化、安全行動について説明する。それらの理解度はレポートで評価する。事故事例を使ったケーススタディーで、安全意識を醸成する。その確認は、小論文または口頭試問で評価する。グループワークによって、安全に関する企画を考え、それをプレゼンテーションし、それを評価する。	選択必修
専門教育	共創専門科目	データサイエンス・生命科学系	生物資源学		資源は、生活や産業に利用できるものである。生物資源は人間にとって価値のあるもので、遺伝資源も含め、動物、植物、微生物などの生物を由来としている。生物資源は、古来より利用されており、現代では化石資源から生物資源への転換が求められている。この授業において、生物資源とは何か、生物資源の利用方法についてテキストを通じて学ぶ。テキストを使って、生物資源とその利用方法について説明する。それらの理解度は、レポートで評価する。	選択必修
専門教育	共創専門科目	データサイエンス・生命科学系	バイオテクノロジー		バイオテクノロジーは、生物資源の価値を高め、利用しやすくする技術であり、お酒造りや農作物の品種改良もバイオテクノロジーを利用している。この授業において、食品や農業、さらに医療の分野で利用されているバイオテクノロジーについて学ぶ。またバイオテクノロジーを利用した生物資源の創製について提案できるようになる。テキストを使って、バイオテクノロジーについて説明する。それらの理解度は、レポートと小論文で評価する。	選択必修
専門教育	共創専門科目	データサイエンス・生命科学系	バイオ循環型グリーンテクノロジー		バイオ循環グリーン技術を紹介する。バイオ・サーキュラー・グリーン (BCG) 技術とは、バイオ、サーキュラー、グリーンという3つの考え方を統合した経済モデルである。持続可能な発展のための成長戦略として推進されている。地域経済の活性化には欠かせない技術である。国内あるいは地域の陸上資源や海洋資源への応用事例を紹介し、分析する。さらに、国境を越えて、環境、福祉、健康、エネルギーの持続可能性の問題に具体的に取り組み、日本とASEANの結びつきを強化し、地域の産業を活性化することを目指す。	選択必修
専門教育	共創専門科目	データサイエンス・生命科学系	グリーンケミストリー		グリーンケミストリーの原理を応用することは、やがて持続可能な世界への道を開き、社会情勢を革新することになる。このコースでは、社会革新のためのグリーンケミストリーの原理と概念を紹介する。さまざまな種類の資源に適用されるさまざまな技術が比較・分析される。また、これらの概念がどのように持続可能性に貢献し、社会の中に存在する関係、システム、慣行にどのような変化をもたらす可能性があるのかを批判的に分析する。	選択必修
専門教育	共創専門科目	データサイエンス・生命科学系	社会インフラメンテナンス学		本講座では、地域社会の生活や安全を支える道路をはじめインフラ構造物の計画・設計・維持管理について、国土強靱化の観点から踏まえ幅広い視点から学ぶ。講義では、道路や橋梁などのインフラ整備が持つ社会的役割や地域社会に及ぼす影響、それらの計画から設計、施工、維持管理に至る基礎事項、災害に強いインフラ構築のための安全性評価の手法などを取り上げ、地域の生活の質向上と安全確保のためのインフラ整備の重要性を総合的に理解し、実社会で必要となる基礎力を養うことを目指す。	選択必修

専門教育	共創専門科目	データサイエンス・生命科学系	水環境管理論		水は人の営みに必要不可欠な要素であると同時に、豪雨や水害をもたらす危険性をもつ要素でもある。人々が安心・安全に暮らしていくうえで、地域の水環境を正確に把握し、適切に管理しなければならぬ。また、2018年に気候変動適応法が施行され、気候変動の影響を踏まえたうえで水環境を管理していく必要がある。本講義では、気候変動について学び、その上で、水循環や水質等の水環境に関わる専門的知識を学び、地域づくり・まちづくりに生かせる下地を作る。 (オムニバス形式/全15回) (46 石田 桂/8回) 水循環や水質等の水環境について水文学の観点から担当する。 (47 伊藤絃晃/7回) 地球環境問題に関連する気候変動について土木工学の観点から担当する。	オムニバス、選択必修
専門教育	共創専門科目	データサイエンス・生命科学系	地域デザイン学		本講義では、世界的な気候変動のなか、高齢社会において地域住民、行政、アソシエーションなど様々な主体が協働し、終わりのない地域環境・社会の改善活動を実践するまちづくりの基礎を学ぶ。そのためにsustainableな暮らしを実現するために、多様な主体が安心・安全な対話に基づき、地域環境・社会について能動的に学ぶ「まち歩き」のデザインを行い、ルーブリックを用いた自己評価を行う。	選択必修
専門教育	共創専門科目	データサイエンス・生命科学系	アーバンプランニング		本講義では、まず都市の成り立ちや都市計画の役割、都市計画に関わる諸制度、計画などの基本について学ぶとともに、都市の成り立ちを説明するモデルや理論についても学ぶ。また、交通や環境、まちづくりなどのキーワードから都市を捉えていくとともに、海外の都市についても学んでいく。加えて、講義で得た知見を踏まえた現地調査レポートを課すことで、都市計画の基礎知識を学ぶことのみならず、都市が直面している諸問題に対する実践的課題解決能力についても養成することを目的とする。	選択必修
専門教育	共創専門科目	データサイエンス・生命科学系	くまもと流域圏の自然と生物多様性	○	「地球規模の視野」と「地域の視点」両面から考えて行動し、共生共創する地域をデザインできる人材を育成するためには、人間社会を取り巻く自然環境や生物多様性の「理(ことわり)」を学ぶ必要がある。本講義では、地域(グローバル)の観点から、熊本県内に分布する日本有数の活火山である阿蘇山や白川など一級河川の流域圏、熊本県沿岸部と接し、日本最大の干満差と干潟面積を誇る有明海・八代海など九州内湾の独特な自然環境や生物群の他、赤潮や豪雨など近年頻度が増す自然災害について学び、我が県に恩恵をもたらす熊本独特の自然生態系と共生する地域創生のために必要な洞察力を深める。	
専門教育	共創専門科目	データサイエンス・生命科学系	山・川・海 of 自然と環境・災害問題		「地球規模の視野」と「地域の視点」両面から考えて行動し、共生共創する地域をデザインできる人材を育成するためには、人間社会を取り巻く自然環境や生物多様性の「理(ことわり)」を学ぶ必要がある。本講義では、地球規模(グローバル)の観点から、我が国の国土や経済的排他水域に分布する火山、河川、沿岸域から熱水噴出域・海溝に至るまでの超深海まで、様々な自然環境と生態系、そこに生息する(した)現生や太古の多様な生物群集を学ぶ他、火山噴火などに伴う大規模な災害や温暖化などの環境問題が現在から近未来の社会に及ぼす影響について学び、将来、自然環境と共生する社会創生のために必要な基礎知識を取得する。	
専門教育	共創専門科目	データサイエンス・生命科学系	地球システム学		地球とは、構成要素がお互いに密接に関連し合いながら形成され進化した「システム」である。この構成要素がどのように関連し合っているのか、地球上の気候変化と現在の環境問題を通じて理解する。地球システムの形成・進化の歴史を知るとともに、現在の地球環境の状況を把握し、今後予想されるシステムの変化について科学的に思考できる能力を身につける。「システムとは何か」から始まり、気圏、水圏、岩石圏、生物圏からなる地球システムの現況と、科学的な観測から推測されるその歴史を紹介する。地球のエネルギー収支や大気・海洋の循環、物質循環および生物圏の構造の理解を促し、地球システム内の相互作用の結果として起こった環境変化とその要因を解説する。この上で、現在人類が直面しているグローバルな環境問題を取り上げ、地球環境システムの将来を考察する。また、演習問題を解くことで「科学的」「定量的」に考える姿勢を身につける。	
専門教育	共創専門科目	データサイエンス・生命科学系	地球環境科学		本授業は、グローバルな水環境や熊本地域のローカルな水環境について理解を深めることを目的とする。地球温暖化や仮想水などグローバルな課題の理解に必要な基礎知識および熊本の水環境について解説し、グローバルな水文学的課題や熊本の水環境の特徴・現状を学ぶ。本授業を通じて、水環境の実態とそのプロセスを詳しく理解し、水資源の持続的な利用について深く考えることにつなげる。	
専門教育	共創専門科目	データサイエンス・生命科学系	地球史		本授業は、地球の誕生から現在までに生じた地球科学分野における代表的なイベントについて理解し、現在の地球や生物が誕生した過程とその後の歴史を知ることを目的とする授業である。地球上で生じた大陸や海洋、大気、生物相などのイベント的な変化について取り上げ、現在の地球や生物が誕生したプロセスや大量絶滅、日本列島の形成とその後の変遷などについて解説する。本授業を通して、現在につながる地球とそれらの上に暮らす生物の歴史を理解し、そのために地球上で起きてきた現象とそれらをもたらした要因について理解する。	
専門教育	共創専門科目	データサイエンス・生命科学系	生物多様性学 I		現在の地球上の生物多様性は、生物が長年「進化」を続けてきた結果である。本講義では、ダーウィンの進化論をはじめ、集団レベルの進化、種分化プロセス、進化の歴史を推定する系統学などを概観し、それらの基礎的知識を習得することを目的とする。現在の地球上の生物多様性は、生物が長年「進化」を続けてきた結果である。その「進化」に関わる研究分野は今分子遺伝学などの発展により細分化している。ここではその中から集団レベルの進化を扱う「集団遺伝学」、異所的・同所的種分化にかかる研究分野、進化の歴史を推定する「系統学」などの分野における基礎的知識を習得する。また生命が誕生してから現在までの生命の進化の歴史も概観する。	

専門教育	共創専門科目	データサイエンス・生命科学系	生物多様性学Ⅱ		本講義では現在の地球上の生物多様性を構成する主要なグループを概観していく。まずは原核生物である真正細菌と古細菌、そこから誕生したとされる真核生物、とくに単細胞生物である多様な原生生物についても触れる。後半は単細胞生物から進化してきた多細胞生物の一群である「植物」に焦点を当てて概説する。地球上に現れた多様な生物が長い進化と絶滅の繰り返しの結果現在に至っていることを理解し、その大まかな進化の流れや主要な分類群を説明できるようにすることを旨とする。現在私たちが知っている生物は約200万種、多種多様な生物がこの地球上には生育・生息している。地球上にどのような生物がいるのか、それらはどのように進化してきたのかを把握しておくことは、生物学のみならず生物が関係する諸分野を研究するものにとって重要である。ここでは現在地球上で見られる主要な生物群のうち、真正細菌・古細菌・原生生物・植物における形態的特徴、進化、系統を概観することによって、それらに対する基礎的知識を習得する。	
専門教育	共創専門科目	データサイエンス・生命科学系	グローバルヘルスとウェルビーイング		この科目では、疾病予防、医療アクセス、メンタルヘルス、環境がウェルビーイングに与える影響など、世界の健康に関わる主要な課題を探っていく。さらに、公衆衛生政策や国際組織の役割、健康改善のための技術的進歩についても検討する。ケーススタディや実践的な議論を通して、ヘルスリテラシーとグローバルヘルスについての学びを深める。グローバルな健康問題に関する知識を提供し、ウェルビーイングを促進するための戦略を学ぶことがこのコースの目的である。健康格差、持続可能な医療ソリューション、国際協力の重要性についての批判的思考を養う。	
専門教育	共創専門科目	データサイエンス・生命科学系	技術と共に探る地域健康デザイン		この授業では、地域の健康づくりに関連する課題（例：高齢化、未病・予防、特定健診受診率の向上など）に焦点を当て、バイオ技術（例：iPS細胞、新型コロナウイルスのPCR検査など）が地域社会の健康・福祉にどう貢献できるかを探る。また、技術利用に伴う倫理的な問題についても学び、考察する。これにより、文系の学生にとっても将来のキャリアに役立つ知識を深める。さらに、講義に加えて実践的なグループワークを通じて、技術と地域課題の接点を見つけ、効果的な解決策を共創する力を身につける。	
専門教育	共創専門科目	コミュニケーション系	社会科学方法論	○	本授業では、心理学における質的研究の方法や、インタビューを用いた探求の実践的課題について学び、インタビュー研究における倫理的課題も考察することを目的とする。インタビューとは、インタビュアーとインタビュイーの相互作用によって生成される、特殊な形式のコミュニケーションである。講義を通じて「インタビュー」の具体例や実践例を学び、コースの後半では実際にインタビューを計画・実施する。インタビュー調査を通じて、人のコミュニケーションに関する理解を深めるとともに、実際にインタビューを行うことで、読書だけでは身につけることのできない実践力を養うことを目的とする。	
専門教育	共創専門科目	コミュニケーション系	ポジティブ心理学	○	ポジティブ心理学は、個人や社会の繁栄を促す強みや長所を研究する心理学の一分野である。講義では、共感、利他主義、感謝、愛着、愛などのポジティブな感情や人間の強さの科学とその応用について包括的に取り上げる。さらに、新たな学術的成果や神経生物学的基盤を踏まえ、多様な社会の側面や文化的背景に根ざした人々の「強み」に焦点を当てる。科学的根拠に基づき、ポジティブ心理学が現代社会のさまざまな側面にどのように役立つのか、その実践的な価値を探究する。	
専門教育	共創専門科目	コミュニケーション系	コミュニティ心理学	○	コミュニティ心理学は、個人の心理や行動を社会的・文化的・経済的・環境的な文脈の中で理解し、より良い社会の構築を目指す心理学の分野である。本授業では、家族や地域社会といった人間集団に対する心理支援に関する諸理論と心理学的援助実践について体系的に学ぶ。まずは、人間集団として最も身近な「家族」に焦点を当て、家族関係がもたらす精神病理を理解し、家族療法などの心理支援の方法を習得する。次に、家族を取り巻く人間集団としての「地域社会」における心理支援の在り方を深める。	
専門教育	共創専門科目	コミュニケーション系	ディベート学Ⅰ	○	本講義ではディベートの基礎を学び、実際にディベートを実践することで、ディベートに対する理解を深める。講義では、ディベート初学者に向けてディベートの成り立ち、ルール、学術的意義などを体系的に解説し、グループワークを通してコミュニケーションの重要性を学ぶ。講義の後半では、実際にディベートをディベーター、ジャッジとして複数回体験し、スピーチ、フィードバックを通してディベートを主体的に行う実践者になることを目指す。	
専門教育	共創専門科目	コミュニケーション系	ディベート学Ⅱ	○	ディベートに関する基礎知識をベースとして、ディベートに対する理解をさらに深める。具体的には、様々なディベートのスタイルについて学び、より詳細な戦略について紹介した後、ディベートにおいて重要な証拠資料を適切に扱えるようになることを目標とする。また、ディベートに関する最新の学術成果についても取り扱い、Argumentationにおけるディベートの位置づけ、海外の動向など多面的な視点でディベートについて包括的に扱う講義である。	
専門教育	共創専門科目	コミュニケーション系	ダイアログ実践Ⅰ	○	ダイアログの語源はギリシャ語のディアロギス (dialogos)、ことば (logos) のあいだ (dia) である。私たちは日々、ことばを交わして誰かと様々なコミュニケーションを行っているが、はたしてそこで本当に相手の話に耳を傾け、丁寧に考えながら会話を重ね、相手とともに新たな意味を創出することができているのだろうか。それは、相手を一方的に論破する（したつもりになる）独り言とは全く異なる会話である。この授業では、共在の場におけるダイアログの基本型のいくつかを体験的に学ぶことを通じて、その作法を身につけることを目指す。	
専門教育	共創専門科目	コミュニケーション系	ダイアログ実践Ⅱ	○	この授業では、「ダイアログ実践Ⅰ」での学びを踏まえ、複数の人々、異なる理念や知識、経験を有する諸組織や集団等が話し合うことを通じて連携、協働していくためのダイアログの場のあり方と、そのような場をファシリテートする（円滑にし、促進し、手助けする）ための具体的な方法を体験的に学ぶ。そのために、世界各地のダイアログ実践の場で用いられている様々なアプローチを紹介し、実際に授業の中でそれらのワークに取り組む。	

専門教育	共創専門科目	コミュニケーション系	社会調査法		社会調査とは、一定の社会集団における社会事象をめぐるデータを、主に現地調査によって直接収集し、処理し、記述し、分析するプロセスのことである。この授業では、目的にあわせた調査手法の選択や、調査を実施する際の手順について理解することを通して、様々な社会現象を調べようとする際に、どのような社会調査が適切であるのかを判断できるようになることを目指す。そのために、実際に自分たちで調査を設計、実施してデータを収集・整理するまでの手順を実践的に学ぶグループワークに取り組む。	
専門教育	共創専門科目	コミュニケーション系	紛争解決・平和構築概論		共創のプロセスにおいては、異なった立場や価値観同士の対立や葛藤といったコンフリクトは避けて通れないが、対立や葛藤にはよりよい未来へのヒントが隠されている。この授業では、対立や葛藤に建設的に向き合い、より平和な社会を共創していくために、紛争解決や平和構築の理論と技法の基礎を学ぶ。友人や家族関係の葛藤、いじめといった身近な課題から、近隣紛争や環境汚染といった地域社会の課題、戦争や気候変動などのグローバルな課題までを視野に入れ、講義のみならず、対話実践も取り入れながら、対立や葛藤からよりよい未来を共創していくための基礎力を身に着ける。	
専門教育	共創専門科目	コミュニケーション系	紛争解決・平和構築実践論		この授業では、対立や葛藤に向き合い、よりよい未来や平和な社会を共創していく実践のために必要な理論や技法を、地域社会やグローバルな社会課題の具体例を取り上げながら学ぶ。紛争解決・平和構築概論では扱えなかったより高度な理論や実践手法も扱い、分断されたコミュニティの正義ある和解の実現のための道筋を考えていく。水俣病公害を経験した水俣地域の事例を含め、国内外の紛争解決・平和構築と和解の課題を取り上げながら、フィールドワークやゲストスピーカーとの対話も取り入れ、現実社会で対立や葛藤から未来を創る共創力を磨く。	
専門教育	共創専門科目	コミュニケーション系	コミュニケーションとジェンダー		多種多様な文化が交錯する現代社会における「他者」とのコミュニケーションとはどのような意味をもつのか。当科目では、広義に捉えることのできるコミュニケーションという行為を対人関係の範囲によって絞り、その対人関係を本授業では特に「ジェンダー」に焦点をあて、人間同士の相互活動としてのコミュニケーションについて学ぶ。授業では積極的にアクティブラーニングを取り入れ、学生はグループに分かれての議論やプレゼンテーションといった活動をおとしてコミュニケーションとジェンダーに関する知識を養う。	
専門教育	共創専門科目	コミュニケーション系	文化進化論		本授業では、文化の進化と変化の要因について、包括的、批判的、また分析的な理解を修得することを目標としている。特に、学生は相対主義的な俗説ではなく、進化心理学的観点から特に次の要素に焦点を当て、文化について学ぶ。例えば、1)人口統計、2)戦争と平和、3)分離、接触、統合、4)生産様式と経済変化、5)リーダーシップ、6)テクノロジー、7)環境変化、を中心に学ぶ。本授業では主にアクティブラーニングを中心に進められ、学生はグループワーク、調査、プレゼンテーションなどに取り組む。	
専門教育	共創専門科目	コミュニケーション系	クリティカル・インシデント		本授業では、クリティカル・インシデントにつながる異文化間のコミュニケーションについて、ケーススタディを中心に学ぶ。クリティカル・インシデントとは異なる文化に育つ人々のコミュニケーションにおける衝突や不調和によって生じる。クリティカル・インシデントの分析は、異文化のより正確な理解につながるため、異文化との接触が避けられないグローバル時代において、クリティカル・インシデントの知識は必要不可欠であると言えるだろう。本授業は、クリティカル・インシデントに関する理論について学ぶだけでなく、事例をもとにグループによる分析、発表等を行い、学生の分析及びプレゼンテーション能力の向上に努める。	
専門教育	共創専門科目	コミュニケーション系	情報生態系とメディア		本授業では、現代社会において、高速で変化し続ける情報の消費・創出、そしてそれが我々に与える影響について学ぶ。従来のような信頼性がある程度担保されていたメディアが、SNSを中心とした個人個人のプラットフォームにその活躍の場を譲ったような現在の情報化社会において、「市民」はいかに政治的・社会的な役割を務めるべきか。このような問いについて、1)ファクトチェック、2)ソーシャルメディアの性質、3)言論の自由とセンサシップ、4)ニュース言説、5)ポリティカル・コレクトネスなどを中心に学ぶ。本授業では主にアクティブラーニングを中心に進め、学生はグループワーク、調査、プレゼンテーションなどに取り組む。	
専門教育	共創専門科目	コミュニケーション系	総合実践英語 I		ビジネス・イングリッシュ能力を測定する外部テストとしてTOEICテストがある。本授業では、TOEICテスト高得点取得を目標に、本格的な対策を行う。テスト対策の授業になるので、学生の積極的な参加が必須となる。3年生の夏休みには就職活動を本格的に始めなければならないので、それまでにA判定(860点以上)の得点が取れるように指導する。A判定を取得するまでには継続的な努力が必要であり、その目標に向かい参加してほしい。	
専門教育	共創専門科目	コミュニケーション系	総合実践英語 II		長期留学、交換留学を実現するためには、各大学が定めるILETSテストの基準得点を取得しなければならない。IELTSには高度のスピーキング・ライティング能力が必要である。長期的に計画し集中して取り組む必要があります。この授業では効果的に指導が行えるIELTSに特化する。そして留学を実現できるように必要な得点取得を目指す。リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングを各3セット行う予定としている。	
専門教育	共創専門科目	コミュニケーション系	総合実践中国語		台湾への留学準備を目的とした実践的な中国語力を養成する授業である。台湾の大学で必要とされる申請書類(申請書、自伝、推薦書)の作成方法を中心に、具体的な記述スキルを学ぶ。また、模擬面接や台湾の大学生活に関する情報収集・議論を通じて、留学後の適応力を高める。授業では、台湾の大学案内や実際の申請フォームを教材として使用し、中級レベルの語彙や文法を強化する。さらに、留学生活に必須の会話表現や文化的理解を深める活動も取り入れ、学生一人ひとりに対する個別指導や添削を行う。学期末には、自身の留学計画を中国語でプレゼンテーションし、実践的なアウトプット力を向上させる。	

専門教育	共創専門科目	コミュニケーション系	総合実践韓国語		韓国語の言語運用能力を総合的かつ実践的に学修することで、話す、聞く、読む、書くという4機能をバランスよく伸ばすことを目標とする。当科目では、実践的な場面を想定しながら、日常会話やビジネスシーンでの自然な韓国語表現を身に付ける。また、単なる韓国語の言語スキルだけでなく、韓国文化や社会についての理解も深める。これにより、言葉のニュアンスや文化的な違いを理解し、適切なコミュニケーションが可能となる。授業では、ディスカッション中心のグループ活動やプレゼンテーションを積極的に取り入れる。	
専門教育	共創専門科目	コミュニケーション系	研究法入門		授業は対面で、英語のテキストを読んで日本語と英語を併用して行う。本授業の目表は、研究の基本的な概念を学び、主に量的な研究の研究方法を学ぶ。研究になりうる課題、仮設の立て方、基本的な研究方法について学ぶ。また、批判的に研究を見る練習をし、実際の例をもとにディスカッションしながら、基本的な研究法、研究倫理を身に付ける。本授業では、授業前に英語テキストを読んできて、積極的に授業でのディスカッションに参加することが求められる。	
専門教育	共創専門科目	コミュニケーション系	日英・英日翻訳演習		本授業は主に日英翻訳を取り扱う。実際の翻訳作業ではGoogle翻訳やDeepLといったAI翻訳ツールを使用し、俳句、川柳、短文、短編小説といった様々な文学形式を通じて、日本語から英語（課題によっては、英語から日本語）の翻訳練習を行う。修正・校正の繰り返しのプロセスを経て、翻訳の基本的なスキルを学び、日本語と英語の語彙・表現、構造的な違い、文化間の文体的違いを認識し、翻訳で起こり得る課題や限界を理解する力を養う。クラス内ディスカッションやフィードバックを通して、言語的および文化的な課題、翻訳をする際に生じた課題について分析する内省レポートも成績評価の対象となる。	
専門教育	共創専門科目	コミュニケーション系	コミュニケーション論		近年、対話やナラティブ、傾聴といった用語が多く聞かれるようになり、コミュニケーションへの関心が高まっている。本授業では、対話、ナラティブ、コミュニティなどのいくつかのキーワードをもとに、文献の購読を行い、コミュニケーションに関する理論を学ぶ。扱う文献は多分野にまたがっているため、学際的な視点を養いながら、多角的に言語現象を眺めることができるようになる。また、担当教員が専門としている日本語教育の現場の事例なども取り上げる。	
専門教育	共創専門科目	コミュニケーション系	心理学概論		我々人間はさまざまな状況の中でどのようにものごとを理解し、判断し、振る舞っているのだろうか。本講義では、このような人間の行動を支える「こころ」の仕組みについて、心理学の諸領域の代表的な基礎理論と研究成果にもとづいて解説を行う。この講義での学習を通じて、学生は心理学の各領域の代表的な理論や考え方を理解し、日常生活の中で自分の身の回りで起きている事象に関して心理学的立場から説明できるようになることを目標とする。	
専門教育	共創専門科目	コミュニケーション系	コミュニケーション特論		「コミュニケーション」の研究分野は多岐にわたる。本授業では、担当教員の専門領域（例えば、ディベート学、心理学、メディア学、修辞学、教育学など）から「コミュニケーション」より専門的かつ実践的に学ぶ。まず、様々な社会問題を解決するための基礎となる理論についての理解を深める。そして、修得した知識を実際の社会問題に応用・実践できるように、コミュニケーション能力の向上に努める。また、本授業は、アクティブラーニングを積極的に取り入れ、討論、調査、プレゼンテーションなどを行う。	
専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	地域経済論	○	地域の振興策を考える上で、その地域でどのような糧を得るか、つまりどのような仕事をして生計を立てるかを考えることは不可欠である。他方で、地域で暮らす人々は仕事だけではなく生活者としても存在しており、地域の持続的発展においては、仕事と暮らしの両面から地域経済を多角的に捉えることが必要である。この授業では、地域経済に関する基本概念をふまえて、様々なタイプの地域経済の事例を取り上げ、地域経済の実態を適切に捉えるとともに、地域の実情に応じた地域振興策を展望する。	
専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	ローカルイノベーター育成論Ⅰ	○	本授業は、地域経済を支える金融機関の役割に焦点を当て、共創の場づくりや本業支援の実践的手法を学ぶ科目である。地方銀行、政府系金融機関などの協力機関と連携し、資金調達支援や事業成長を促す金融サービスの仕組みを理解する。具体的な事例研究やゲスト講義を通じて、地域課題の解決に貢献する金融の役割や戦略を分析し、持続可能な地域づくりを推進するための知識とスキルを身に付ける。地域のイノベーションを促進するサポーターを育成することを旨とする。	
専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	ローカルイノベーター育成論Ⅱ	○	本授業は、地域課題解決に向けた共創の場づくりを行政の視点から学ぶ科目である。国・県・市町村それぞれの役割や職務内容の違いを理解し、公務員に求められる資質やリーダーシップについて考察する。中央省庁や自治体職員、地域の商工業団体の実務担当者をゲスト講師として迎え、政策形成や地域振興の実践事例を通じて、行政の具体的な取り組みと課題解決プロセスを学ぶ。公共分野でのイノベーションを担うサポーターを育成することを旨とする。	
専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	経営戦略論	○	経営学や経営戦略論に関する基礎的な考え方や理論について理解すること、それらの理論的枠組みを用いて、企業の実際の経営活動について説明することができるようになることを本授業の目標とする。経営学は、実務と密接に結びついた、非常に実践志向が強い学問である。その中でも経営戦略は、企業が利益を獲得し持続的に成長するために欠かせない要素である。戦略には、顧客や競合相手などの外部環境だけでなく、組織の構造や人材といった内部環境にも適合していることが求められている。しかし、これを実現することは簡単ではなく、そこに実際の経営の難しさがある。本講義では、多くの具体的な事例を取り上げながら、色々な企業の実践を読み解くための経営戦略の知識や理論について解説する。	

専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	マーケティング論	○	マーケティングに関する基礎的な概念や理論について理解すること、それらの概念等を用いて企業の具体的なマーケティング活動について説明することができるようになることを本授業の目標とする。企業活動は、大きく内的活動と外的活動に分けることができる。特に、外的活動は、消費者や顧客に対する活動であり、主にマーケティングが中心となる。企業の利益が、顧客や消費者による自社製品の購買からもたらされることを踏まえれば、マーケティング活動は非常に重要となる。そこで、本講義では、具体的な事例を多く取り上げながら、実際の企業のマーケティング活動と理論を結びつけることによって、マーケティングに関する基礎的な知識や理論について理解を深める。	
専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	消費者行動論	○	消費者行動に関する基礎的な概念や理論について理解すること、それらの概念等を用いて我々消費者の行動について説明することができるようになることを本授業の目標とする。消費者行動は、モノあるいはサービスを購入・使用・処分する一連のプロセスである。消費者は、生活を送る中で様々な商品を購入・使用していますが、それらを購入するかどうか(どのように使用するかどうか)についての一連の意思決定は、一個人が行っている。しかし、同時に私たちの行動は、友人や文化といった社会からも大きく影響を受けており、消費者は社会的な存在であるともいえる。そこで、この講義では、具体例を取り上げつつ、多様な消費者行動を理解する手がかりとなる概念や理論について学ぶ。	
専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	コーポレートガバナンス論		コーポレートガバナンス論は、現在、単に企業の不正の防止・効率的な経営といった観点だけではなく、サステナビリティの問題も包摂した社会と企業の共創の学問となっている。このことを制度的、歴史的経緯を振り返りつつ理解し、現代社会と企業の問題を考え、解決策を探る力を得ることを目標とする。コーポレートガバナンスを理解するには、コーポレートガバナンス論自体に加え、その要素である「内部統制」や「リスクマネジメント」の理解も重要となる。本科目では、これらを学問の分野を超えて取り上げ、実務の視点を交えながらコーポレートガバナンスにおける問題を多角的に理解できるようにする。また、実際に起きた事件・映画を題材にした双方向のディスカッションにより、ブラクティカルな授業とする。	
専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	与信会計論		「会計」は、あらゆる組織体における共通言語であり、社会人としての知のインフラである。すなわち、「会計」を学ぶことは社会人としての基礎を学ぶことに他ならない。しかしながら、学問としての「会計」を学んだだけでは実社会で応用できないことから、本講義では、「会計」が有する与信提供機能を中心に、記録機能としての簿記論、与信比較機能としての財務会計論、内部与信機能としての管理会計論、信用付与機能としてのファイナンス論を含む実学としての会計を扱う。本講義は原則として、各回とも理論＋ケースの方式を採用することから、学問としての「会計」に関する基礎概念の取得するとともに、単に言語としての「会計」を理解するだけでなく、見て聞いてわかる、そして話せる「会計」の習得を講義の最終目標とする。講義は会計に関する横断的な分野であることから特定のテキストを使用せず、講師作成のパワーポイント資料を使用して実施する。また、授業では、Two-Way講義が原則であり、特に生徒の積極的な授業参加を求める。	
専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	アート思考演習		本授業は、演習形式で実施する。アート思考 (Art Thinking) は、ロジカル思考とは異なる個人の飛躍的発想思考法をいう。アートを通して個の感覚を修養し、面白さや楽しさを自分軸中心に思考し創造する授業である。アート体認から多角・多面的探求心と、既成概念の枠外へといえども柔軟に挑戦する心の育成、そして現代VUCA時代のアントレプレナーシップ等への思考行動涵養を目指す。アートは特別なものですが、特定の人の為のものではなく誰もがアーティストで在れる。自分軸で事物を考え柔軟な感覚的表現のアートを体験し、創造性を体感する。アート制作体験・鑑賞・共感の中、そこに表現に感ずる自己を知りながらも無価値物から魅力を生み出し、退屈・閉塞から驚きや感動を伴う新鮮感覚へ挑戦してみよう。そして、県内の企業・団体等への現地探求を通してアート思考による創造的企画案を想起する体験活動を実施する。	
専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	マーケティング・リサーチ		マーケティング・リサーチはエビデンスベースのマーケティング戦略決定には必須であり、マーケティング以外にも応用可能な重要な学問分野の一つである。この授業では、マーケティング・リサーチの多様な手法とその特徴、実査における注意点を理解した上で、実際にリサーチを行うことで、実査のスキル及びリサーチ結果の解釈能力を獲得することを目標とする。マーケティング・リサーチには多様な手法があり、課題に適合する手法を選択する必要がある。また、データ・ドリブンのマーケティングと並び、リサーチから取得されたデータの活用は実務において必須となる。基礎的な知識の習得すると同時に、実際にグループでテーマを設定し実調査を計画・実施・分析を行うことで理解を深める。	
専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	サービスマーケティング		グローバルに進む経済のサービス化に伴い、サービスマーケティングは経営戦略における主要な学問分野の一つとなった。この授業では、特に価値共創のプロセスとしてのサービスという概念を外観し、サービスの持つ特性の理解、対応するマーケティング戦略・戦術を、実社会で起こっている現象をもとに概説を行う。これらを通して、サービスマーケティングの理論を現実にも適用する力を獲得し、企業や組織が価値共創を促進するマーケティングの方策を考える手がかりを得ることを目標とする。サービスマーケティングは比較的新しい学問であり、サービスの定義の変遷、最新の理論による価値共創概念の理解を最初に行う。その後、サービス特性に対して生じるマーケティング課題を取り上げ、現実の企業や組織の事例に当てはめながら考察する。実際にはグループで事例研究を進め、発表とディスカッションによって理解を進める。	

専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	環境経済論		環境問題を分析するにあたって、地理学、経済学・経営学・政策科学的視点を養うことを目的とする。とくに水俣病事件やSDGsなど、それが定められた歴史や背景、問題点に関して自分で意見が言えることが重要となる。本授業では、水俣病を中心に公害問題の歴史を学ぶ。加えて、環境経営の基礎や、環境に関する地域政策の講義も行う。また、産業構造の高度化による環境問題の深化について、経済地理学的視点から学び、最近のトピックスとしてSDGsやデジタル化がもたらそうとしている様々な論点で経済について考察する。	
専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	地域政策		地域づくりに対する基本的認識と方向性に基づいて、地域づくりを考えるための基本的知識、考え方を学ぶ。また、この授業で対象としている地方圏の地域の状況についての認識を得て、ローカル・ガバナンスや地域マネジメント等の地域づくりを支える枠組み形成のあり方について学び、それらを踏まえて、経済地理学的観点からみた地域政策の分析視角を身に付ける。授業にはアクティブラーニングやグループ討議を取り入れ、地域政策の知識や考え方の理解を深める。	
専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	地方財政		地方財政論の基礎的な論点を理解し、現状の財政構造に至るまでの歴史的背景およびその課題を認識し、今後どのようにあるべきか論理的に思考するきっかけとなることを目的とする。、長い歴史のなかで位置づければ、国家や地方政府のあり方は多様であり、時代ごとに役割と構造が変化している。そのため、財政学・地方財政では、財政の構造の分析を通してその背後にある経済構造、政治構造、社会構造を解き明かすことを目的としている。この講義は、財政学とは何かから、地方自治体の財政に焦点を当て、地方財政の役割および課題、そのあり方を検討し、財政制度を通じて浮かび上がる日本社会の構造を読み解く。	
専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	経済政策		様々な社会問題の影響を踏まえた経済政策のあり方や政府の役割について自分なりの考えを示すことができるようになること、経済学の専門知識を習得し、経済学の基本的なものの見方や考え方を身につけること、経済政策の役割を理解し、それらの効果や有効性を把握することで、現実の経済で生じる問題を体系的に考察することができるようになることを目的とする。本講義では、経済政策に関わる諸問題を理解するうえで必要となる経済政策のミクロ的基礎やマクロ的基礎について学ぶ。その上で経済問題が生じる原因を理解し、それらを解決するための政策のあり方や問題点を考察し、政策の効果や有効性を検討する。これらのことにより、日本経済が直面する諸課題や現状について理解を深め、社会の現実的な課題に対して問題意識を持ち、それらを専門的な知識に基づいて考察する。また、経済学が私たちの身近な問題にいかに関わっているのかを理解し、事例分析に応用できるようになる。	
専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	国際経済論		日本と経済的な結びつきの強い国・地域の経済動向を理解しながら、世界経済をみる視点を養う。日本の経済問題を、世界経済の動向と関連づけて捉えられるようになることを目指している。この講義では、世界金融危機、欧州債務危機、米中通商摩擦などの世界経済の諸問題を取り上げ、関連する経済理論を用いながら、その要因・背景について検討するとともに、現在の課題について考察する。図やグラフをもとに現実生起する経済現象を分析することで、世界経済を俯瞰するのに必要な視点や考え方を学ぶ。	
専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	行政学Ⅰ		本授業は、講義形式によるものとし、行政学の基本的な概念を踏まえつつ、日本における行政官僚制の諸側面について考察する。行政学の視点、行政活動の範囲がどのように変容してきたのか、近代官僚制の成立、中央と地方の制度的な関係、分権改革による自治体行政の変化・可能性、自治体の行政部門がどのように組織化されているのかといったことについて学ぶ。	
専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	行政学Ⅱ		本授業は、講義形式によるものとし、行政学の視点から、日本の公共政策がどのように作成・決定・実施・評価されているのかを概説する。政府の役割が歴史的にどのように変わってきたのか、公共政策をとりまく環境の変化、公共政策の構成要素やその循環、法律・予算・計画の作成過程、公共政策の決定・実施・評価といったことについて学ぶ。併せて、熊本の社会的課題についても扱う。	
専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	社会保障法Ⅰ		本講義では、我が国の社会保障制度の根幹となる、社会保険制度、とりわけ、医療保険制度、年金保険制度、介護保険制度につき、制度の概要や法的論点を理解し、法学としての社会保障に関する知識の獲得を目指すことを目的とする。社会保障制度の中でも、とりわけ医療保険、介護保険、年金保険の社会保険制度を取り上げ、社会保険制度の特質、ならびに、個別制度の内容、法的課題を学ぶ。	
専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	社会保障法Ⅱ		社会保障制度の中でも人的サービスを中心とする社会福祉、とりわけ、障害者、児童、低所得者に対する施策につき制度の理解を深め、法的課題を知ることが目的とする。社会福祉法人及び社会福祉事業、児童・母子福祉とひとり親支援、障害者定義と法政の概要、障害者総合支援法に基づくサービス、生活保護の意義と沿革といった社会保障制度の中でも、とりわけ、生活を支える福祉サービスや金銭給付を対象とした制度、法的課題について学ぶ。	
専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	地域社会学概論Ⅰ		この授業では、コミュニティの検討を通して、現代社会の構造と変容を社会的に把握し、その知見を実践に応用できる能力を習得する。授業は対面実施し、ディスカッションやムードルを用いた質疑応答を重視して進める。そのため、毎回プリントを配る。講義では、まず、漫画『サザエさん』を用いて、現代の日本人が直面する生活上の悩みを体感的に理解する。その上で、日本におけるコミュニティの歴史、明治期以降の変遷、さらに現代のまちづくり、むらづくりの活動の諸相を紹介する。最後に、講義のまとめとして、ソーシャル・キャピタル論、ネットワーク論をはじめ、現代のコミュニティと地域社会の理解に必要な理論を、定評ある研究成果をもとに概説する。	

専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	地理学概論		地理学は地域科学の主要な基礎をなす学問分野の一つである。この授業では、特に人文地理学の諸分野を概観しながら、地理学の基礎となる視点と方法を概説する。このことを通じて、現実の地域的・空間的な現象や地域問題を説明する力を獲得し、地域を良くしていくための方策を考える手がかりを得ることを目標とする。具体的には、地域の概念、人口の地域性、産業の立地、生活行動の空間性などのトピックを取り上げて概説することによって、地理学の見方・考え方を修得する。	
専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	自然地理学Ⅰ		本講義では、自然地理学の主要な分野である地形学、水文学、気候学ならびに、これら3つの諸現象と密接にかかわる環境地理学について、国内外のよく知られた事象と九州や熊本の身近な自然現象を取り上げながら解説する。また、これらの分野と相互に関連する自然災害、感染症、獣害などを応用問題として取り上げ、地理学の調査方法や考え方に触れ、地理学的なものの見方や考え方を学ぶ。応用問題の事例を通して、人間と環境との関係のありかたについても考える。本講義では、自然環境の現象や環境問題が生じる要因とその背景について、様々な空間・時間スケールから多角的に見る力を養うことを目指す。	
専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	地理調査法概説		地域調査を行う際に必要となる地理学的手法の基礎を、実際の課題を遂行することを通じて習得する。それを通じて、地域の特徴を適切な方法論に基づいて詳細に把握する能力と、様々な調査方法の利点を理解した上で、適切な調査方法を選択して遂行する能力を養う。具体的には、フィールドワークの基礎、文献の利用法、統計データの利用法、地図から地域の情報を読み取る手法、主題図を作成する手法、簡易なGIS（地理情報システム）の利用法などを、実習を通して学ぶ。	
専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	自然地理学Ⅱ		本講義では、人々の暮らしの中で環境との関わりから生じた問題や文化について、主に日本国内の事例を取り上げ、自然地理学の基礎的な概念を踏まえながら解説する。事例の解説や読図作業を通じて、地理学的な視点・手法を習得するとともに、文化や環境問題を多面的に考えられるようになることを目指す。講義の半ばではハザードマップやフィールドワークなどを組み合わせ、身近な地域の安全安心マップ（逃げ地図）をグループワークで作成する。講義の最終盤では、地域で生じている景観、環境、文化等の具体的な課題を取り上げ、問題の背景や賛否両論を整理し、どのような共通理解が考えられるかについて資料を作成し、プレゼンテーションおよび相互評価を行う。	
専門教育	共創専門科目	経営・経済・公共政策系	経営・マーケティング特論		本授業は、経営戦略とマーケティング理論を融合させた応用的知識と実践力を養う科目である。市場分析、競争戦略、ブランディング、デジタルマーケティングなどの最新トピックを取り上げ、企業の成長戦略や顧客価値創造の手法を学ぶ。 ケーススタディやグループワークを通じて、実際のビジネス課題に対応する企画・分析・提案力を強化する。また、イノベーションやグローバル市場への対応など、企業の持続的成長を支える戦略的視点を身につけることを目指す。	
専門教育	共創専門科目	多文化共生系	グローバル・チーム・ダイナミクス	○	このコースでは、多様な国際チーム環境でうまくやっていくためのスキルを学生に身につけさせる。このコースでは、理論と実践を組み合わせ、異文化コミュニケーション、対立解決、多様な視点の活用など、効果的なコラボレーションのための重要な戦略を探る。学生は、さまざまな国の仲間とリアルタイムの仮想チームプロジェクトに参加し、学んだテクニックを適用して複雑な課題を解決する。さまざまな文化規範への適応、シームレスなコラボレーションのためのテクノロジーの活用、包括的なチームダイナミクスの促進に重点が置かれている。コース終了時には、学生はグローバルな多文化チームで効果的にリーダーシップを発揮し、貢献する準備が整う。	
専門教育	共創専門科目	多文化共生系	多文化社会と日本	○	近年、日本では外国人居住者が増加している。この科目では、観光、教育、医療、災害対策、未来のイノベーションといった視点から、外国人が地域社会に果たす役割やその影響について詳しく学ぶ。また、多文化共生社会の利点を理解するとともに、言語や文化の違い、グローバルな視点の重要性といった課題についても考察する。ケーススタディや実践的な議論を通じて、日本における多文化社会の現状を深く理解し、多国籍・多言語・多職種環境で活躍できるグローバル人材の育成を目指す。	
専門教育	共創専門科目	多文化共生系	韓国現代文化論	○	韓国は、近年、経済発展とともに文化の世界的な発信地として注目を集めている。その中で、K-POP、映画、ドラマ、ファッションなど、多岐にわたる現代文化が特徴的である。当科目では、韓国社会における文化的特徴や変遷、ポップカルチャーとグローバル化、文化コンテンツ産業の影響と展望、若者文化や流行など、多角的に韓国文化の現状を考えることで、韓国社会のダイナミズムと社会的課題を探る。授業では、ディスカッション中心のグループ活動やプレゼンテーションを積極的に取り入れる。	
専門教育	共創専門科目	多文化共生系	日韓比較文化論	○	日本と韓国は地理的に近く、歴史的・文化的な交流が深い一方で、それぞれ固有の文化的特徴を持っている。当科目では、日韓の文化的共通点や相違点を把握、理解することを通じて、両国の関係性や歴史的な背景を議論し、相互理解を深めることを目標とする。取り上げるテーマは、日韓の文化交流から生じる文化的摩擦や融合、言語、社会構造と家族観、衣食住文化、そして音楽やドラマなどのポップカルチャーなど様々である。授業では、ディスカッション中心のグループ活動やプレゼンテーションを積極的に取り入れる。	
専門教育	共創専門科目	多文化共生系	現代台湾研究	○	本講義は、台湾の歴史、政治経済、国際関係を中心に、台湾の成り立ちから現代に至るまでの全体像を学ぶことを目的としている。授業では、台湾原住民族文化やオランダ・清朝支配、日本統治時代を経て、国共内戦後の国民政府の移転と戒厳令時代、さらに民主化の進展までの歴史の変遷を追う。また、現代の台湾政治の仕組みや主要政党、経済発展の背景、IT産業を中心とした産業構造についても取り上げる。さらに、中国や日本との関係や国際社会における台湾の立場、外交政策を考察し、台湾海峡問題や米台関係といった重要なテーマについても議論する。講義では、地図や映像資料を活用した視覚的な理解を重視し、ディスカッションや学生発表を通じて主体的な学びを促進する。最終的に台湾の現状と未来の課題を議論し、東アジア地域への理解を深めることを目指す。	

専門教育	共創専門科目	多文化共生系	台湾の文化と社会	○	本講義は、台湾の社会、文化、芸術について多角的に学び、台湾の多様性や独自性を理解することを目的としている。台湾社会の多民族構成や多文化共生、宗教と信仰、家族構造やジェンダー問題を取り上げ、現代台湾の社会的背景を考察する。また、台湾文学や映画、美術、音楽といった芸術分野の発展を学び、台湾文化の魅力を探る。さらに、台湾料理や地域文化、観光地、伝統祭祀といった生活文化にも焦点を当て、台湾人の価値観やライフスタイルに迫る。講義では、映像資料やグループディスカッションを活用し、学生が主体的に学べる環境を提供する。最終的に、台湾の社会・文化を理解するだけでなく、台湾の未来や国際社会における役割について議論し、多文化理解と国際的視野を広げることを目指す。	
専門教育	共創専門科目	多文化共生系	日本語日文学入門		高校には「国語」という科目があるが、大学では「日本語学」「日本文学」を学ぶことができる。では、高校までの学修と大学の専門的な内容にはどのような違いがあるのでしょうか。この授業では、日本語あるいは日本文学を研究することの意義と方法について、講義する。なるべく身近な題材をもとに、日本語あるいは日本文学を研究することの意義と方法について理解することを旨とする。	
専門教育	共創専門科目	多文化共生系	中国語圏文化論		本講義は、中国に於ける政治のあり方とその背景にある思想について、また東アジア社会、とりわけ日本との関係に於ける中国の位置について理解し、説明できるようになることを目的とする。授業は前近代の社会を扱うパートと近代以降を扱うパートの大きく二部によって構成されており、通時的に学ぶことで中国社会の全体像を理解することを旨とする。前近代のパートでは、いわゆる「儒家思想」を中心に取り上げ、その基本的な考え方や時代背景や隣接する他の思想との関係について学ぶ。近代以降のパートでは、清末から現代に至るまでの中国、台湾、香港の歴史を概観し、現代中国および東アジアの諸問題を考える視点を身につけることを目標とする。また、新聞記事を利用して、時事問題もテーマとして学ぶ。	
専門教育	共創専門科目	多文化共生系	英語圏文化論		複数のアメリカ映画を通して現代アメリカの文化的事象について学ぶ。特に地域性、人種・人権問題、メディアと政治、文化的アイコンとしてのセレブリティ、日本を含む各国文化との相互交渉について考えていく。さらに、言語文化の多様性を前提とした相互理解を深める上での課題を把握し、その方法論についても実践的に学ぶ。	
専門教育	共創専門科目	多文化共生系	ドイツ語圏・フランス語圏文化論		前半は、フランス語圏の言語・文化・歴史・社会・芸術・思想・映画等を紹介し、フランスに関する専門的な学修のための基礎を学ぶ。毎回異なるテーマをピックアップして、幅広く、そして時には深く、フランス文化論やその背景にあるフランスの思想や歴史について解説する。後半は、ドイツ語圏の言語・文化・歴史・社会・芸術・思想等を紹介し、ドイツに関する専門的な学修のための基礎を学ぶ。現代ドイツのアクチュアルな問題やテーマを中心に、ドイツ文化論やその背景にあるドイツの思想や歴史について解説する。各テーマについては、教員による導入後、(日本語・英語による)資料の読解とディスカッションを行う。	
専門教育	共創専門科目	多文化共生系	比較文学・国際文化学入門		比較文学・比較文化、そして国際文化学という学問領域の概要と特性を具体的な事例にもとづき理解し、専門的な文学・文化研究に必要な基本的な知識と姿勢を修得することを学修目標とする。比較文化・文学については、ドイツ、ポーランドなどの中東欧の文学・文化や日本、中国を中心とする東アジアの文学・文化を通して、国際文化学については、家族、教育、宗教などの知見を深め、文学や文化に言語や国境を超えた普遍性があることを学ぶ。	
専門教育	共創専門科目	多文化共生系	現代文化資源学入門		さまざまな現代文化資源について、授業担当がそれぞれの専門分野の視点から、どのように発見し、どのように記録・保存・分析して価値づけ、どのように価値を発信するか、具体例とともに紹介する。学生は、地域の言語・文化やポップカルチャーなどの現代文化を資源として捉え、多面的に理解を深めることができる。また、種々の現代文化資源を、地域を超えてグローバルに、また将来の世代へアーカイブ化して伝える方法を、対外的に具体的に説明できるようになる。	
専門教育	共創専門科目	多文化共生系	倫理学概論		倫理とは何か。また、正しいことや善いことはどのようにして判断できるのだろうか。規範倫理学はそうした問いに答えようとする倫理学の一分野である。本講義では、規範倫理学でよく知られた諸理論(義務論、功利主義、徳倫理学、ケアの倫理)をとりあげる。そして、個々の理論がどのようなものかを知り、それぞれの理論同士の類似点や相違点、それらに含まれる問題点、相互の関係性などに特に注意を払う。その際、抽象的な理論の検討だけにならないように、できるだけ具体的な問題を例に挙げて検討する。それによって、受講生が主体的に道徳的諸問題について考察するための基礎を築くことを目的とする。	
専門教育	共創専門科目	多文化共生系	社会学概論		本授業(講義)では、受講者が社会学とはいかなる学問かを理解し、社会学の主題・対象・アプローチに関する基礎知識を習得することを目標とする。そのために、近代における社会学誕生の経緯、ならびに、デュルケムやヴェーバーらの主要な基本理論と基礎概念を講じる。またその応用として、社会学の下部領域を構成する家族・労働・逸脱といった個別のトピックを取り上げ、現代の具体的な事例も適宜まじえるなどして分析し、「社会の科学」である社会学に対する受講者の理解を深めることを目指す。	

専門教育	共創専門科目	多文化共生系	文化人類学概論		本講義では、地球上のさまざまな文化について学び、その文化が当の人々にとってなぜ意味あるものとなっているかを理解する。それによって、我々が日頃当然のように使っている諸概念（例えば、自然・男女・宗教）の自明性を疑い、現代社会で生起しているさまざまな問題にすかさずに対処できる力を身につけていく。具体的には、まず、フィールドワークという文化人類学的方法論の成り立ち、文化という概念の限界と可能性について学ぶ。それから、個人という観念の形成史をおさえつつ、親族や民族そして国民といった集団範疇に関する新たな知識を獲得する。さいごに、例えば冠婚葬祭のような行事、そして紛争や運動といった出来事をめぐる人々の受け止め方と彼らの世界観と相関関係について学習する。	
専門教育	共創専門科目	多文化共生系	日本史概説Ⅰ		本講義は、日本史上で「中世」と呼ばれる時代の社会状況の世界史的な特殊性について基本的な事項を理解し、もって、日本社会の歴史の特質を説明できるようにすることを目的とする。古代～戦国期の主要事項をとりあげ、その史的意義を講義する。具体的には、「律令国家の成立と日本の特質」「荘園制の形成」「治承・寿永内乱の本質と鎌倉幕府の成立」「モンゴル戦争と鎌倉末期の社会変動」「惣村成立の歴史的意義」「戦国大名領国の形成」「豊臣政権の成立と朝鮮侵略」などを取り上げる。特に中世史の部分では、最新の研究成果を摂取しながら、近年における研究状況の転換を紹介することに努める。	
専門教育	共創専門科目	多文化共生系	考古学概説Ⅰ		この講義では、考古学の成り立ちや基礎的な調査・研究方法、現代における考古学の位置付けを学び、考古学とはどのような学問なのかを理解する。また、考古学は人が残した痕跡を総合的に扱うため、極めて学際性の高い学問である。したがって、近年目覚ましい発展を遂げた自然環境や自然遺物を対象とした研究、理化学的方法を用いた研究を紹介しながら、考古学の最先端についても理解を深める。全15回の講義を通してこれらを学ぶことにより、考古学の特性を理解し、モノから歴史を復元する方法を身につける。	
専門教育	共創専門科目	多文化共生系	アジア史概説Ⅰ		世界第2の経済大国となり、世界的に巨大なプレゼンスを持つに至った隣国中国は、歴史的にいかなる特徴を有する国なのであろうか。本講義では、近代化前の中国を「伝統中国」と呼称し、「伝統中国」を生きた人々がどのような考え方の枠組みを持ち、それが彼らの行為をいかに規定していたのかを、中国歴代王朝の政治・社会のあり方に即して解説する。「伝統中国」の型を知ることで、急速に変貌する現代中国のなかに「変わらない」部分があることを知れば、分かりにくいとされる現代中国の様々な現象をより深く理解する道が開けるはずである。	
専門教育	共創専門科目	多文化共生系	西洋史概説Ⅰ		この授業では、近代西洋史研究の発展と近年の研究動向を紹介する。それに続いて、近世ヨーロッパ史上の出来事（大航海時代、宗教改革、絶対王政等）について、歴史的な知識と一般的な理解を確認したうえで、それぞれについての研究動向や各事象に関する最先端の理解（評価や解釈）、専門研究の高校世界史への反映状況を講義する。また、環境史や民衆史、心性史、政治文化史等の近年のトレンド（観点）について、上記事象に関連する具体的な事例や出来事を取り上げつつ講義する。近代西洋世界の発展を歴史学研究の観点から学ぶことを通じて、高校までの教わる・暗記する歴史から、自ら問題を発見し、思考・議論・発信する歴史学への転換を促すことをこの授業の目標とする。	
専門教育	共創専門科目	多文化共生系	文化史概説Ⅰ		本講義では、文化史学の方法論に依拠しながら日本文化の歴史を概観してみる。文化史は、政治史・法制史・経済史・戦史・外交史といった一見別のジャンルにみえる歴史に相対するものではなく、美術史・音楽史・文学史・建築史・服飾史・生活史といった個別具体的な歴史のどれかに特化するものでもない。政治から生活まで、人間の営みすべてが文化史であり、それを対象とする学問が文化史学なのである。そんな文化史学の観点からみた日本文化とは、有史以来の原始の姿がそのまま持続しているものではない。その歴史は意外なほど浅く、すべては近代以後の作為でしかないという学説もあるほどである。明治時代以後の日本におけるそうした作為の諸相を追いながら、現在も行われている日本文化に対する理解を深めてみたい。	